

第3章

アンケート調査結果

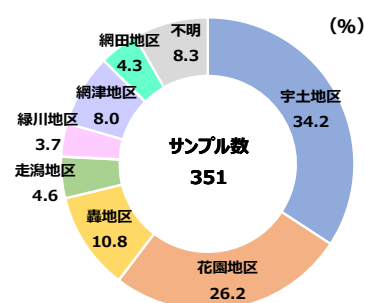
3-1 市民アンケート調査

(1) 調査結果概要

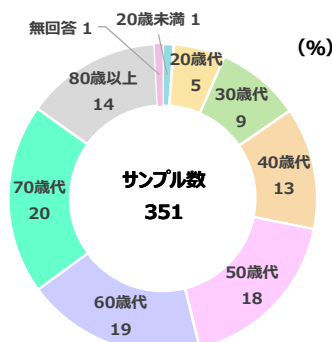
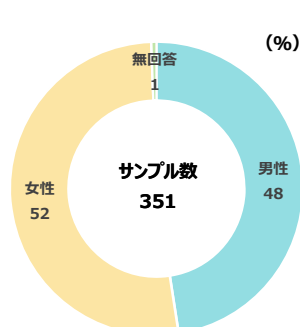
調査対象	■地域住民（18 歳以上） ■配布数：1,000 世帯（人） 1 世帯当たり世帯票 1 票,個人票 1 票 ※調査対象は,地区毎の居住者の年齢構成に配慮の上で無作為抽出 ■回収実績：351 票（回収率 35.1%）
配布・回収方法	■郵送による配布・回収
調査方法	■調査票への記入式
調査期間	■令和 3 年 8 月 20 日（金）～9 月 5 日（日）
調査内容	■世帯票 ・世帯構成員,世帯構成員の属性（性別,年齢,職業,免許保有状況など） ・日常の行動特性 ■個人票 ・属性（性別,年齢,職業,自動車保有状況など） ・運転免許証について ・日常の交通行動 ・地域公共交通の利用状況,利用する・しない理由,ニーズ, 今後の利用意向,協力の意向 など

〔世帯票〕

	配布数	サンプル数	回収率（%）
宇土地区	359	120	33.4
花園地区	276	92	33.3
轟地区	85	38	44.7
走潟地区	56	16	28.6
緑川地区	58	13	22.4
網津地区	85	28	32.9
網田地区	81	15	18.5
不明		29	-
合計	1,000	351	35.1



〔個人票〕



(2) 世帯構成の状況(世帯票より)

- 世帯構成人員は、全体では 1 人世帯が約 2 割、2 人世帯が約 3 割となっています。
- 地区別では、走潟地区や緑川地区、網津地区、網田地区といった市街地から離れている地区で 1 人世帯が多い状況です。
- なお、世帯構成を見ると、緑川地区や網津地区などにおいて高齢者単独世帯（60 歳以上の単独世帯）が約 2 割を占める状況です。
- 全体的に、高齢者夫婦世帯や高齢者単独世帯は約 3 割となっています。

図 世帯構成人員

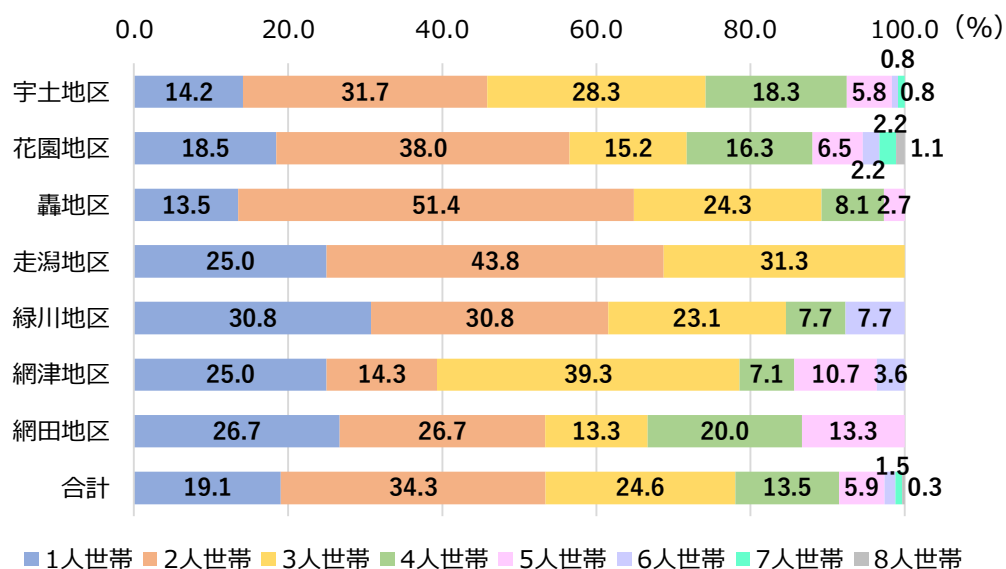
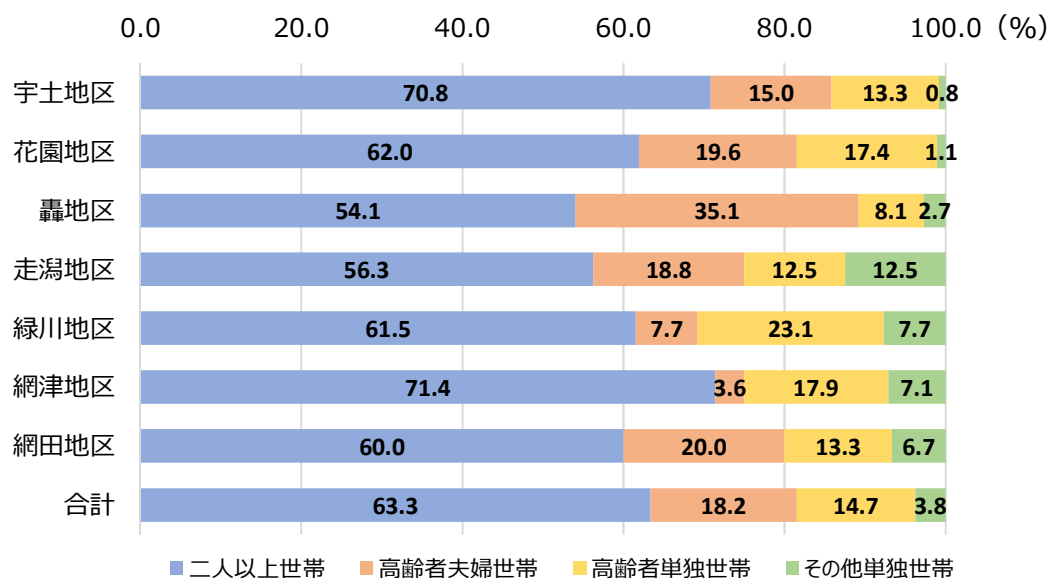


図 世帯構成



(3) 世帯構成員の状況(世帯票より)

- 運転免許証の保有状況は、全体で約 8 割が保有している状況ですが、残り 2 割は保有していない状況です。
- 特に、宇土地区や花園地区、轟地区では未保有者が約 2 割と多くっており、市街地部に近いこと、家族などの送迎があること、公共交通が比較的充実していることなどが影響していることがうかがえます。
- 外出頻度は、全体で約 7 割がほぼ毎日（1 週間ほぼ毎日＋平日ほぼ毎日）外出している状況であり、地区によって大きな違いは見られませんが、緑川地区と網津地区で若干外出頻度が低い状況にあります。

図 運転免許証の保有状況

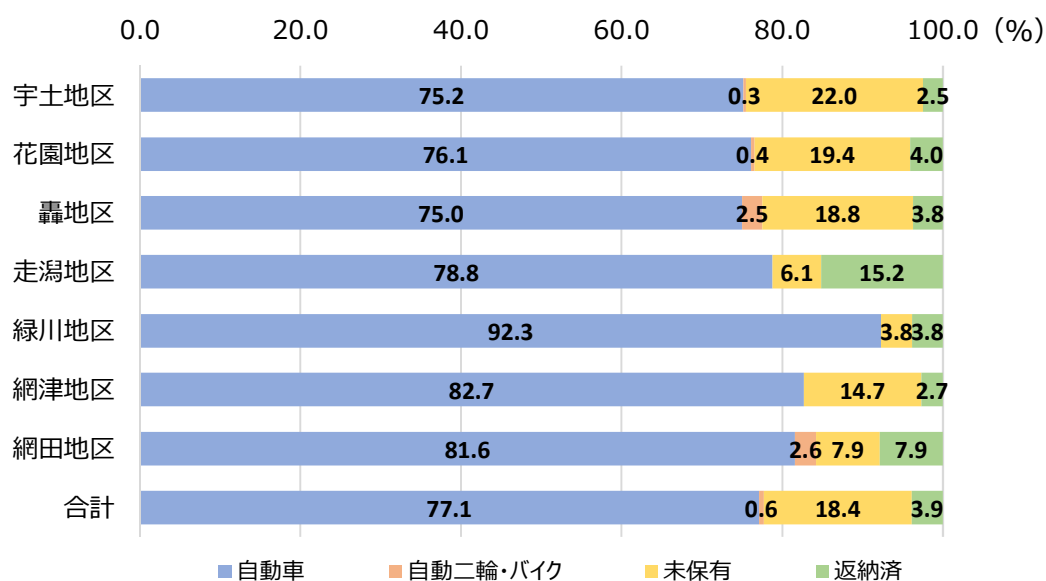
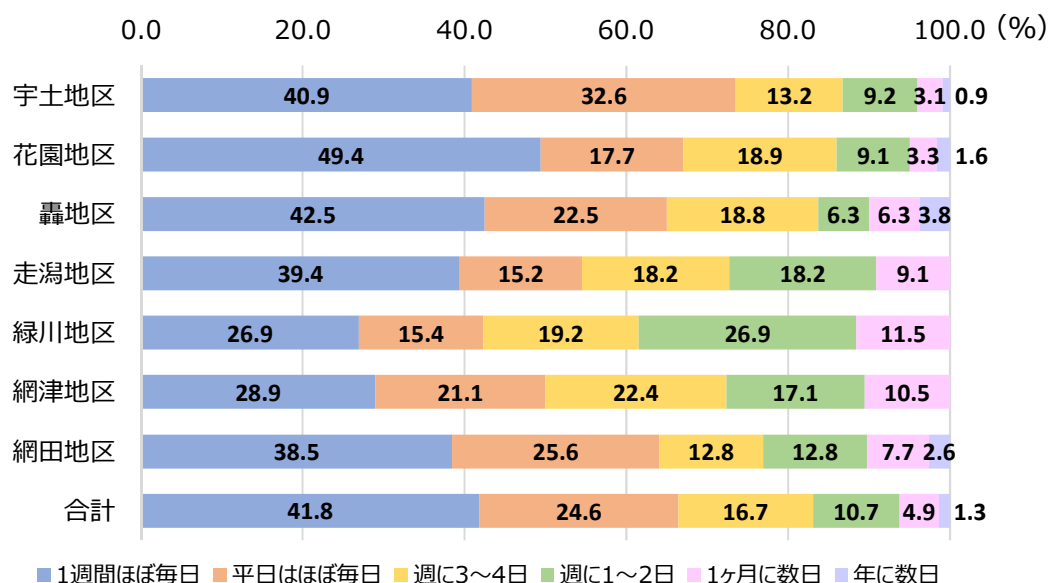
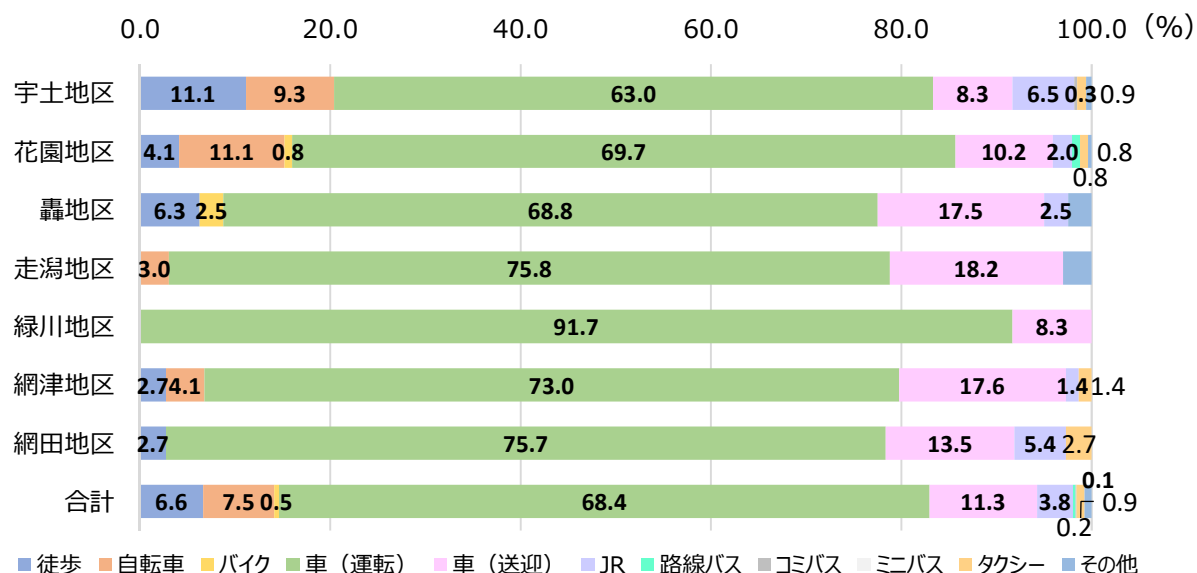


図 外出頻度



- 外出時の移動手段は、全体で約 7 割が車（運転）となっており、次いで車（送迎）が 1 割となっており、公共交通機関の利用は少ない状況です。
- 市街地に近い宇土地区や花園地区では、自転車での移動も約 1 割と比較的多くなっています。
- 公共交通機関の利用は、JR やタクシーの利用が多く、路線バスやコミバス、ミニバスの利用は少ない状況です。

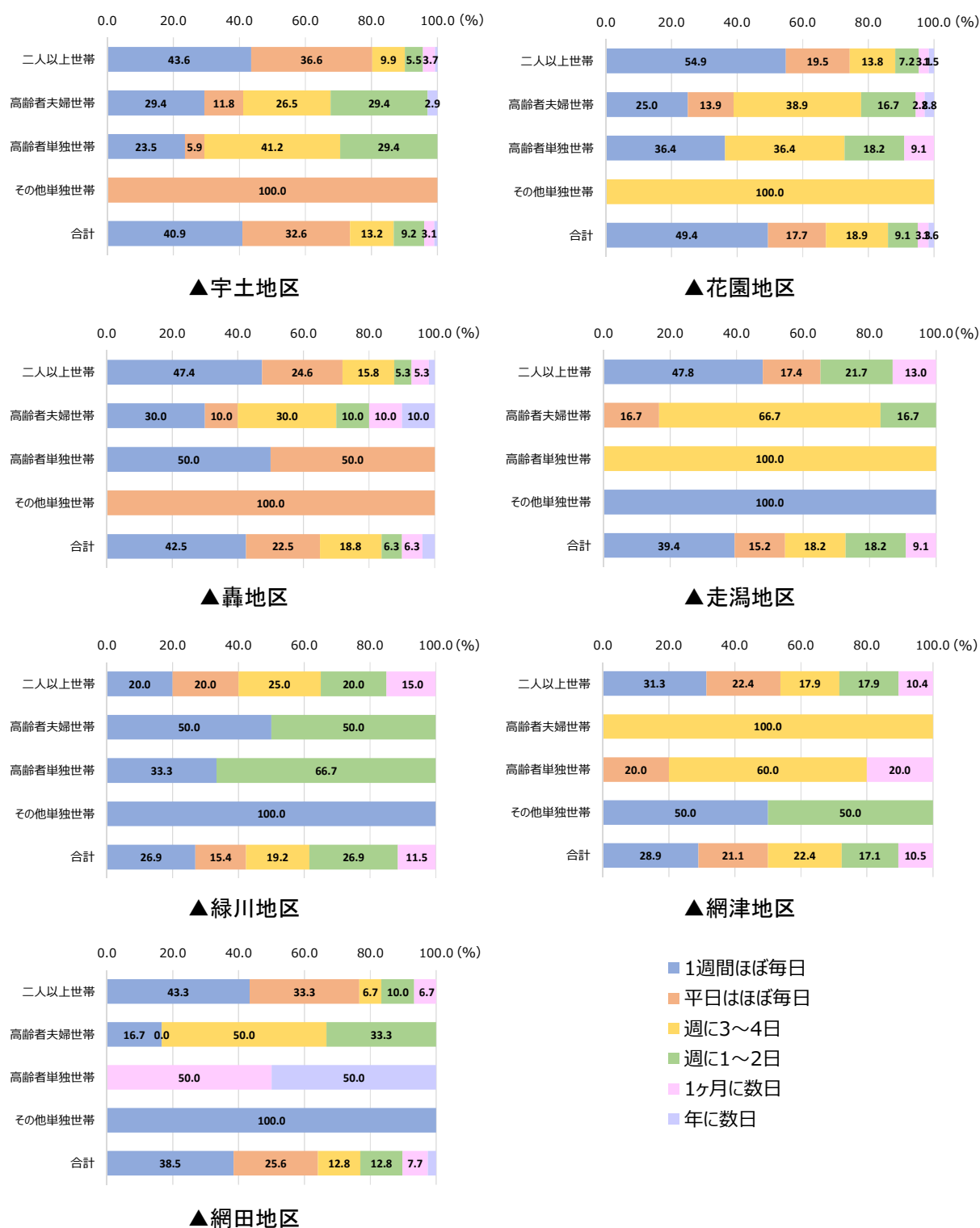
図 外出時の移動手段



(4) 地区別・世帯構成別の外出状況(世帯票より)

- ・多くの地区で、外出頻度が二人以上世帯＞高齢者夫婦世帯＞高齢者単独世帯の順に多くなっています。
- ・宇土地区や花園地区、轟地区、緑川地区ではほぼ毎日外出している人も見られますが、その他地区では外出頻度が大きく減少しており、網津地区や網田地区では 1 ヶ月に数日の人も見られる状況です。

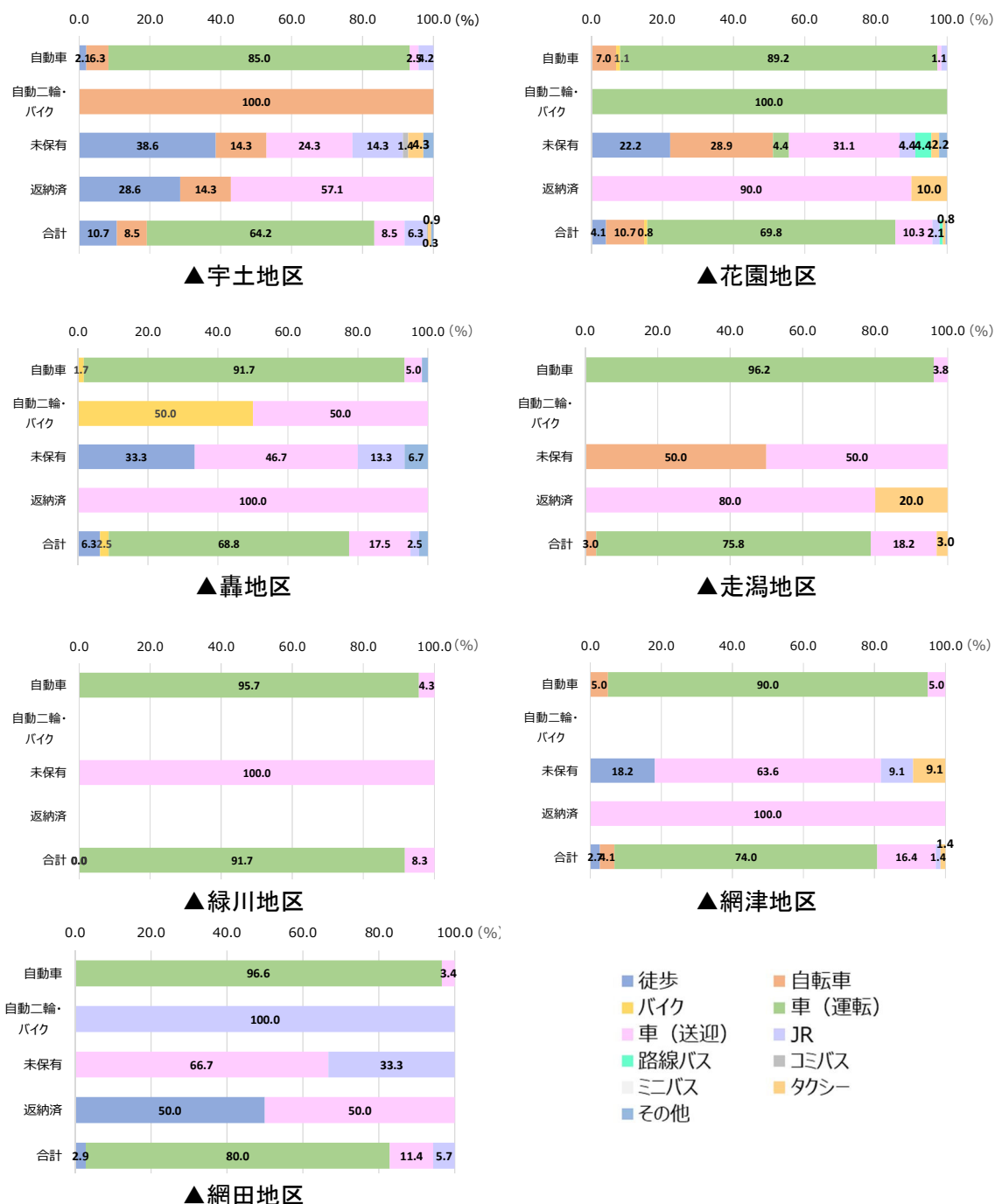
図 地区別・世帯構成別の外出状況



(5) 地区別・免許保有別の移動手段(世帯票より)

- ・運転免許証未保有者の移動手段は、徒歩や自転車以外では車（送迎）に大きく依存している状況です。
- ・特に、運転免許証を返納した人においては、車（送迎）もしくはタクシーとなっており、公共交通の利用は見られない状況などから、免許返納前の生活様式などに依存していることがうかがえます。
- ・元々運転免許証を保有していない人で、JR や路線バスなどが利用可能な環境な人（宇土地区、花園地区、轟地区、網津地区、網田地区など）では、公共交通機関の利用も若干見られる状況です。

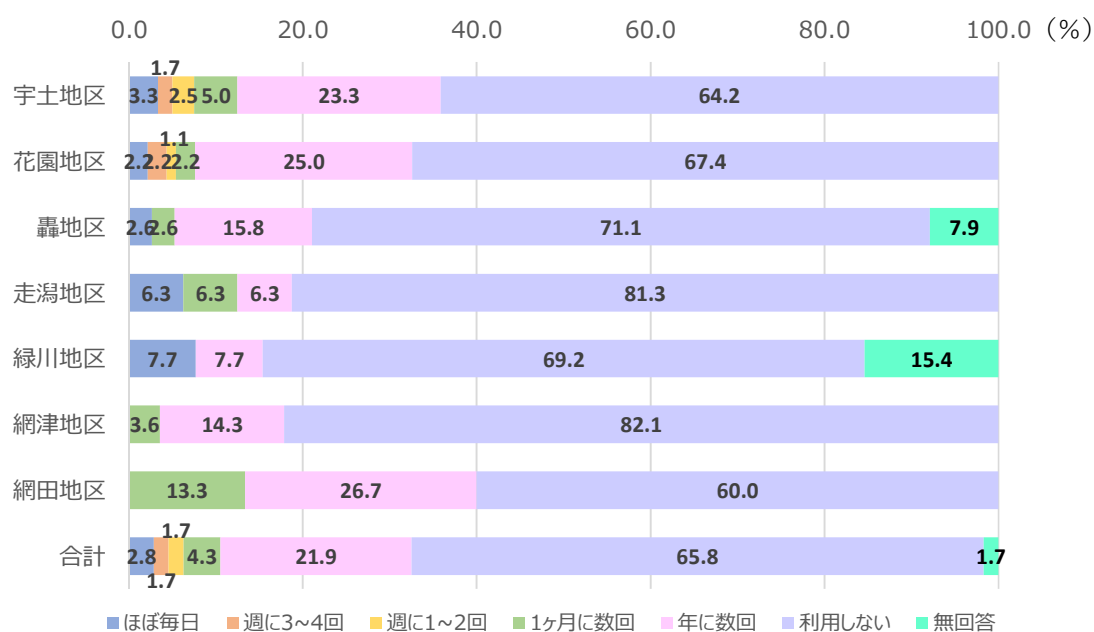
図 地区別・免許保有別の移動手段



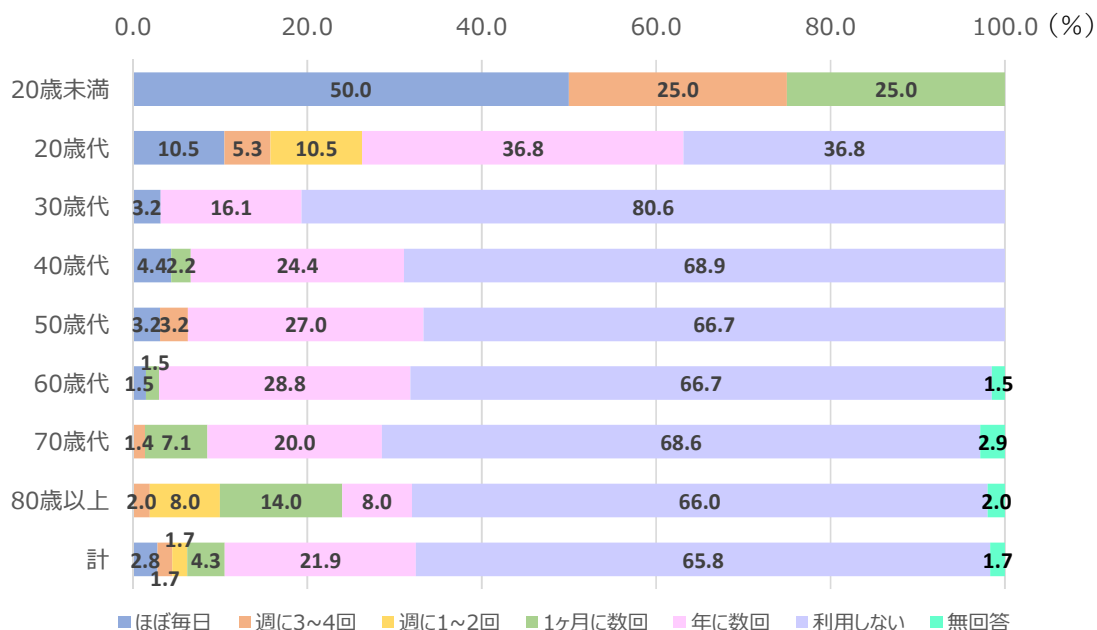
(6)地域公共交通の利用状況(個人票より)

- ・地域公共交通の利用状況は,市全体で「利用しない」が6割以上を占めており,「年に数回」と併せると9割を占め,地域公共交通の利用は少ない状況です。
- ・地区別では,ほぼ毎日,通勤通学で利用している人も見られますが,全体的に少ない状況で,最も利用頻度が多い宇土地区でも,1ヶ月に1回以上の利用は約1割となっています。
- ・年代別でみると,20歳未満及び20歳代の学生や70歳以上の高齢者において,比較的利用頻度が多くなっていますが,80歳以上でも「利用しない」人が約7割となっています。

図 地域公共交通の利用状況



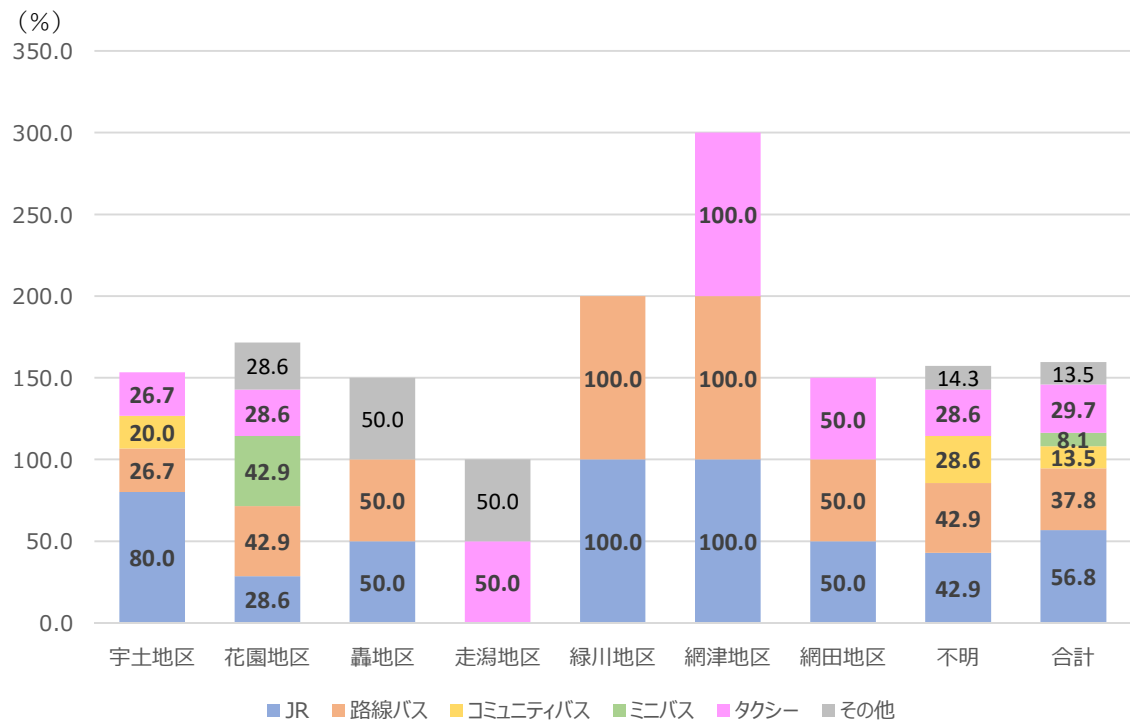
▲地区別



▲年代別

- 利用する地域公共交通は地区によってばらつきが見られますが、市全体として JR が最も多く、次いで路線バス、タクシーの順となっています。

図 利用する地域公共交通（複数回答）

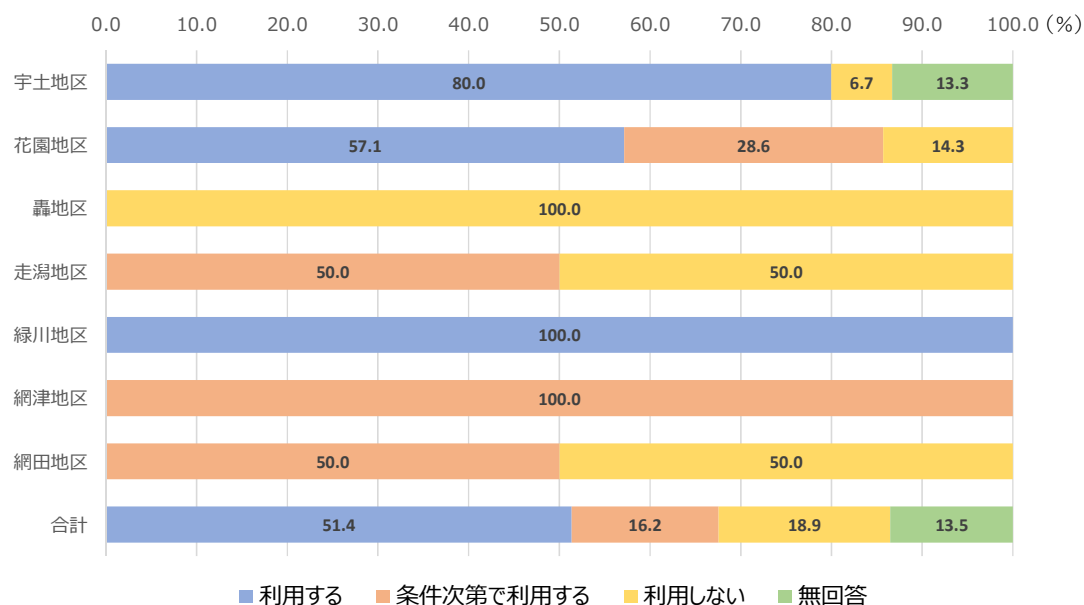


(7)地域公共交通の今後の利用意向(個人票より)

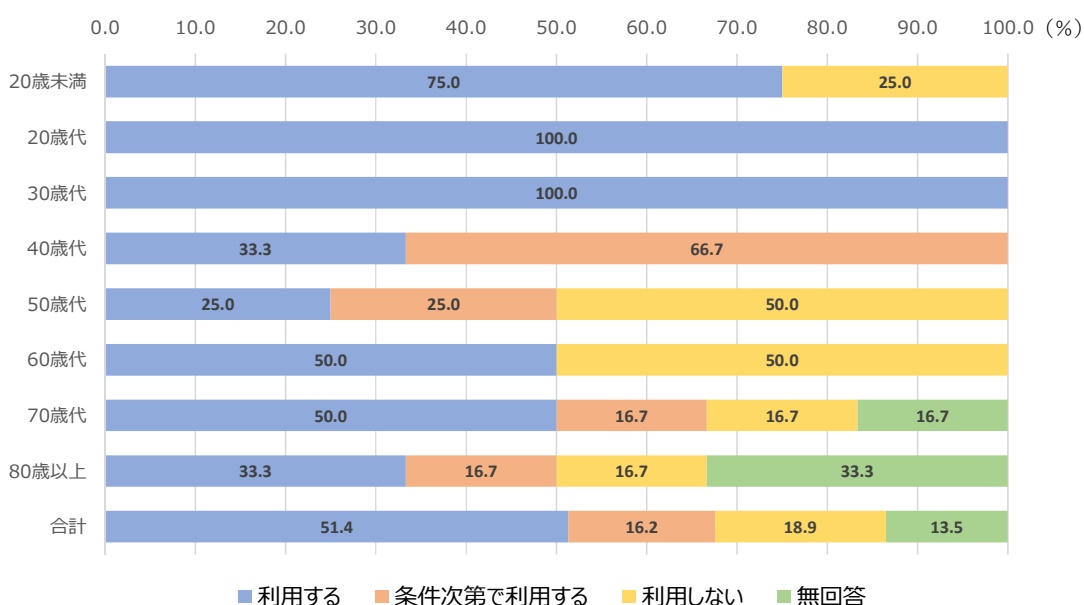
※仮に乗り継ぎを前提とした公共交通体系への利用意向

- 現在の地域公共交通利用者においては、市全体で約 5 割が今後も利用すると回答しており「条件次第で利用する」と併せると約 7 割となっていますが、約 2 割は利用しない意向です。
- 地区別でも、宇土・花園・緑川地区など、現在の地域公共交通が比較的充実している地域では利用意向が高いですが、それ以外の地域では低い状況です。
- また、年代別でも、30 歳代以下の比較的若い年齢層では利用意向が高くなっていますが、高齢者では利用意向が低く、乗り継ぎに伴う移動や待ち時間などの利用負荷の影響がうかがえます。

図 地域公共交通の利用意向



▲地区別

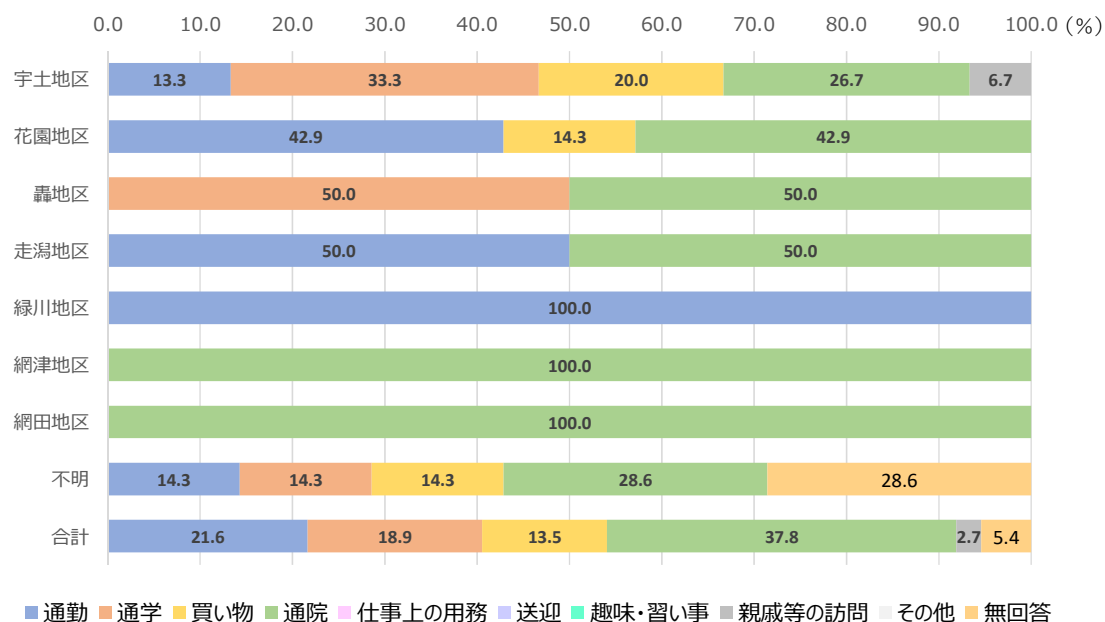


▲年代別

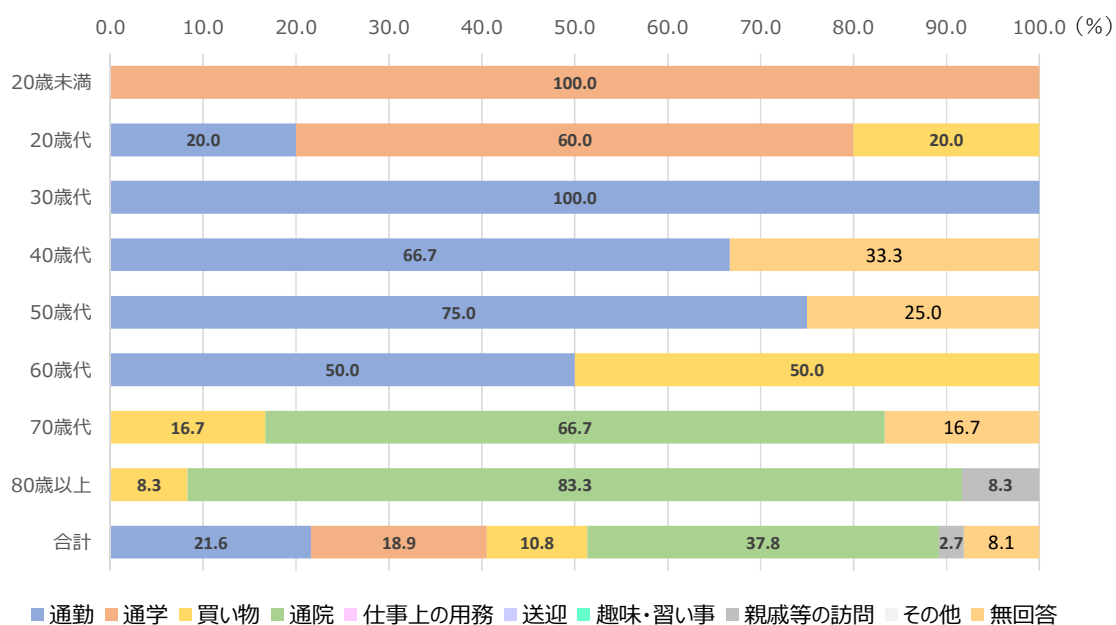
(8)地域公共交通の利用目的と利用する理由(個人票より)

- ・地域公共交通の利用目的は,市全体で「通院」が最も多く,約 4 割を占めており,次いで「通勤」「通学」となっています。
- ・地区別では,宇土・花園・走潟・緑川地区などでは「通勤」目的も見られます。

図 地域公共交通の利用目的



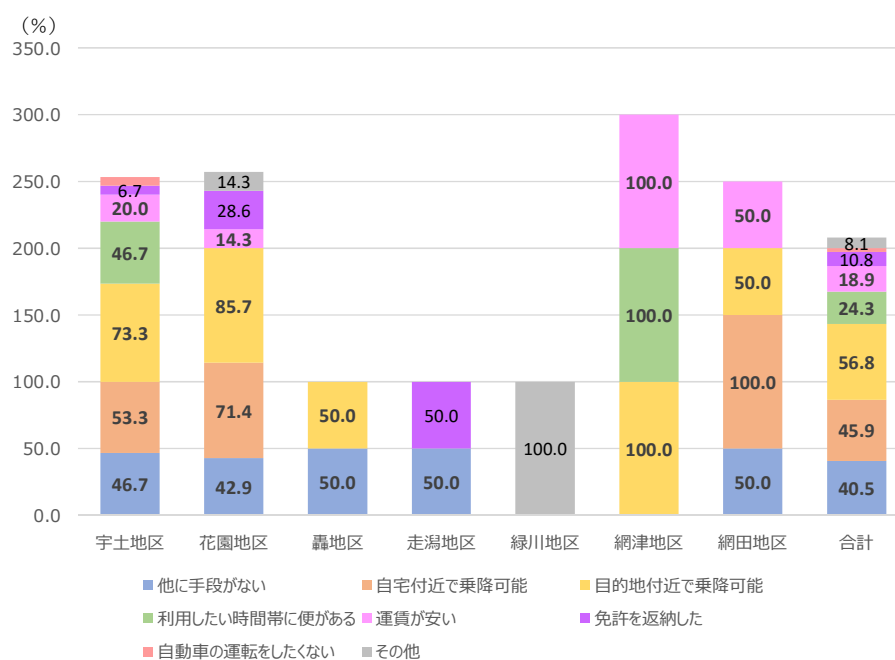
▲地区別



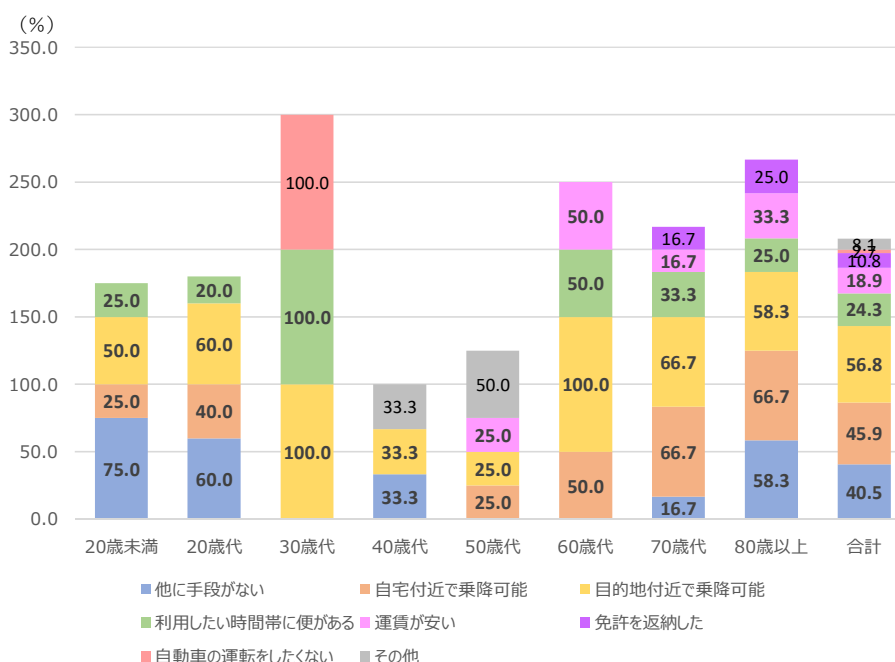
▲年代別

- ・地域公共交通を利用する理由としては、「目的地付近で乗降可能」が5割以上と最も多く、利用するにあたって重要視する項目でも「直接目的地までいける」が最も多くなっており、目的施設などへのアクセス性が重要視されている状況です。
- ・その他、「自宅付近で乗降可能」や「他に交通手段がない」といった理由が多くなっています。
- ・年代別では、20歳未満及び20歳代では「通学」、30～60歳代では「通勤」、70歳以上では「通院」が多くなっています。
- ・利用する理由としては、高齢になるほど「自宅付近で乗降可能」が占める割合が大きくなっています。

図 地域公共交通を利用する理由

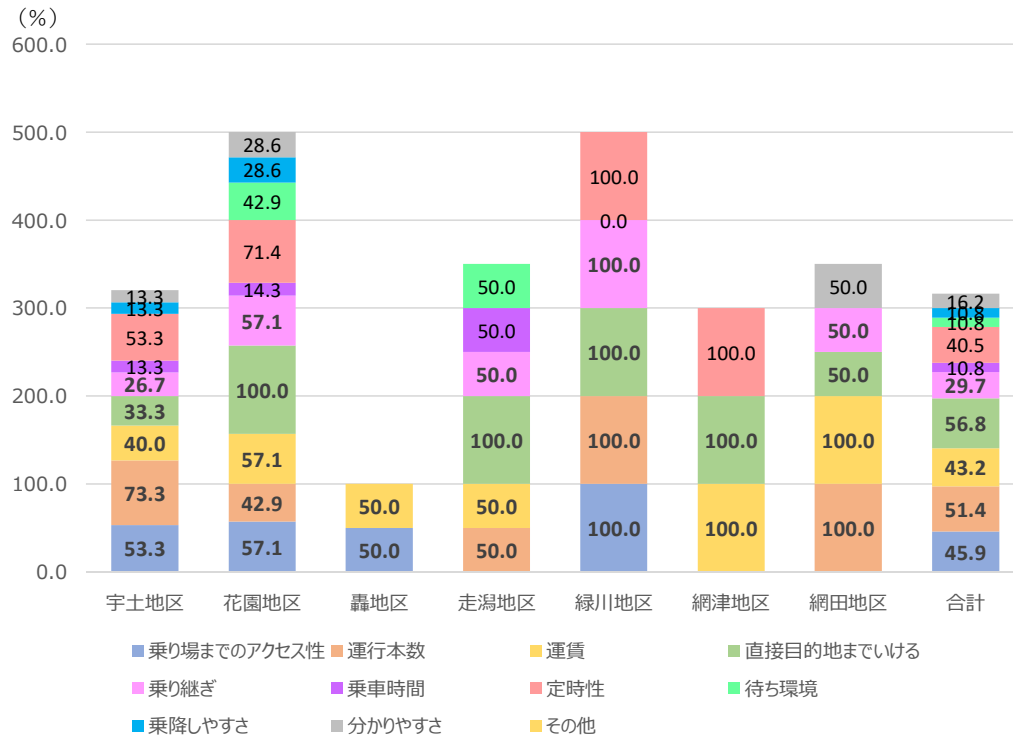


▲地区別

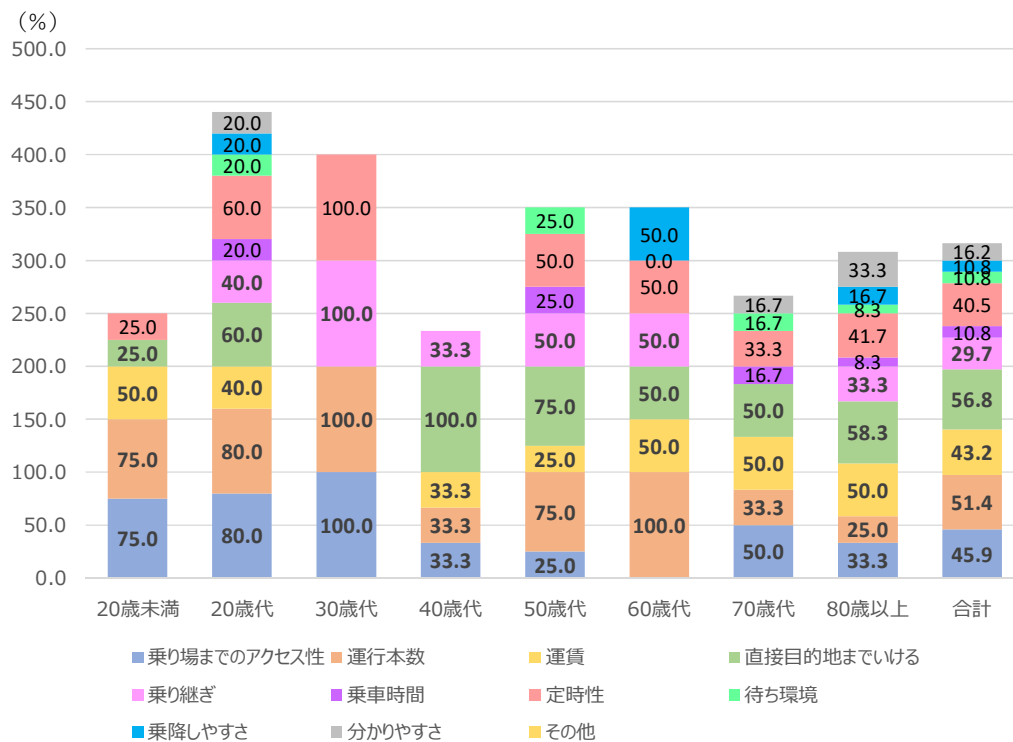


▲年代別

図 地域公共交通を利用するにあたって重要視する項目



▲地区別



▲年代別

(9)地域公共交通の満足度(個人票より) ※利用者のみ

- ・地域公共交通に対する満足度は、市全体で見ると「運行間隔,運行本数」「運行時間帯」に対して約4割と比較的高くなっていますが、「運行ルート」に対しては満足度が低い状況です。
- ・地区別では、宇土地区において他地区と比較して「運行ルート」に対する満足度が若干低い状況です。

図 自宅からバス停・駅までの距離

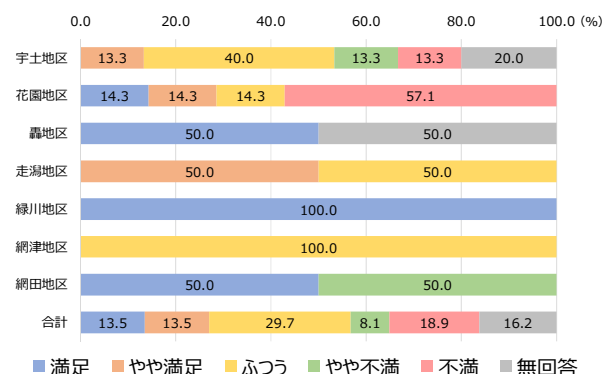


図 運行ルート

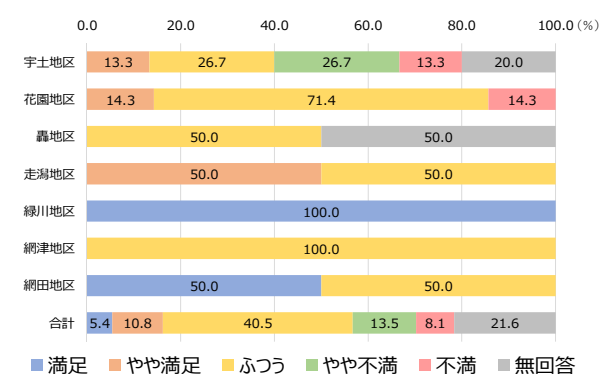


図 運行間隔, 運行本数

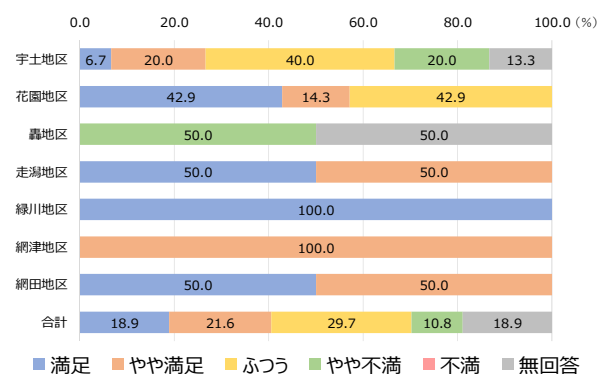


図 運行曜日

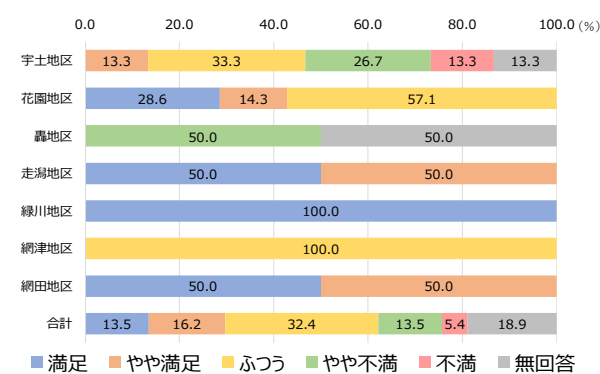


図 運行時間帯

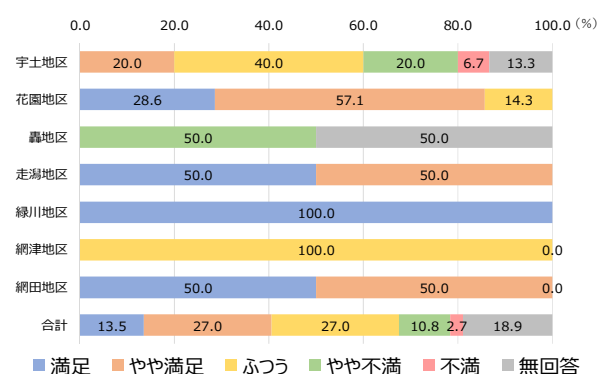
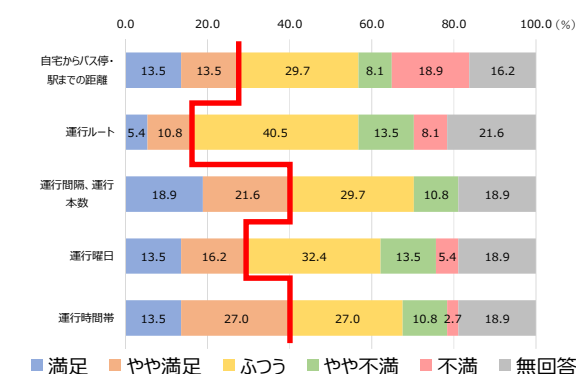


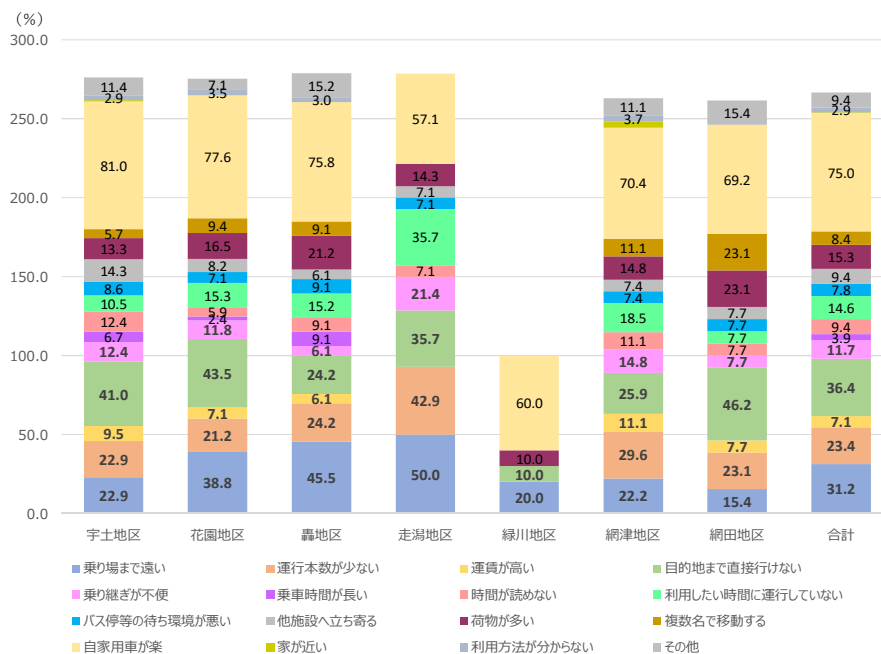
図 市全体：項目別



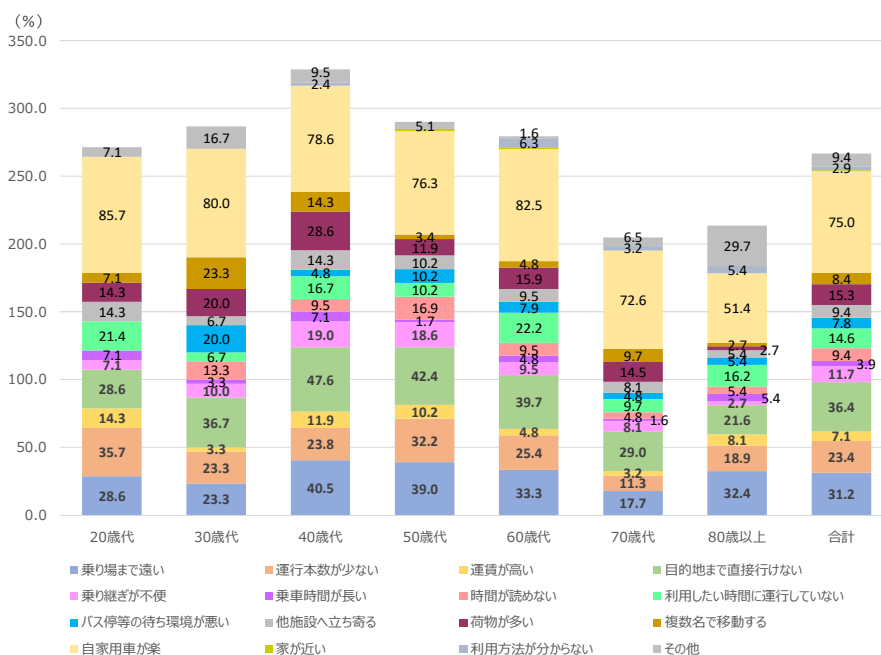
(10)地域公共交通を利用しない理由と今後の利用意向等(個人票より)

- ・地域公共交通を利用しない理由としては,市全体で「自家用車が楽」といった回答が7割以上と最も多く,次いで「目的地まで直接行けない」と理由が挙がっています。
- ・地区別では,轟地区や走潟地区において,「乗り場まで遠い」が2番目に多く,他地区と異なる状況です。
- ・同様に,80歳以上の高齢者においても「乗り場まで遠い」が比較的多くなっています。

図 地域公共交通を利用しない理由



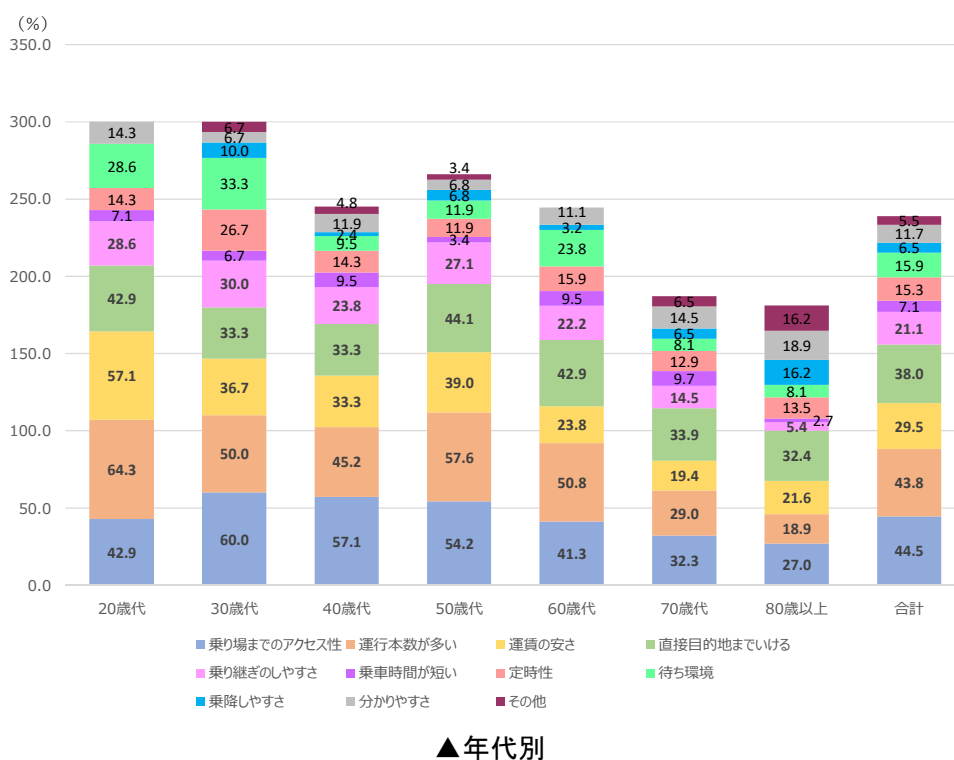
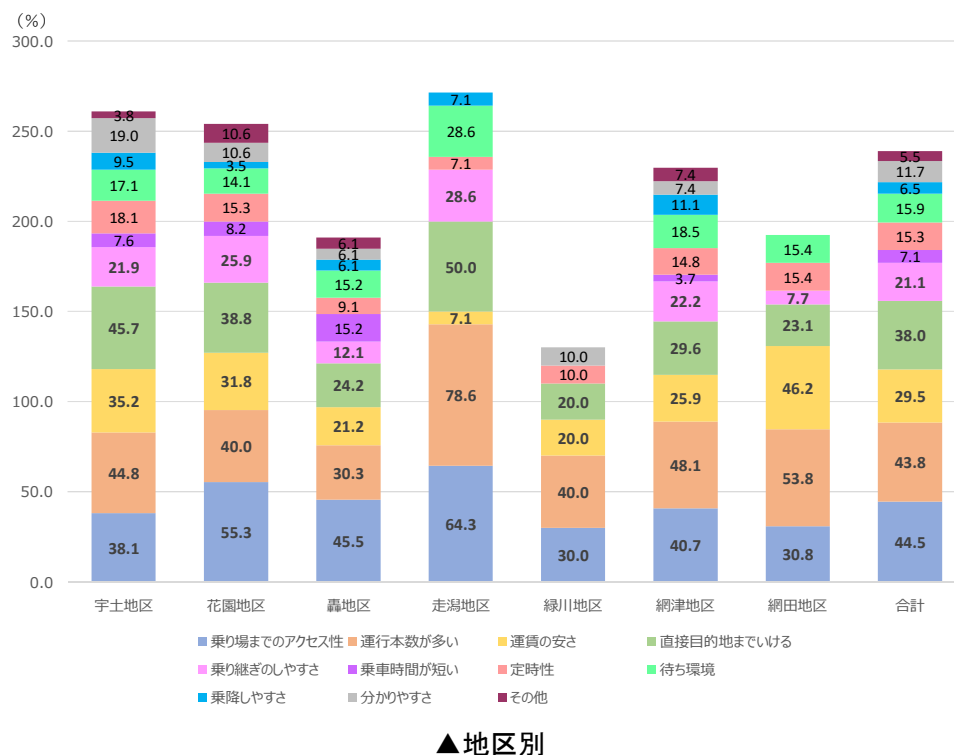
▲地区別



▲年代別

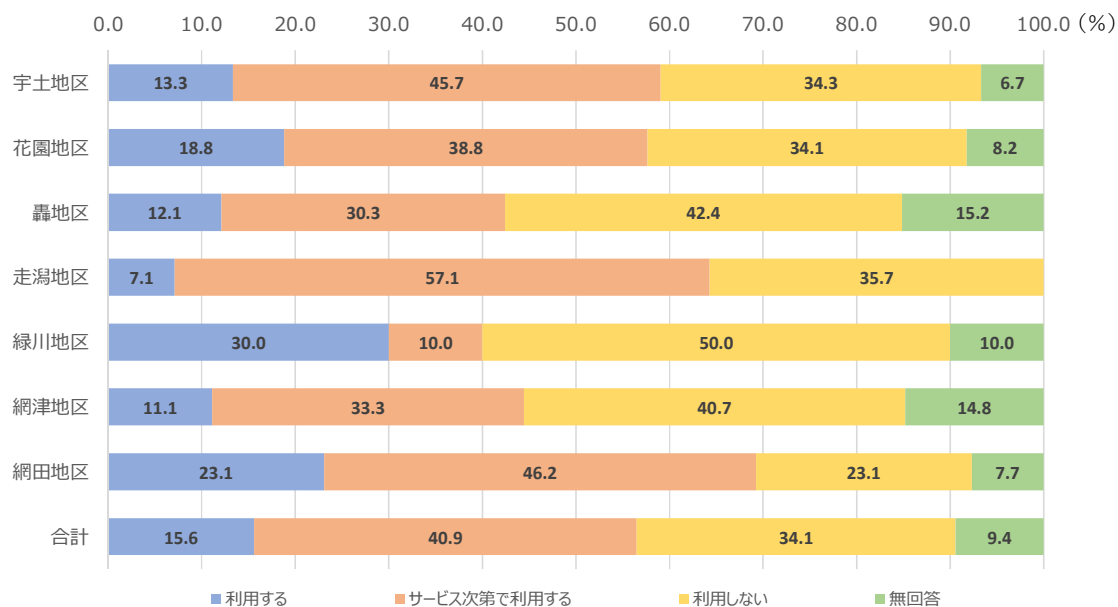
- ・地域公共交通を利用するにあたって求めるサービスは、「乗り場までのアクセス性」,「運行本数が多い」,「直接目的地までいける」の順で多くなっており,走潟地区では特に運行本数を求める声が多くなっています。
- ・年代別で見ると,高齢になるほど「直接目的地までいける（施設へのアクセス性）」を重視する状況です。

図 地域公共交通を利用するにあたって求めるサービス

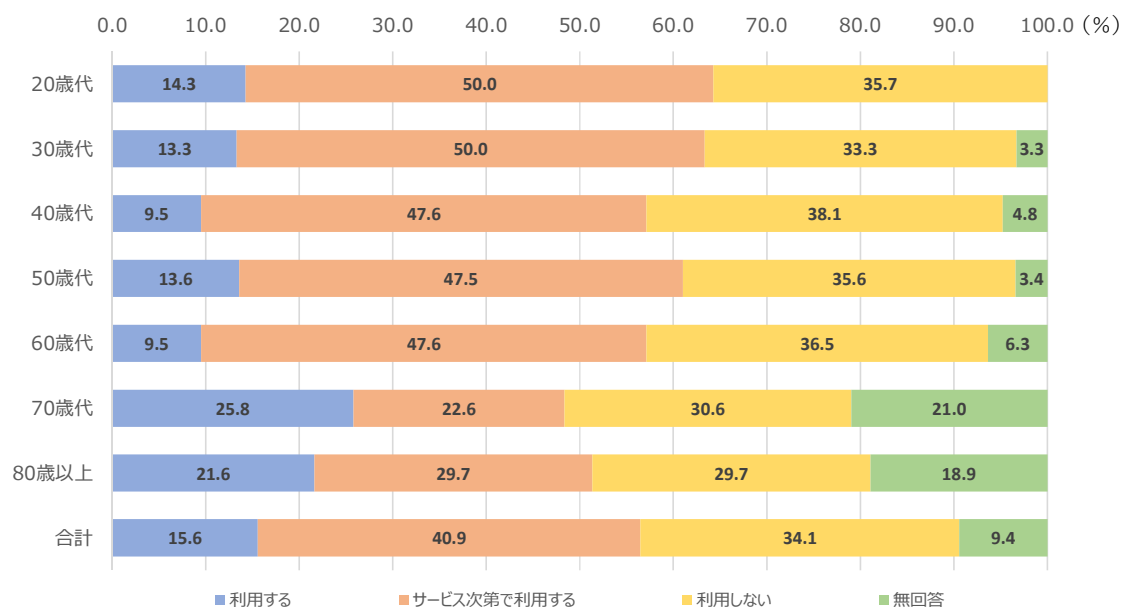


- ・地域公共交通の利用意向は、市全体で「利用する」が 1 割強となっており、「サービス次第で利用する」と「利用しない」で 7 割以上となっています。
- ・地区別では、緑川地区や網田地区で利用意向が高くなっており、年代別では 70 歳以上の高齢者で利用意向が高い状況です。

図 地域公共交通の利用意向



▲地区別

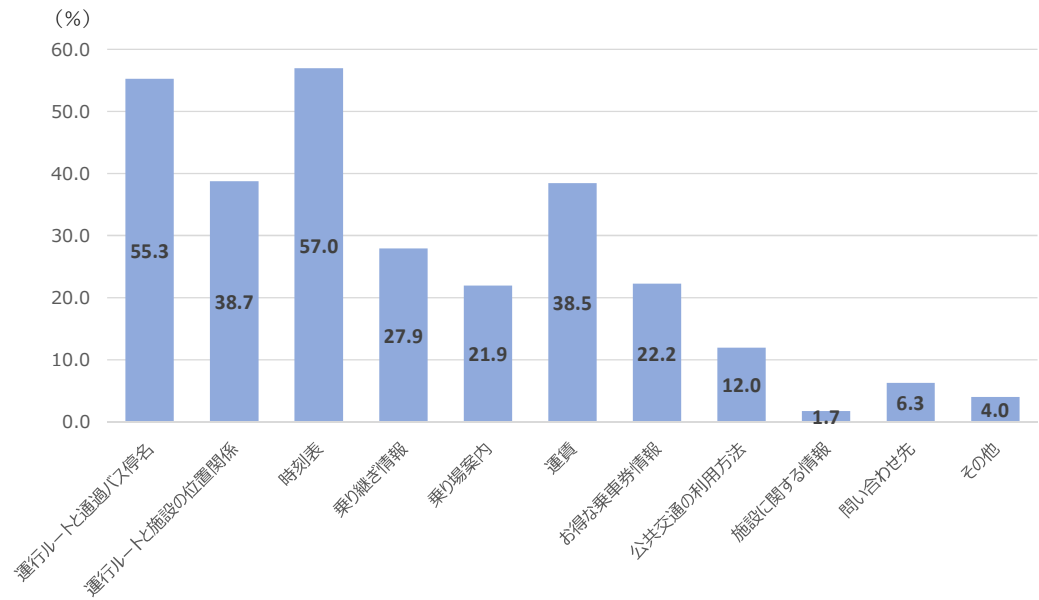


▲年代別

(11)地域公共交通を利用するにあたって必要な情報(個人票より)

- ・地域公共交通を利用するにあたって必要な情報としては、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」が多くなっており、路線図などの分かりやすさが重要です。

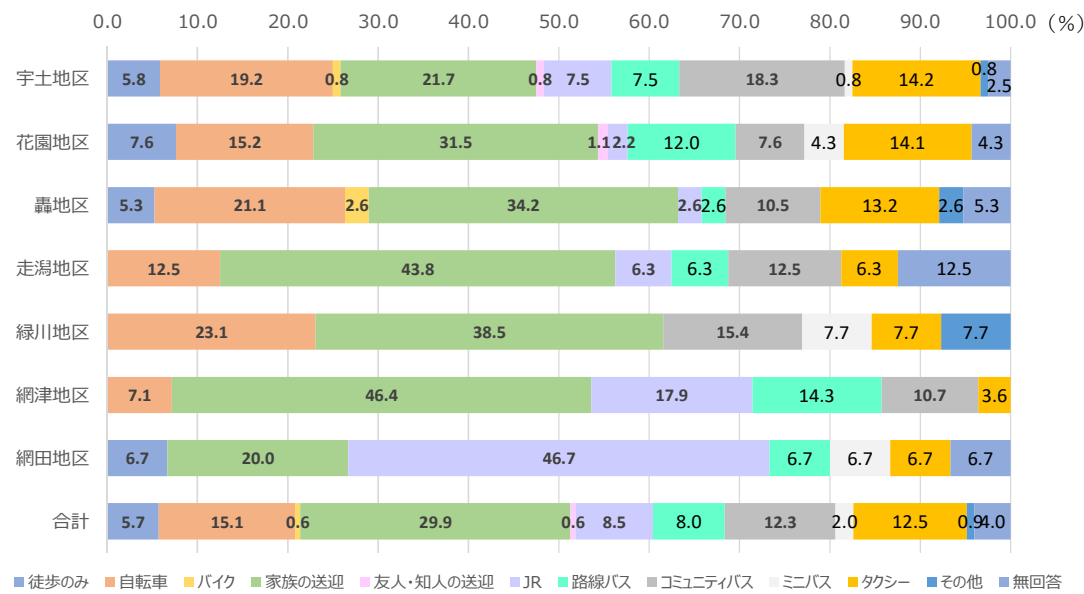
図 地域公共交通を利用するにあたって必要な情報



(12)地域公共交通などに対する今後のあり方等(個人票より)

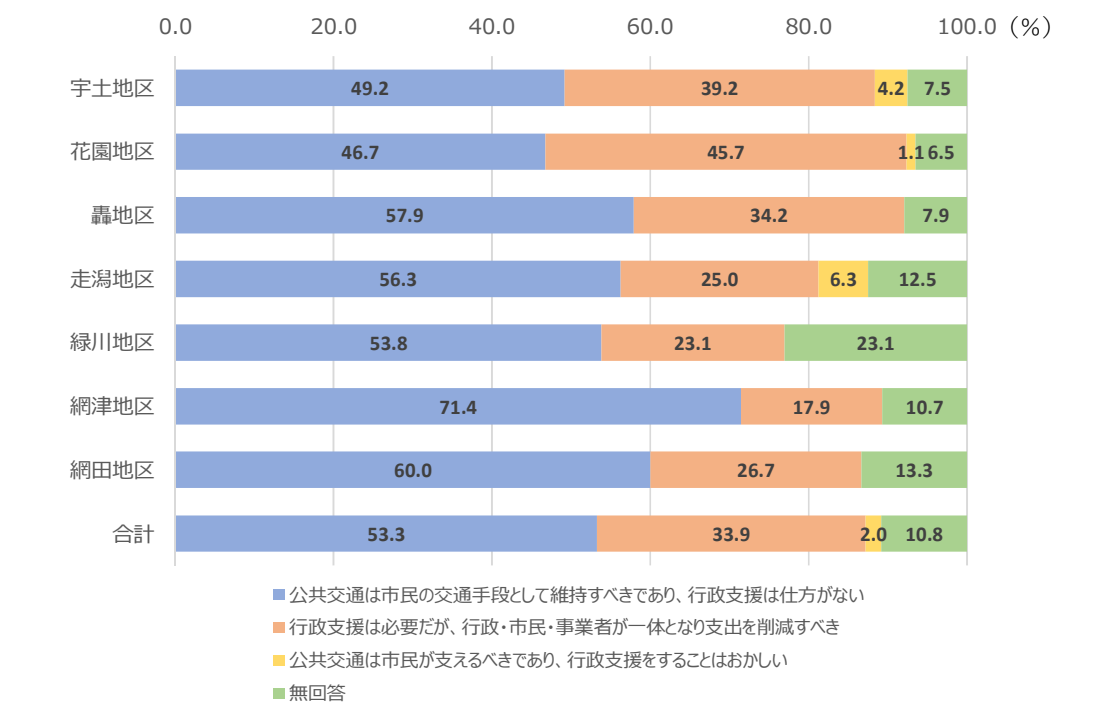
- ・自動車などの運転ができなくなった場合の将来的な移動手段として、「家族の送迎」を考えている人が約 3 割となっていますが、JR や路線バス、コミュニティバス、ミニバスなどの地域公共交通を考えている人も約 4 割存在する状況です。

図 将来的な移動手段

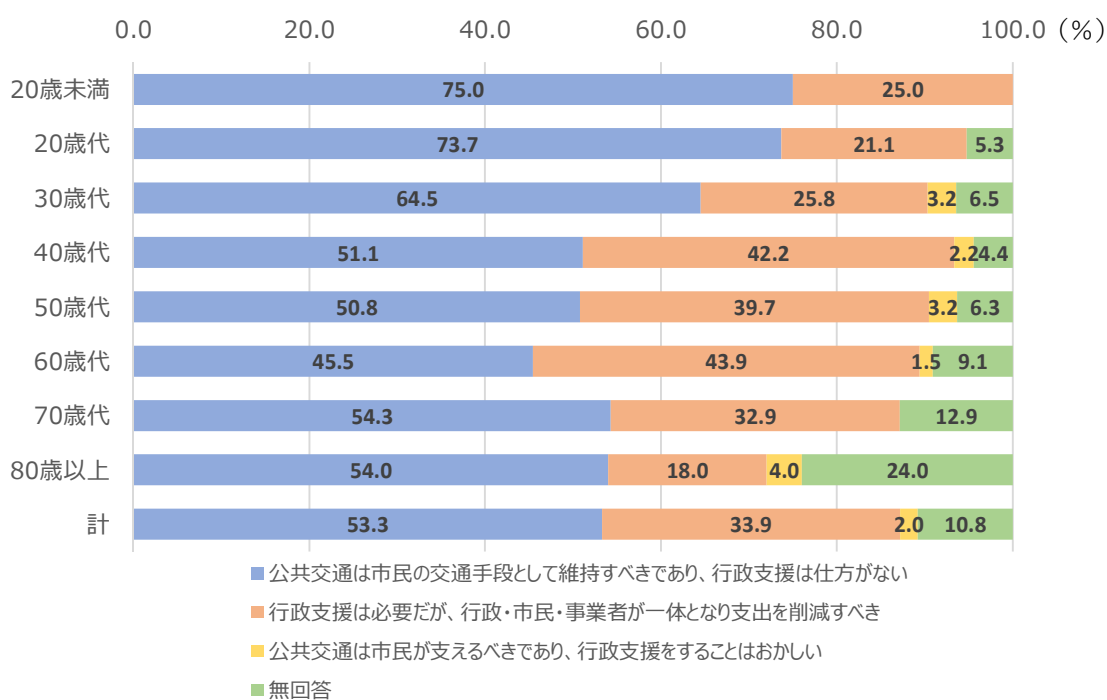


- ・地域公共交通の今後のあり方については、市全体で「公共交通は市民の交通手段として維持すべきであり、行政支援は仕方がない」が約 5 割となっており、地区別に大きな違いは見られない状況です。
- ・一方、年代別では、若い世代ほどそれらの意見が多い状況です。

図 地域公共交通の今後のあり方



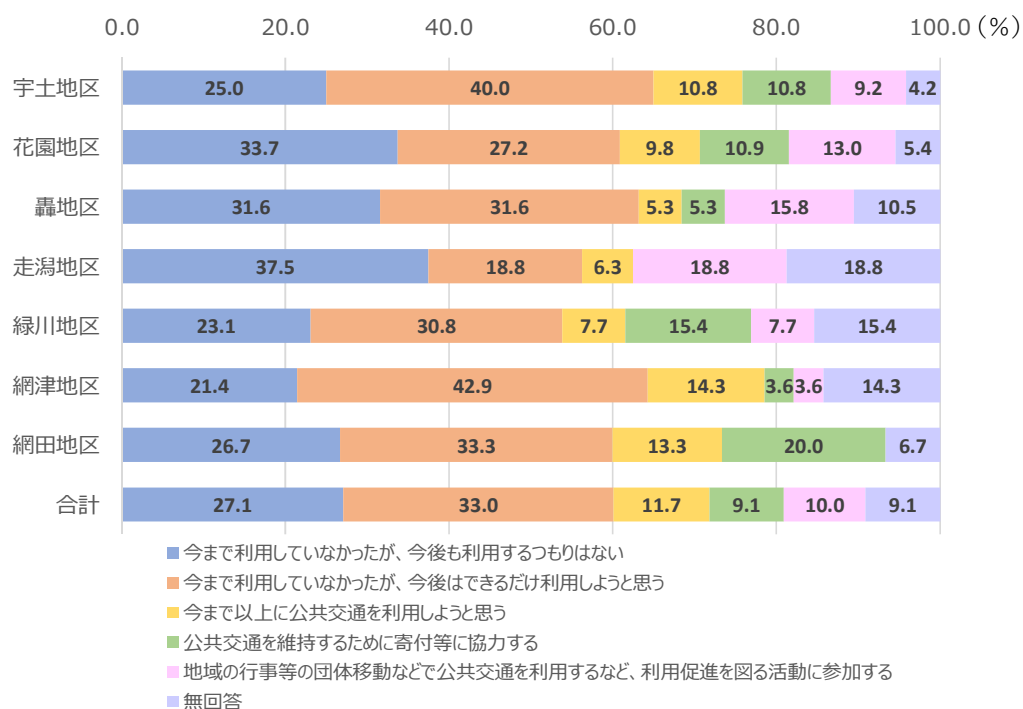
▲地区別



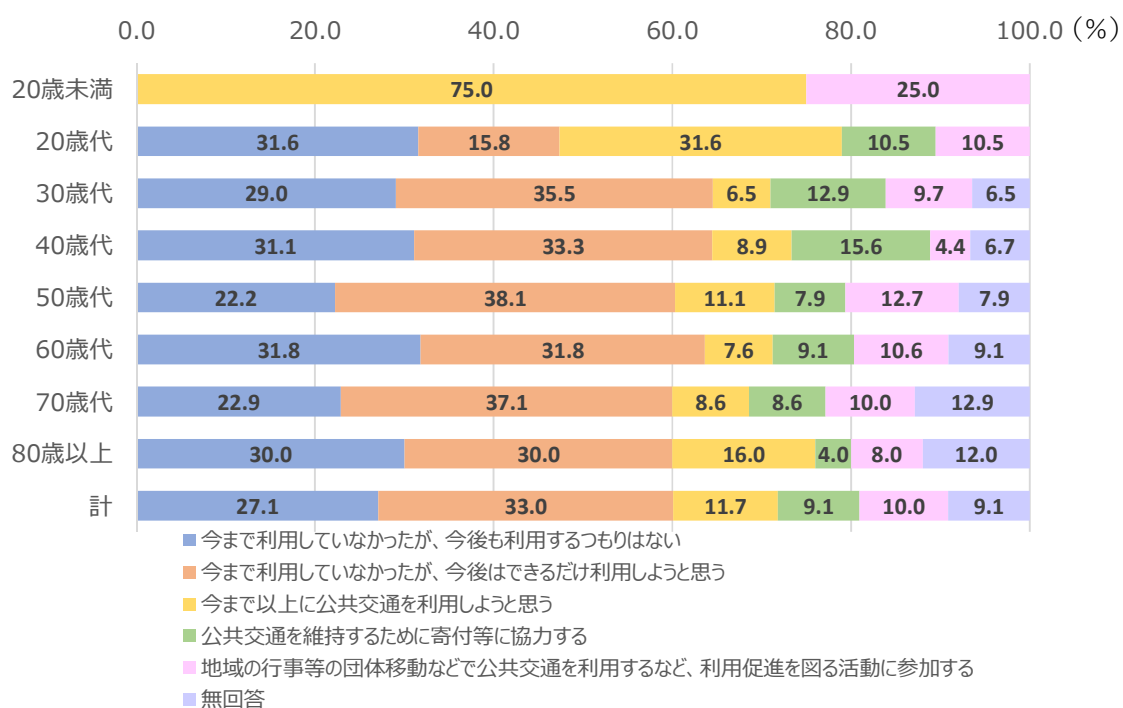
▲年代別

- ・今後の協力意向は、市全体で「今まで利用していなかったが、今後はできるだけ利用しようと思う」が約3割となっていますが、「今後も利用するつもりはない」も同程度を占めています。
- ・年代別では、若い世代や80歳以上の高齢者等において、「今まで以上に公共交通を利用しようと思う」と回答した人が、他の年代と比較して若干多い状況です。

図 地域公共交通に対する今後の協力意向



▲地区別



▲年代別

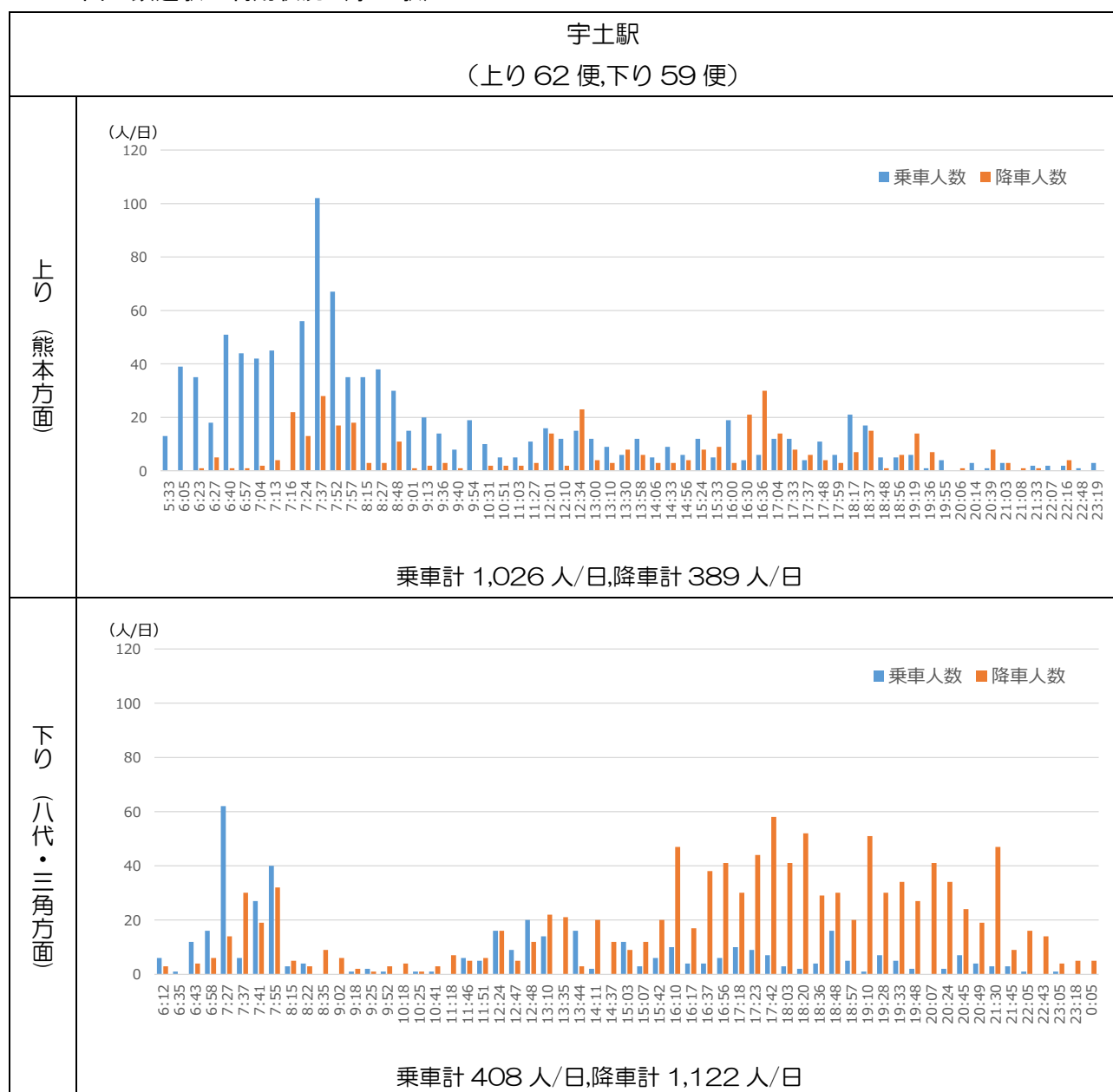
(1) 地域公共交通の利用状況

調査対象	■駅利用者 ■平日1日（3駅：宇土駅、住吉駅、網田駅）
調査方法	■利用者による記入で調査を実施
調査期間	■令和3年10月7日（木）
調査内容	・属性（居住地、性別、年齢、職業など） ・利用状況（目的・目的地、頻度、利用区間、利用時間帯など） ・自宅から乗車駅までの交通手段・距離 ※乗り継ぎの有無 ・降車駅から目的地までの交通手段・距離 ※乗り継ぎの有無 ・地域公共交通の満足度（運賃、便数、運行時間、経路、バス待ち・乗り継ぎ環境など） ・地域公共交通へのニーズ（最低限必要なサービス）、今後の利用意向 ・地域公共交通に対する要望、意見 など

調査対象	■路線バス・コミュニティバス・ミニバスの利用者 ■平日1日：全路線（宇土市＋宇城市の移動のみ）
調査方法	■調査員が車内に乗り込み、利用者による記入式 ※コミュニティバス・ミニバスについては利用者が不特定日に利用することが想定されるため、車内に調査票を据え置き運転手に声掛けを依頼（1ヶ月間程度）
調査期間	■令和3年10月7日（木）～8日（金）
調査内容	※乗車バス停、降車バス停は目視で全利用者把握 ・属性（居住地、性別、年齢、職業など） ・利用状況（目的・目的地、頻度、利用区間、利用時間帯など） ・自宅から乗車停留所までの交通手段・距離 ※乗り継ぎの有無 ・降車停留所から目的地までの交通手段・距離 ※乗り継ぎの有無 ・地域公共交通の満足度（運賃、便数、運行時間、経路、バス待ち・乗り継ぎ環境など） ・地域公共交通へのニーズ（最低限必要なサービス）、今後の利用意向 ・地域公共交通に対する要望、意見 など

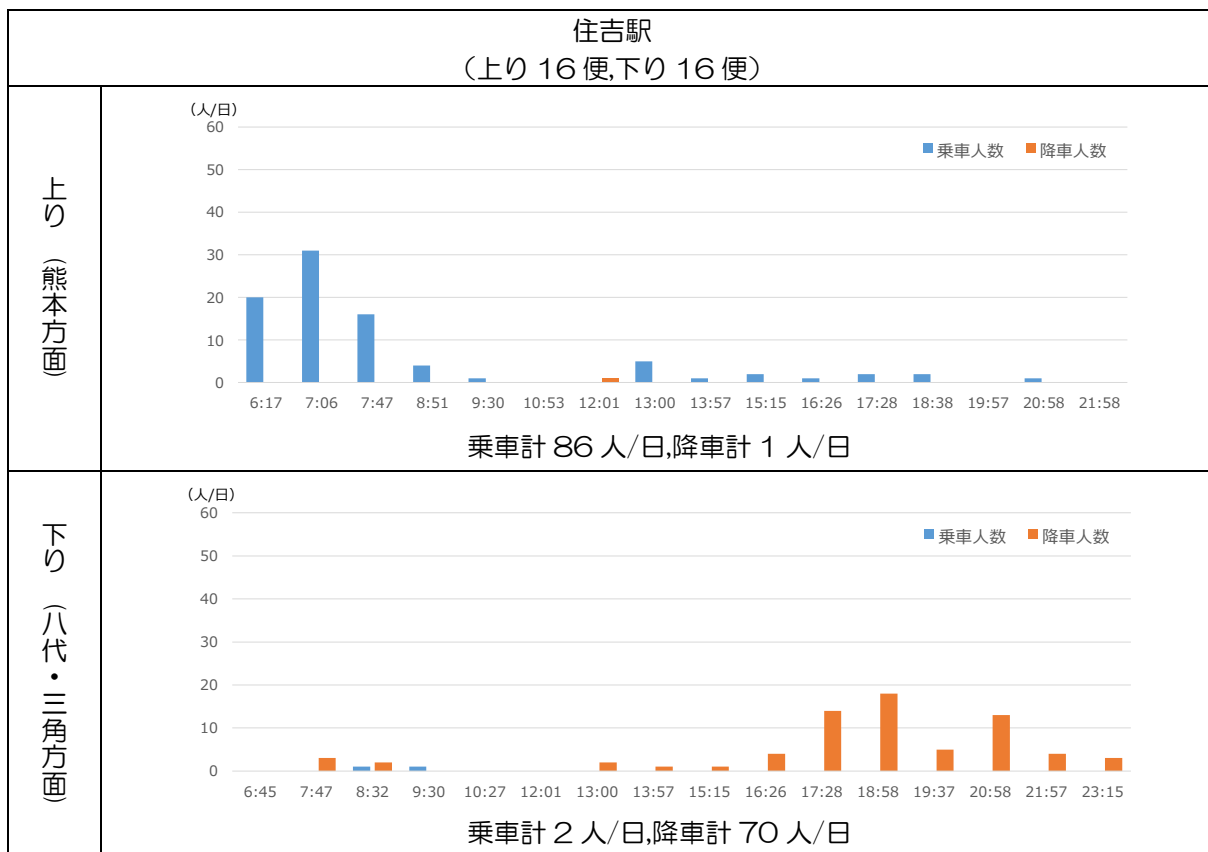
1) 鉄道駅の利用状況

図 鉄道駅の利用状況（宇土駅）



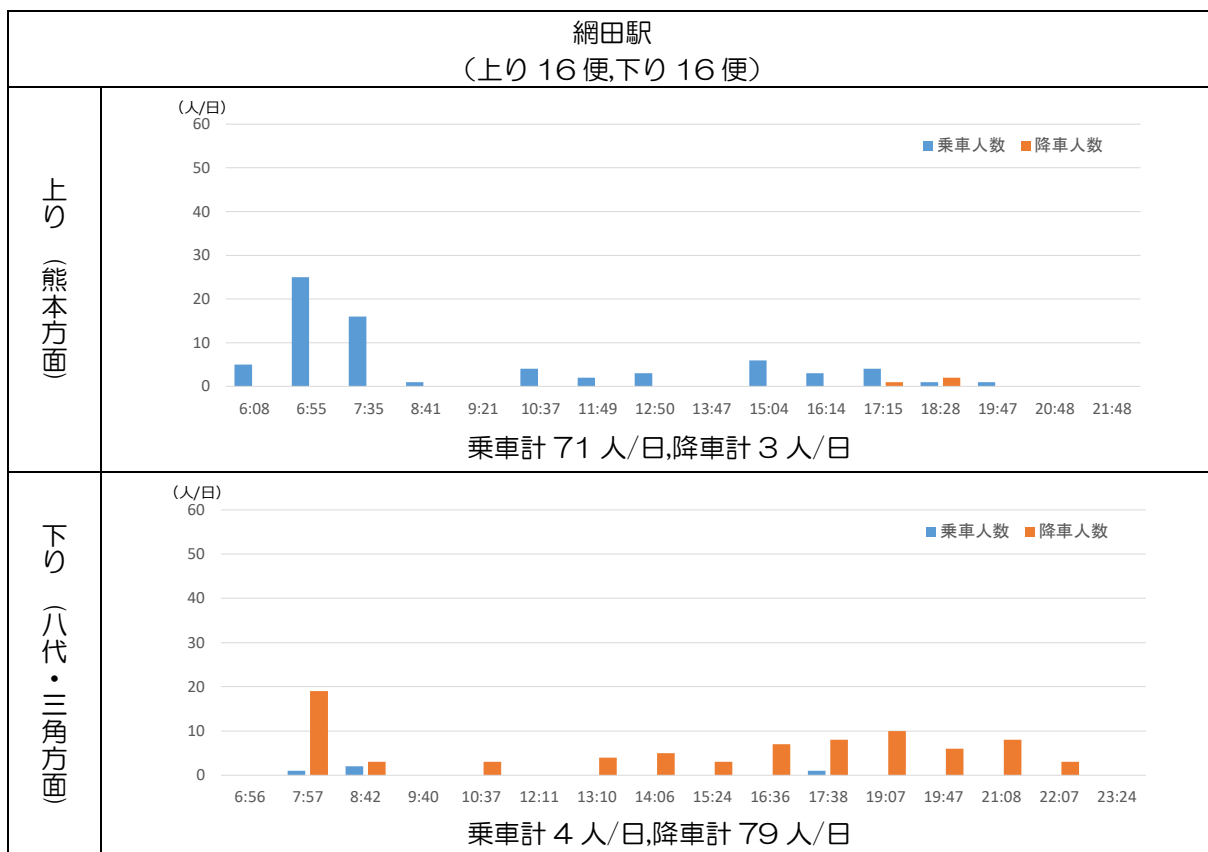
※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

図 鉄道駅の利用状況（住吉駅）



※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

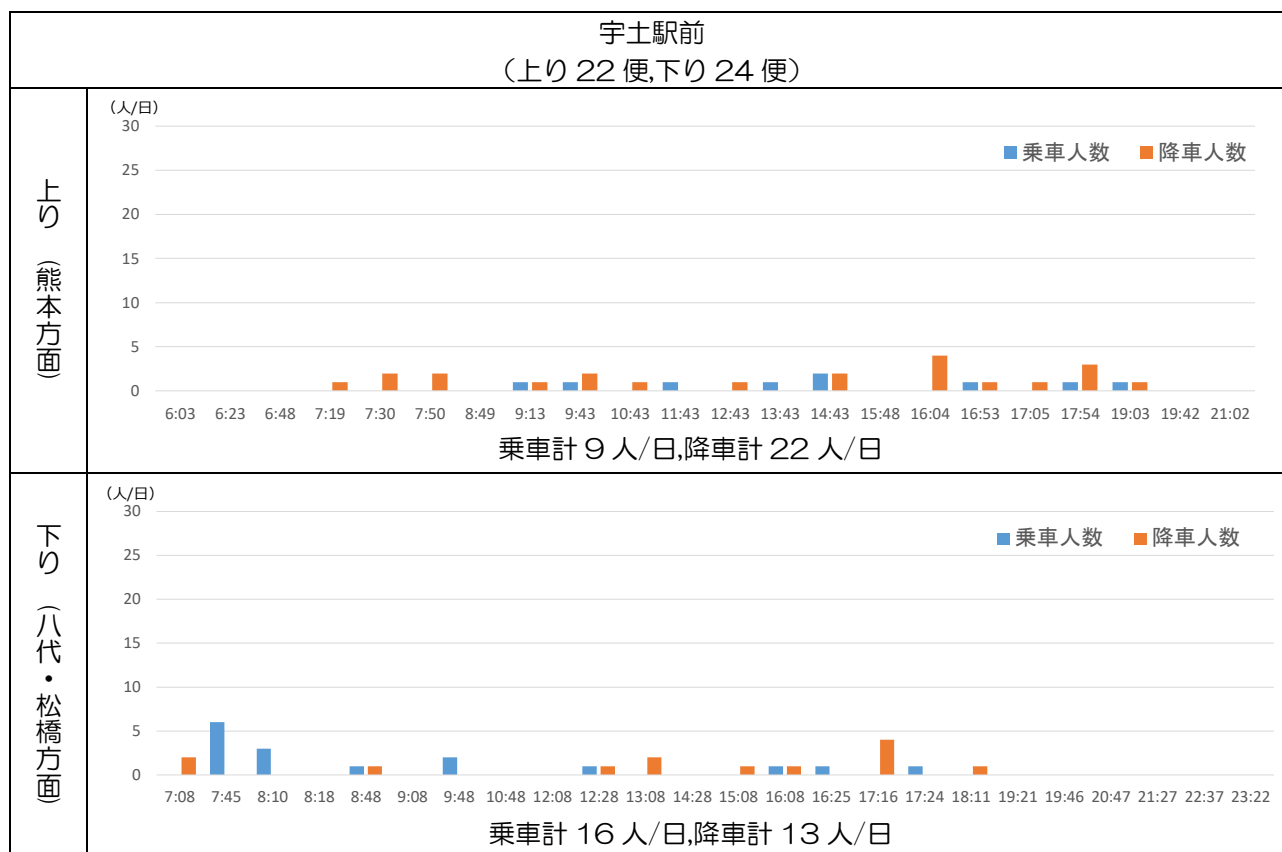
図 鉄道駅の利用状況（網田駅）



※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

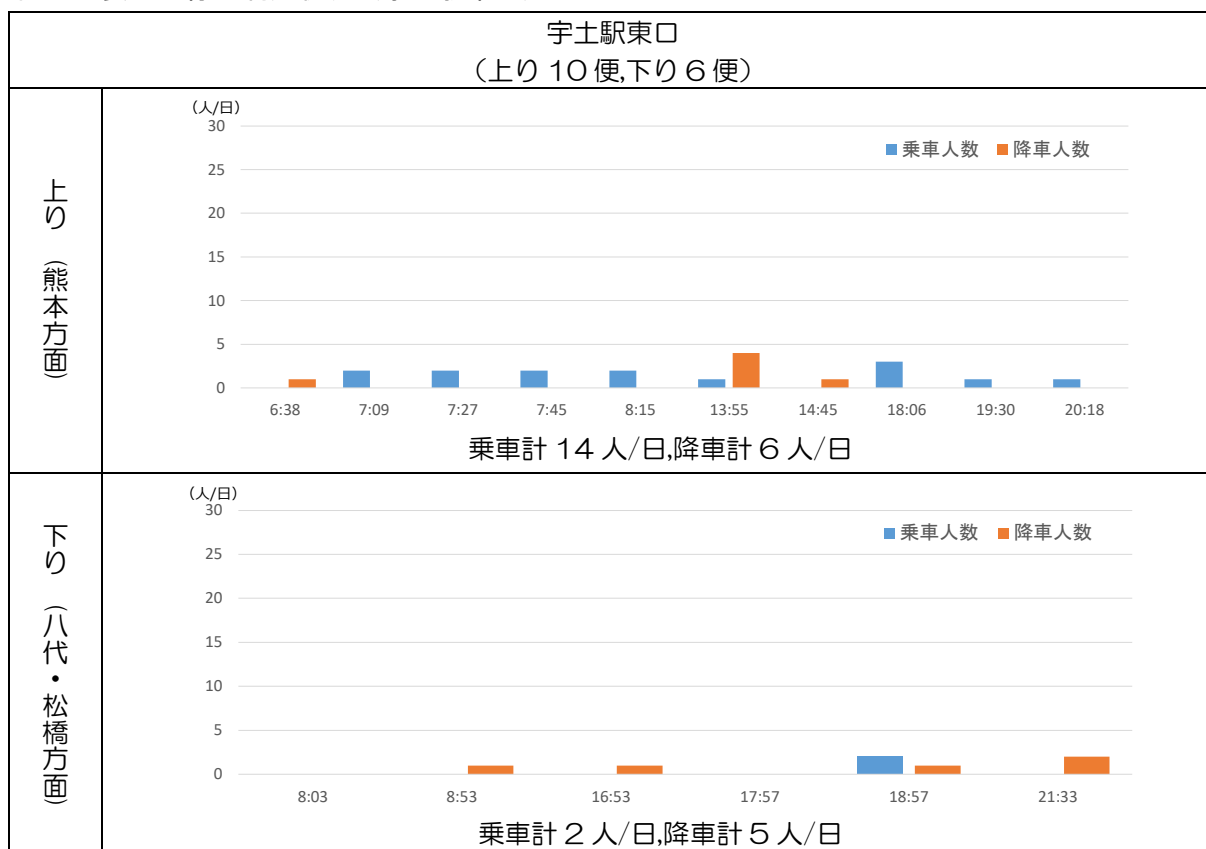
2) 主要バス停の利用状況

図 主要バス停の利用状況（宇土駅前）



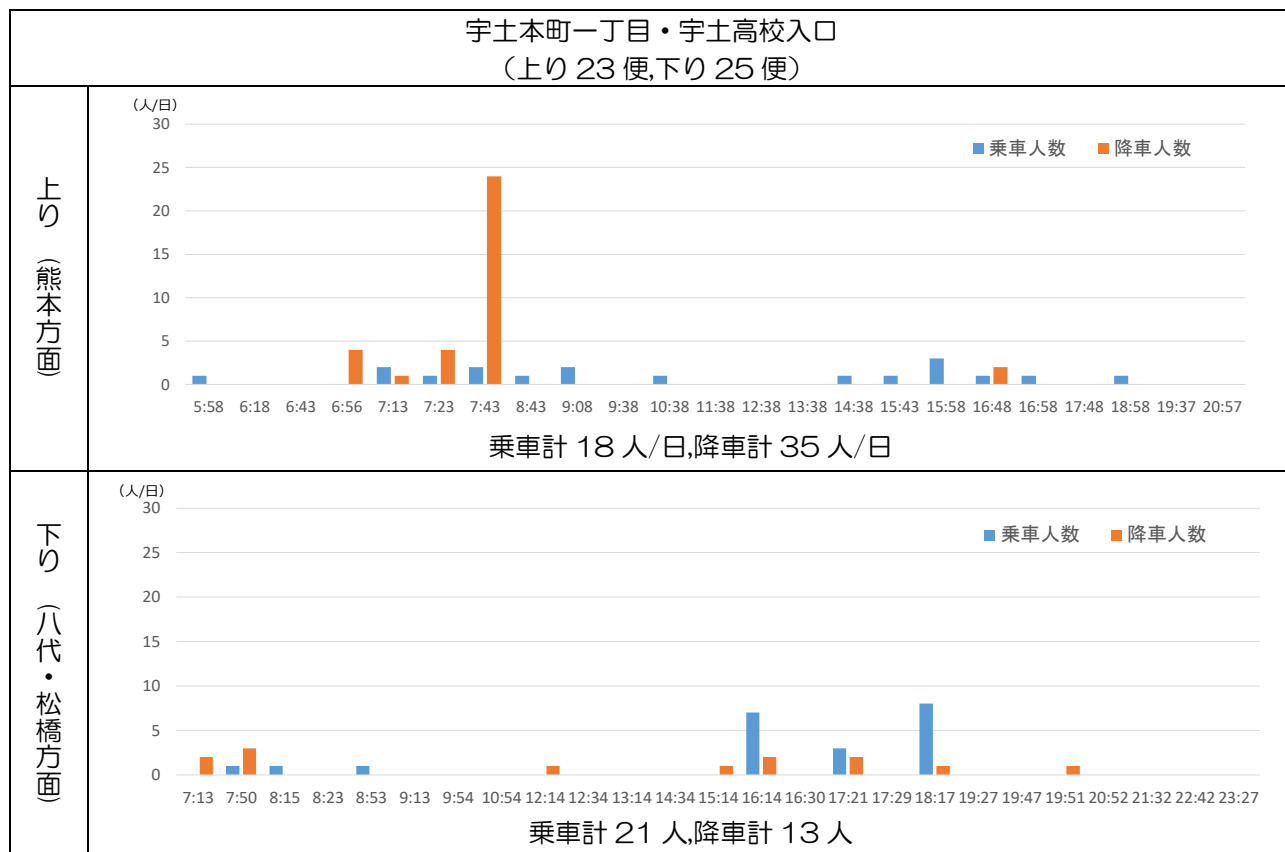
※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

図 主要バス停の利用状況（宇土駅東口）



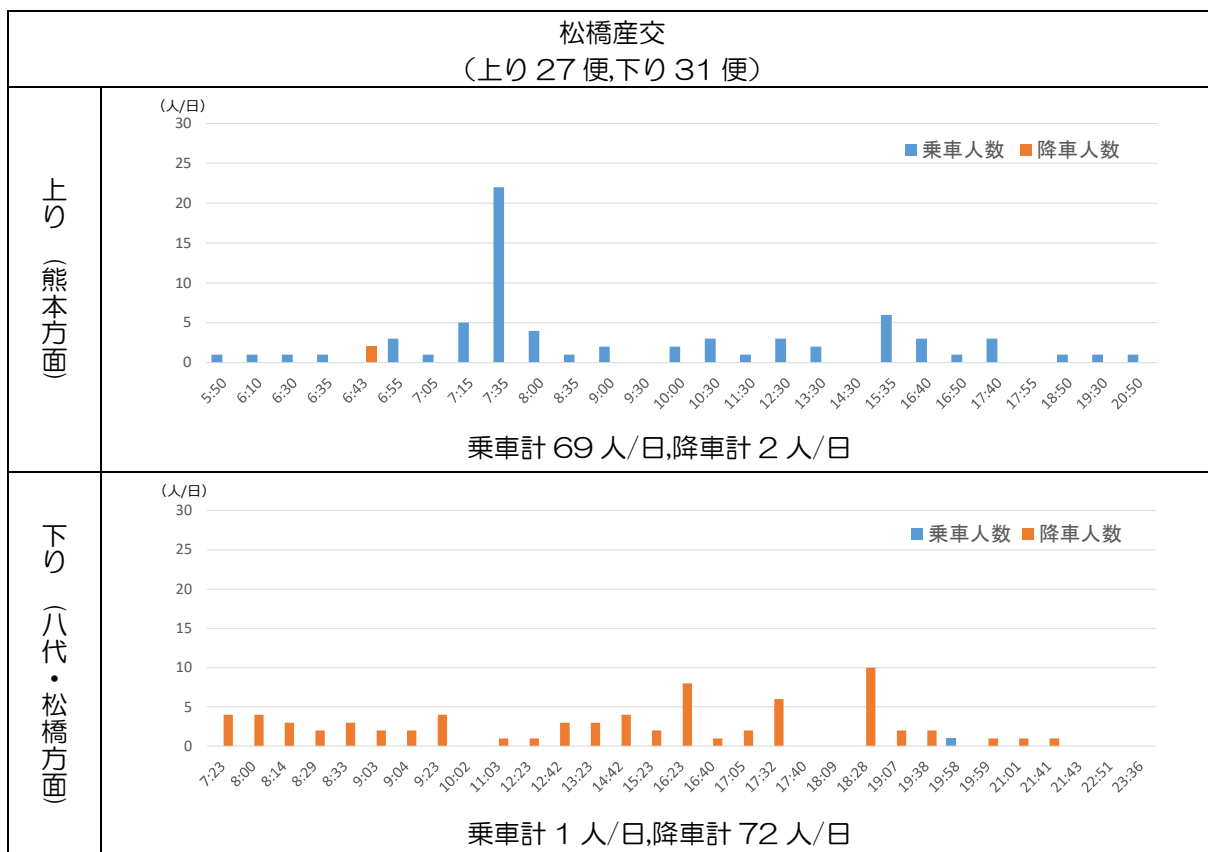
※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

図 主要バス停の利用状況（宇土本町一丁目・宇土高校入口）



※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

図 主要バス停の利用状況（松橋産交）



※調査員が現地で目視で観測可能な範囲で調査しており,実態と若干異なる可能性あり

3) 路線バス・コミュニティバス・ミニバスの利用状況

図 路線バス停の利用状況

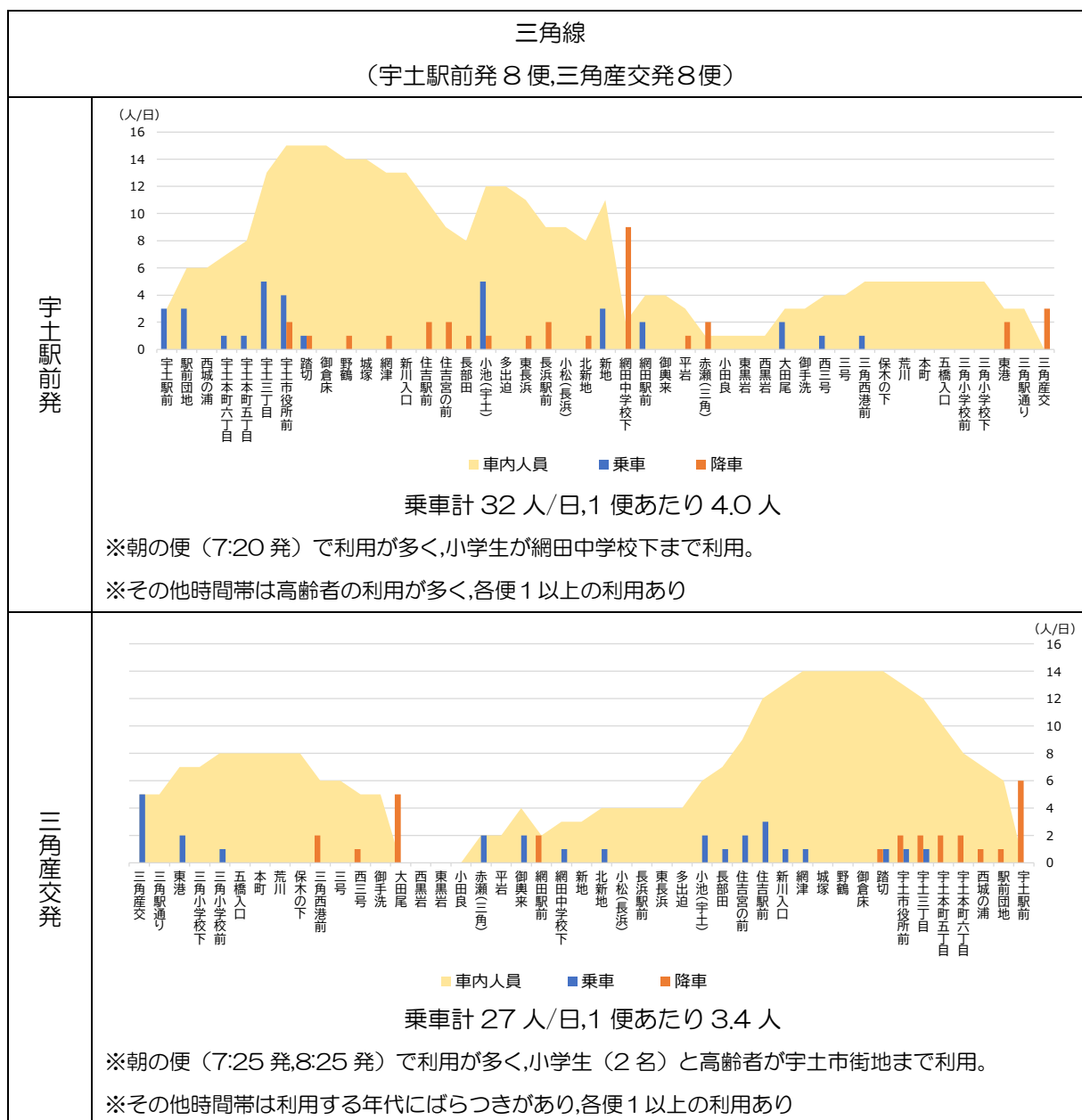


図 コミュニティバスの利用状況

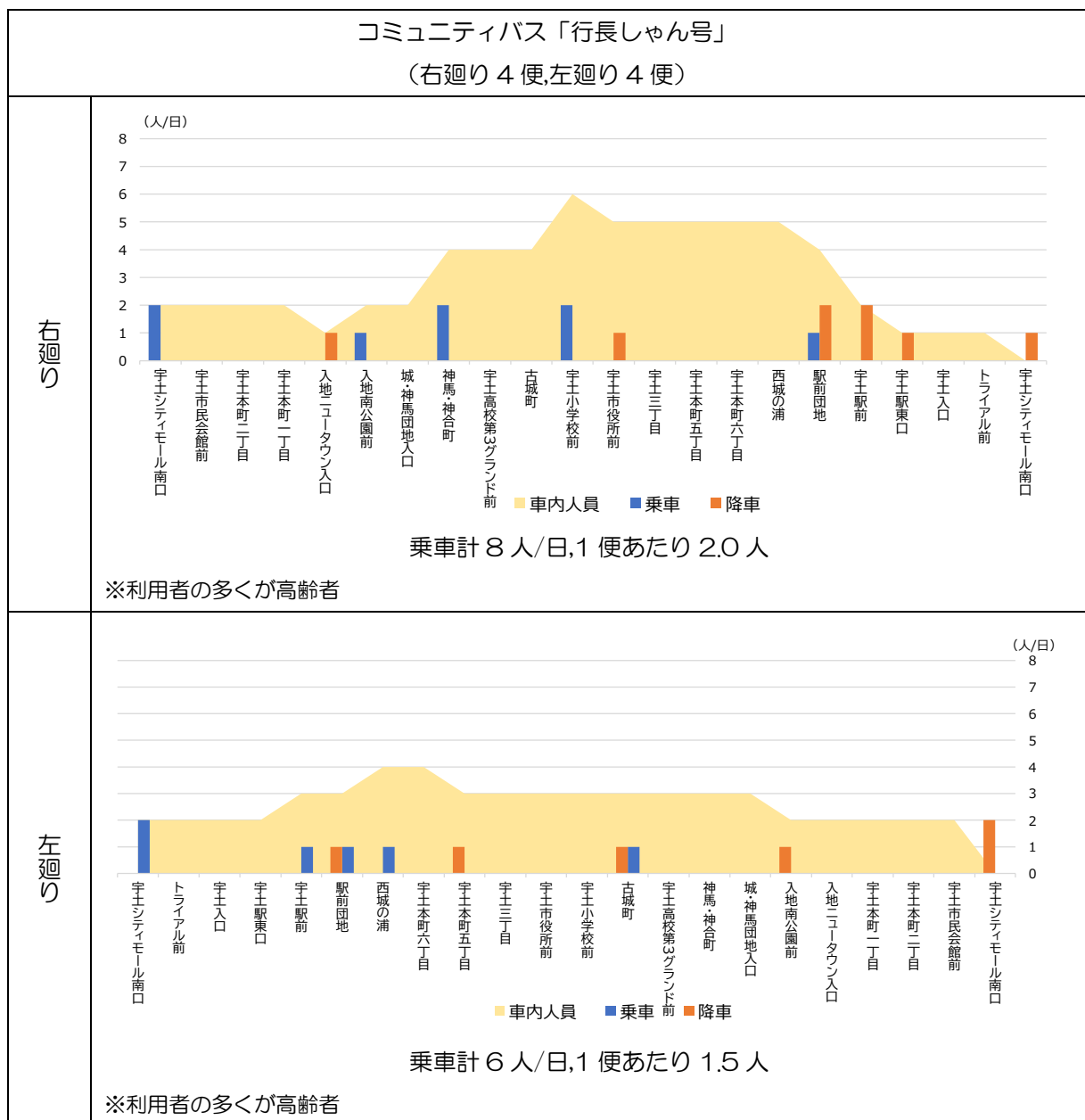


図 ミニバスの利用状況（花園南部線）

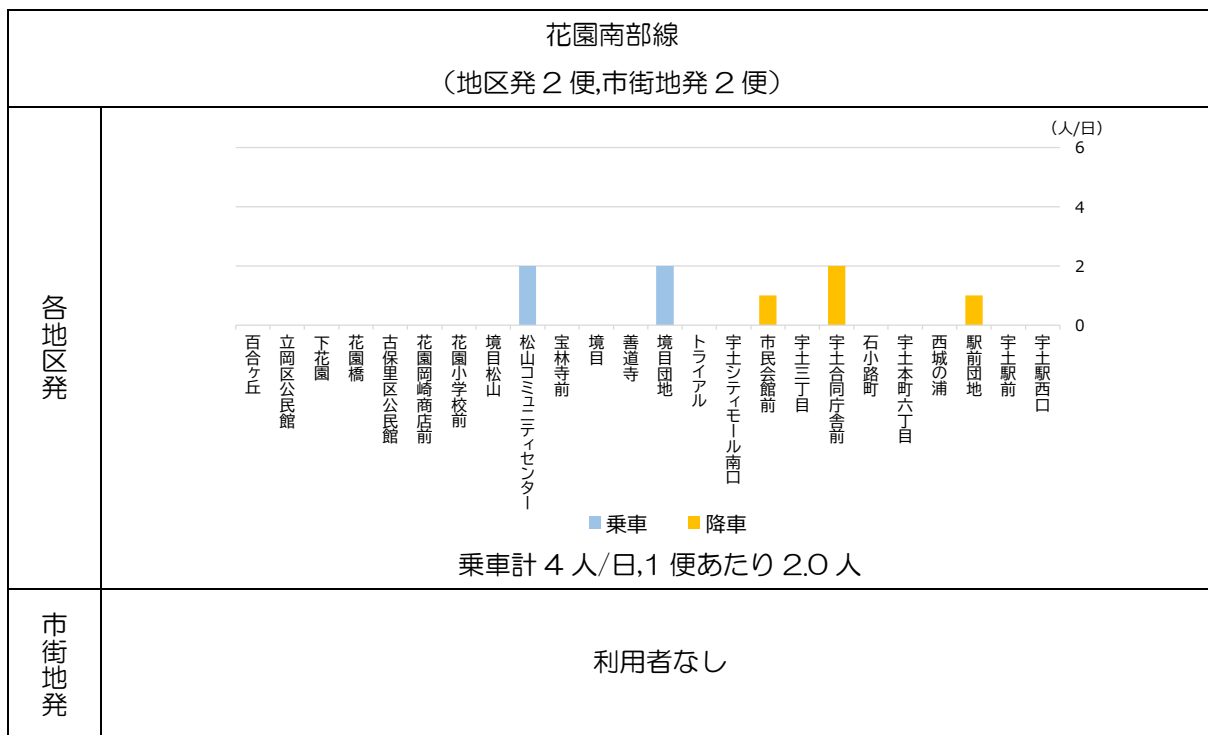


図 ミニバスの利用状況（花園北部線）

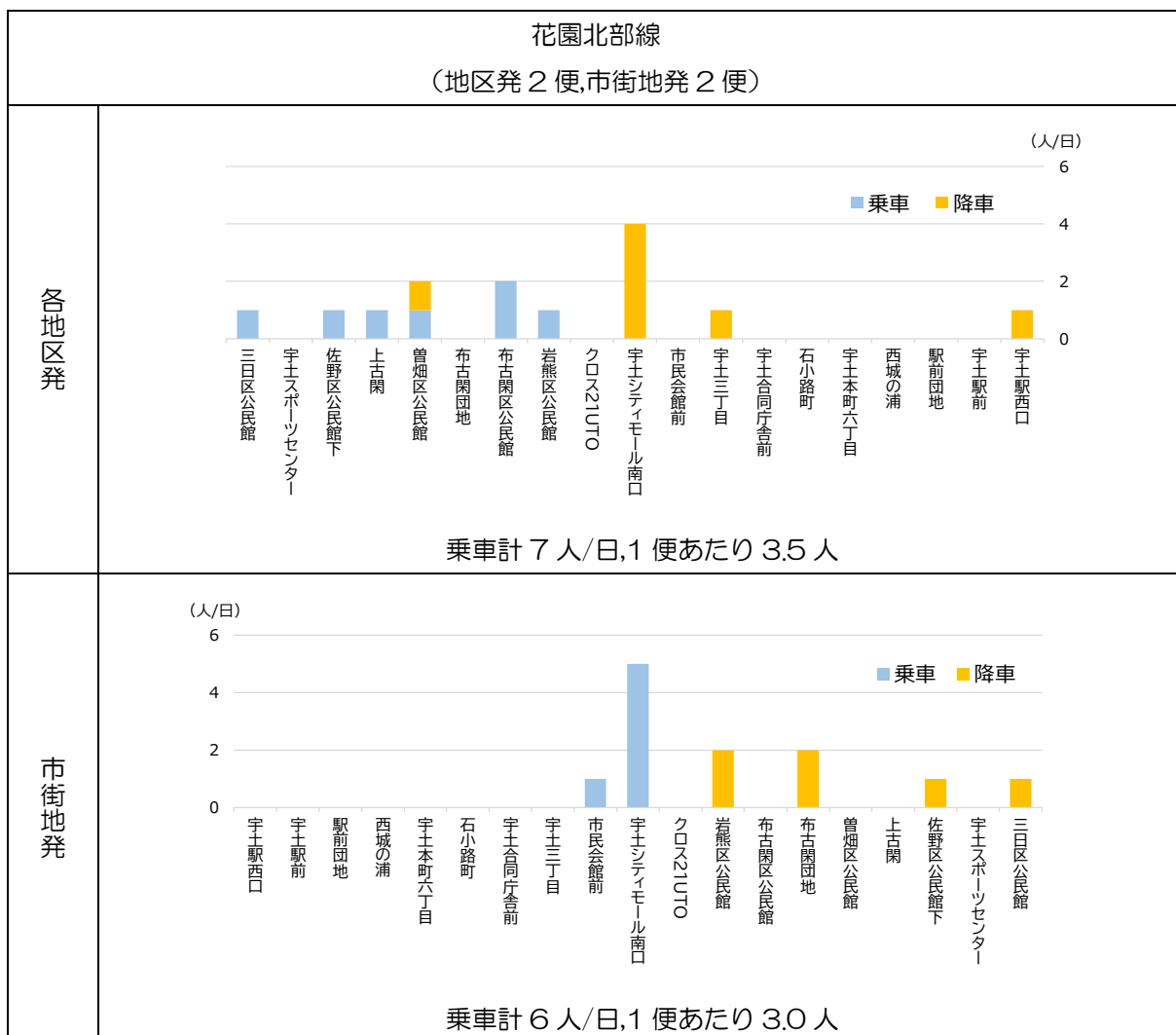


図 ミニバスの利用状況（轟線）

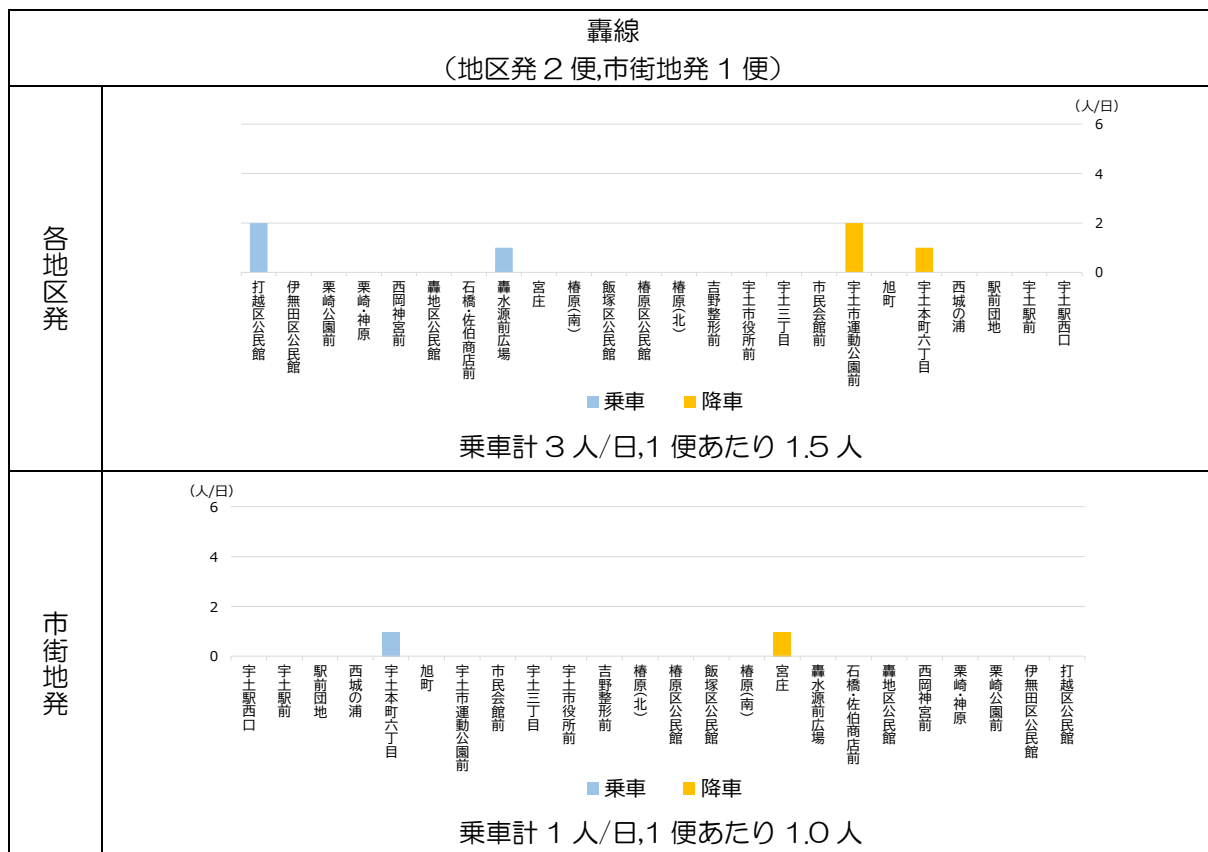


図 ミニバスの利用状況（宇土北部線）

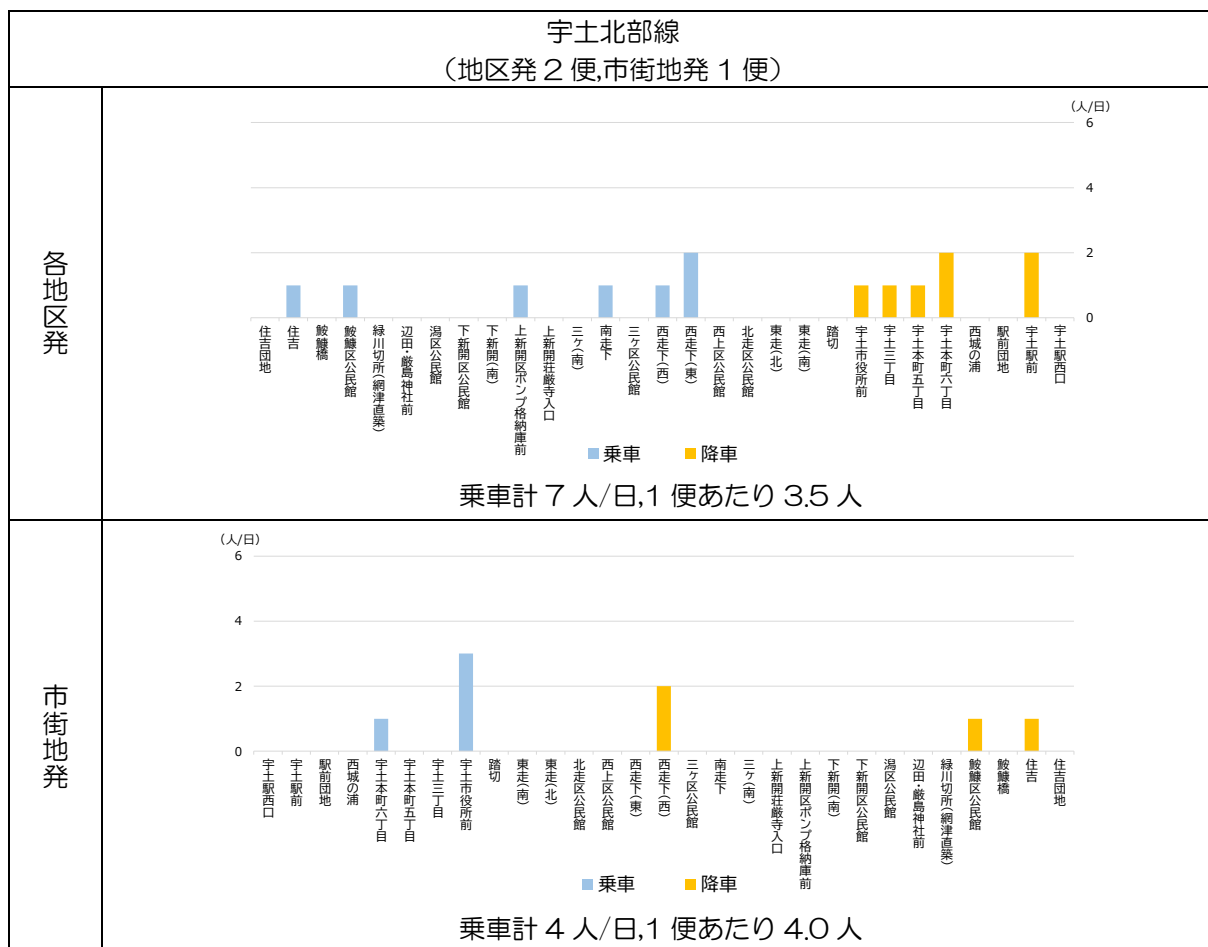
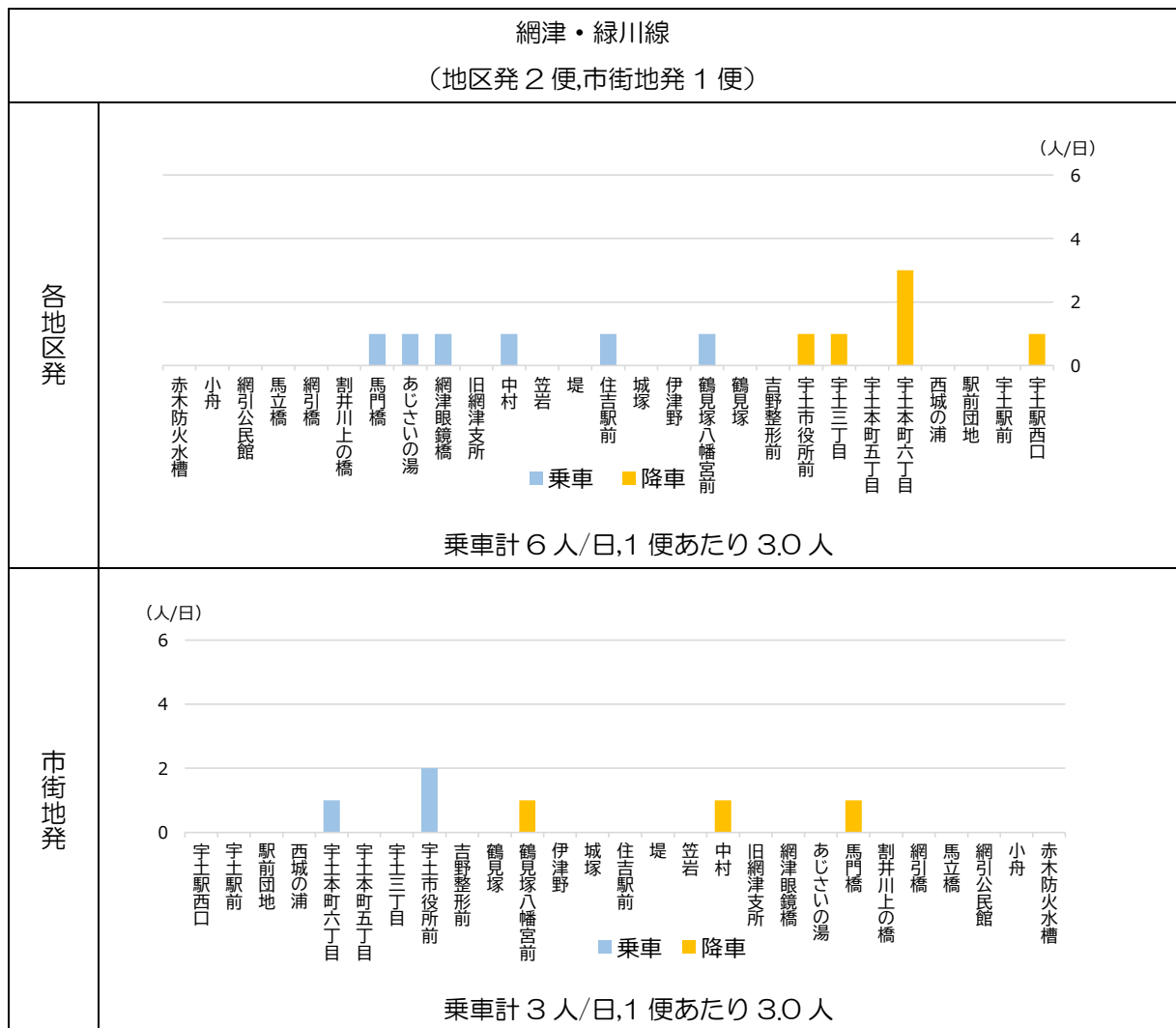


図 ミニバスの利用状況（網津・緑川線）

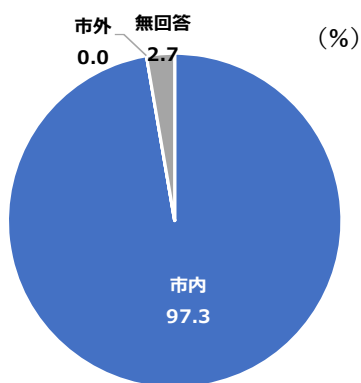


(2) ミニバス「のんなっせ」アンケート調査結果

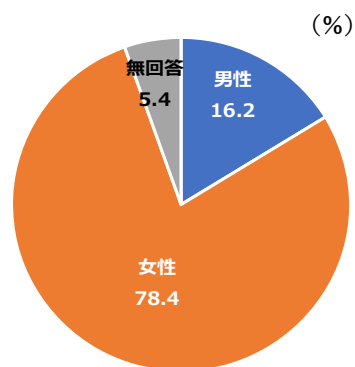
1) 利用者の属性

- ミニバス「のんなっせ」の利用者は、全て宇土市民となっており、市外の人利用はない状況です。
- 利用者の約 8 割を女性が占めており、全て 60 歳以上（80 歳以上で約 7 割）の自動車の運転免許証を保有していない人が多く利用している状況です。

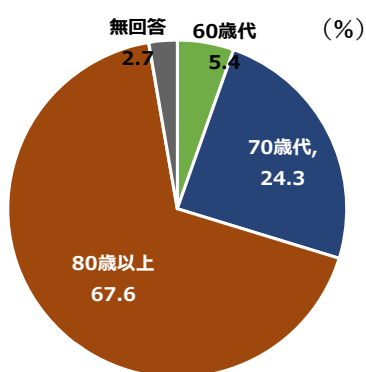
図 利用者の属性



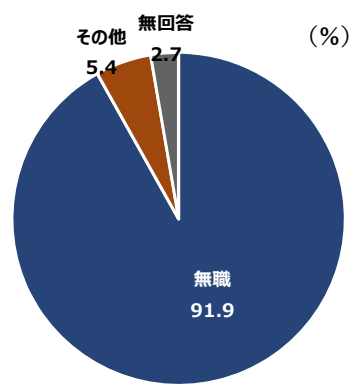
▲居住地 (n=37)



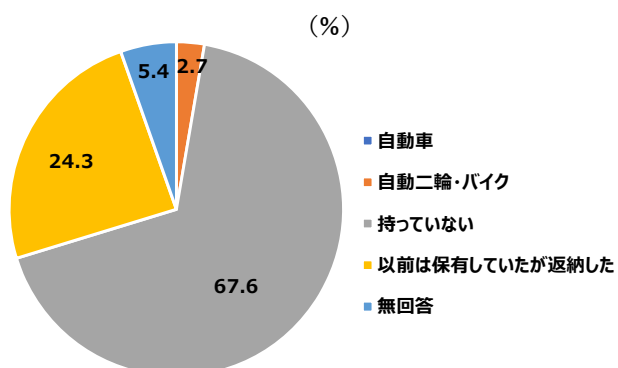
▲性別 (n=37)



▲年齢 (n=37)



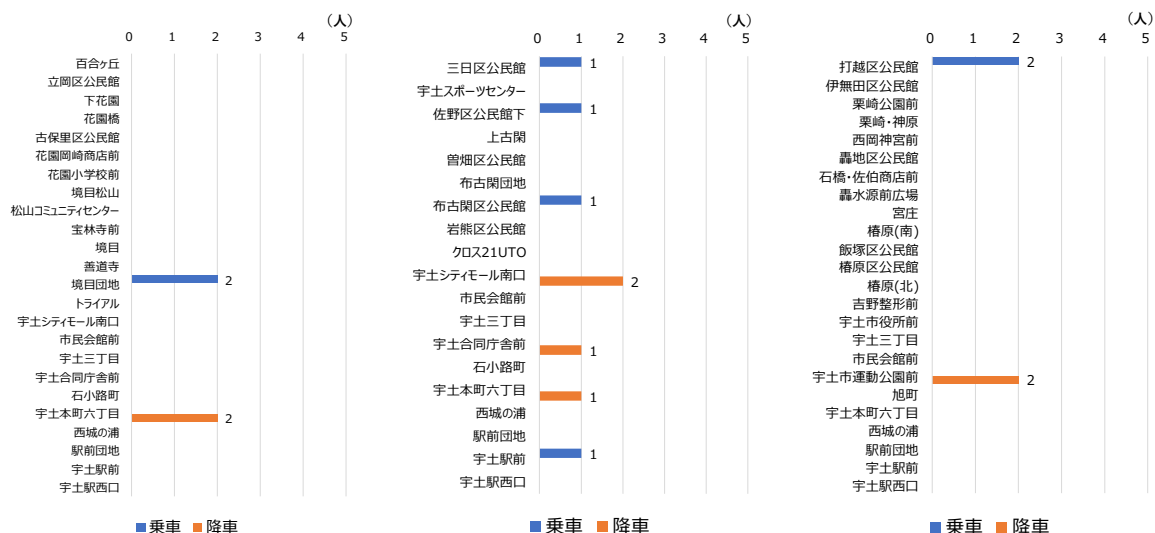
職業 (n=37)



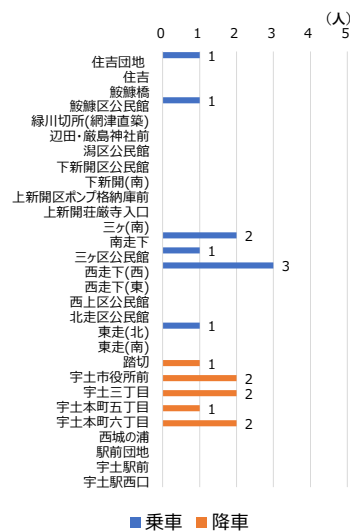
2) 利用実態(バス停の乗降状況) ※グラフから無回答は除く

- 全ての路線において、居住地から宇土市街地、もしくは宇土市街地から居住地での利用となっており、地区内での移動のための利用は見られません。
- また、宇土市街地側においても、宇土駅までの利用は少ない状況です。
- その他、花園南部線においては、境目団地より郊外側での利用が見られない状況とともに、轟線においては市街地に近い地域での利用が見られない状況です。

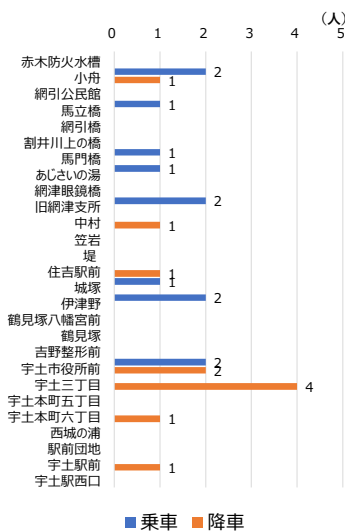
図 バス停の乗降状況



▲花園南部線 (n=3)



▲花園北部線 (n=5)



▲轟線 (n=2)

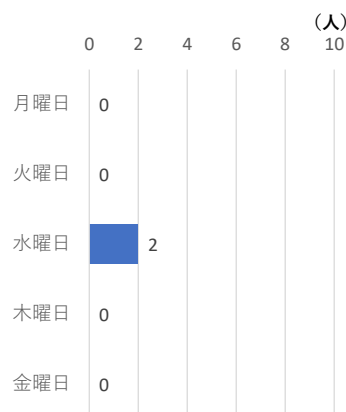
▲宇土北部線 (n=12)

▲網津・緑川線 (n=15)

3) 利用実態(利用曜日) ※グラフから無回答は除く

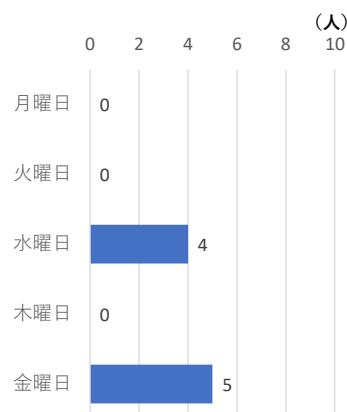
- 各路線,運行している曜日において万遍なく利用されている状況です。
- 一部路線においては,運行している曜日での利用はない状況です。

図 利用曜日



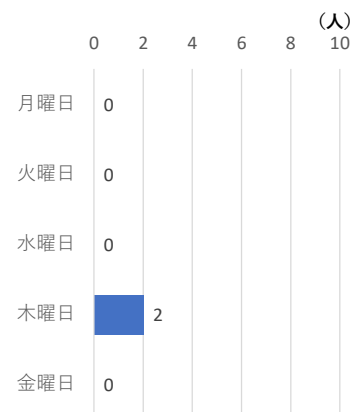
▲花園南部線 (n=3)

※水曜日・金曜日運行



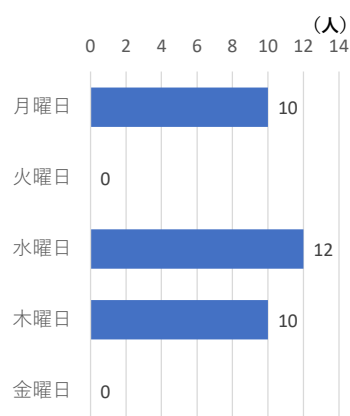
▲花園北部線 (n=5)

※水曜日・金曜日運行



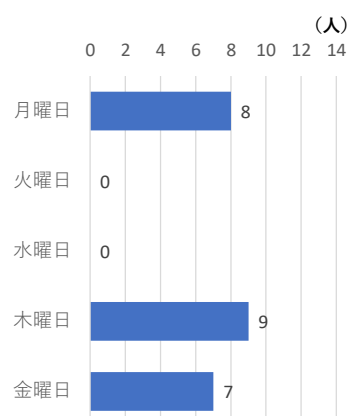
▲轟線 (n=2)

※木曜日運行



▲宇土北部線 (n=12)

※月曜日・水曜日・木曜日運行



▲網津・緑川線 (n=15)

※月曜日・木曜日・金曜日運行

4) 利用実態(その他)

- 利用頻度に関しては、路線によってばらつきがあるものの、花園北部線や宇土北部線ではほぼ毎週が多い状況です。
- 利用目的に関しては、全ての路線で買い物、もしくは通院目的での利用となっています。
- 利用時の同行者数については、1 名利用が多い状況ですが、花園南部線や宇土北部線、網津・緑川線においては3 名以上で利用される方もおられる状況です。

図 利用頻度

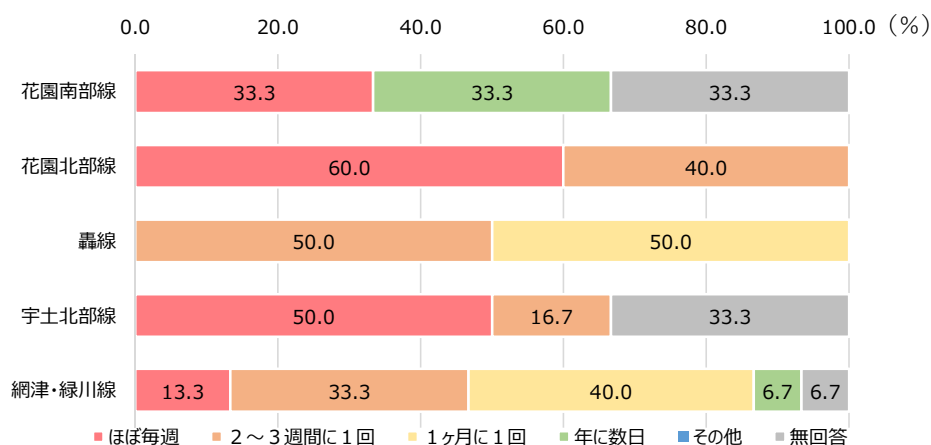


図 利用目的

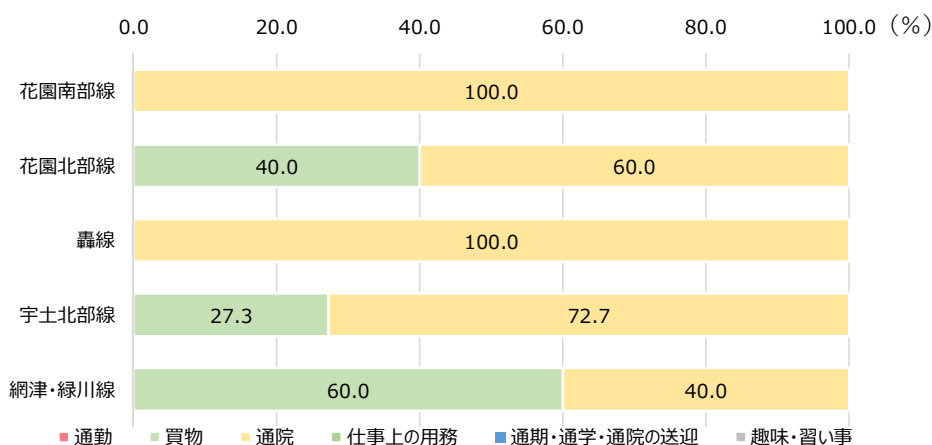
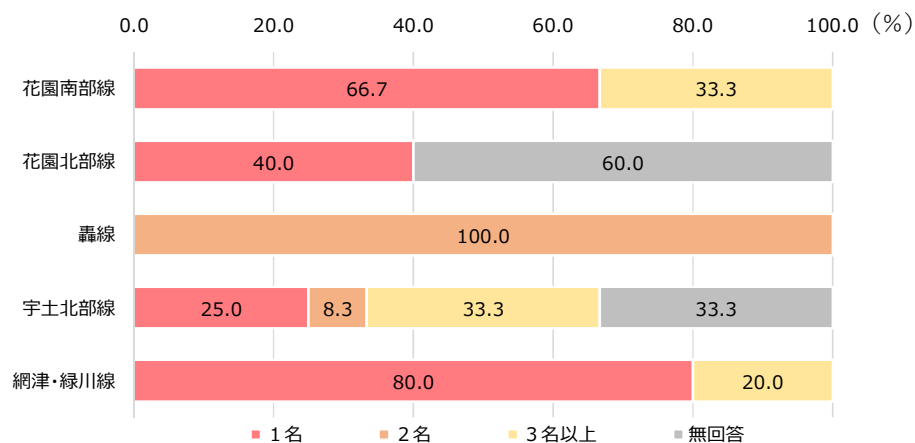


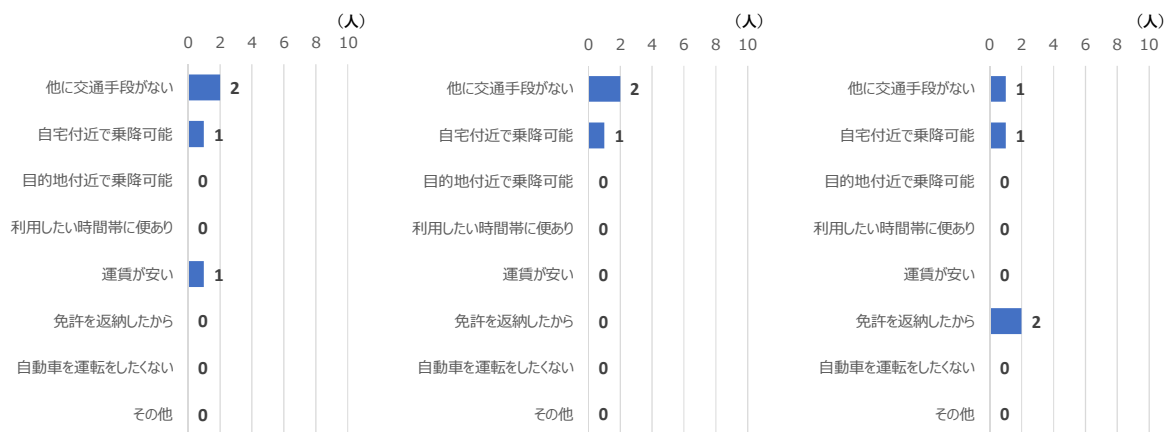
図 利用時の同行者数



5) 利用する理由

- ・ミニバス「のんなっせ」を利用する理由としては、高齢者で免許非保有者が利用しているため、全体的に「他に交通手段がない」や「免許を返納したから」といった理由が多くなっています。
- ・宇土北部線や網津・緑川線に関しては、「自宅付近で乗降可能」や「運賃が安い」が理由として挙がっており、利用するにあたって自宅からのアクセス性が重要であることがうかがえます。

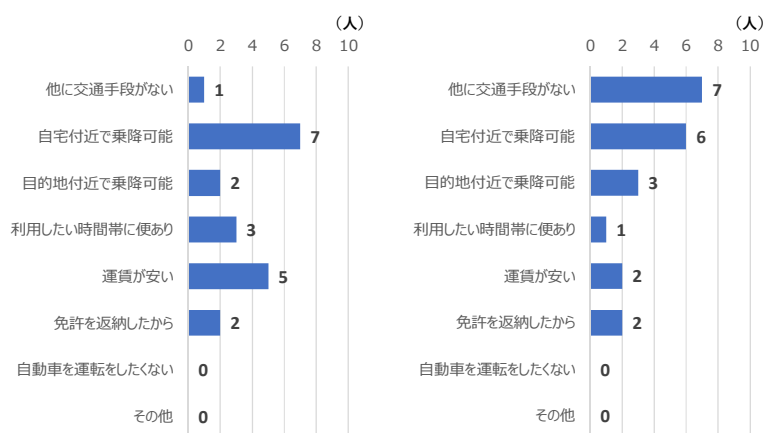
図 利用する理由



▲花園南部線 (n=3)

▲花園北部線 (n=5)

▲轟線 (n=2)



▲宇土北部線 (n=12)

▲網津・緑川線 (n=15)

6) 他公共交通との乗り継ぎの有無

- ミニバス「のんなっせ」と他公共交通との乗り継ぎについては、各路線において一部見られますが、全体的に乗り継ぎでの移動は少ない状況です。
- また、乗り継いで移動する場合の交通手段に関しては、約 7 割がタクシーとなっており、JR や路線バスとの乗り継ぎは見られない状況です。

図 乗り継ぎの有無

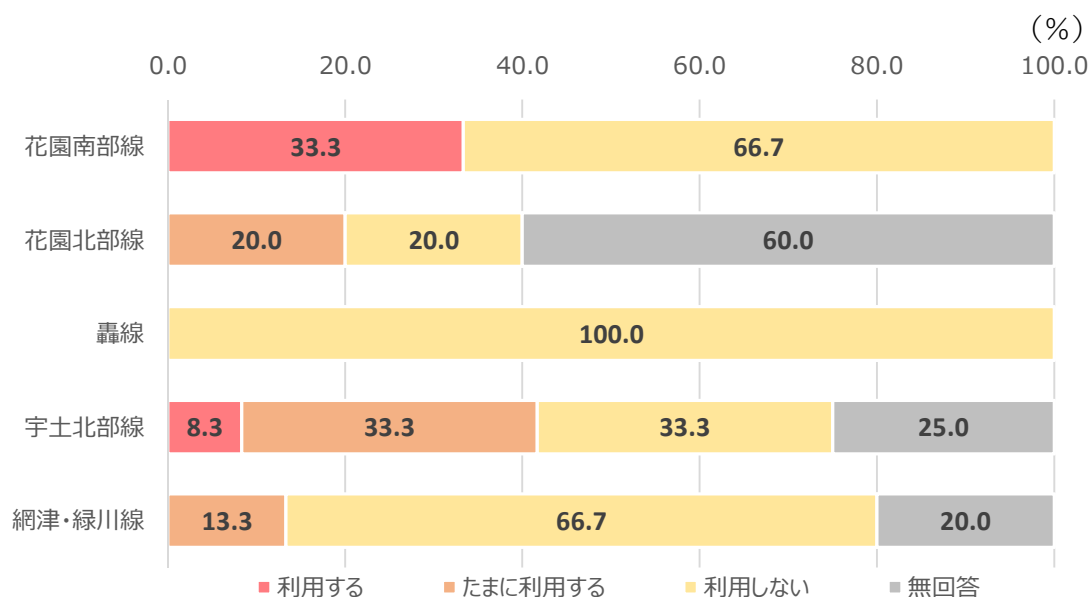
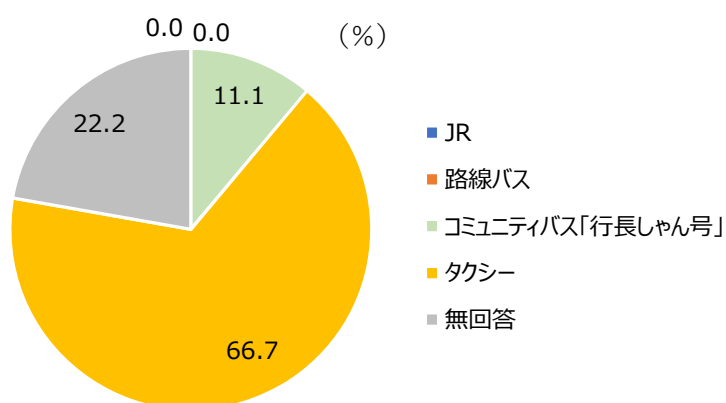


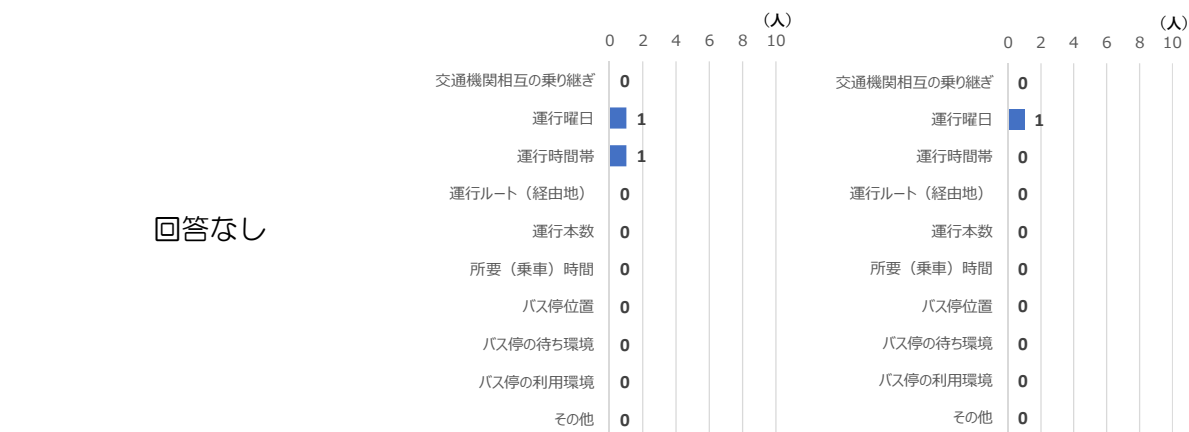
図 乗り継ぐ場合の他交通手段（全路線合計）



7) ミニバスの改善要望

- ・ミニバス「のんなっせ」を利用するにあたっての改善点としては、どの路線も「運行曜日」への意見が挙がっています。
- ・その他、宇土北部線や網津・緑川線に関しては、「運行本数」に対する意見も比較的多く挙がっている状況です。

図 改善要望



▲花園南部線 (n=3)

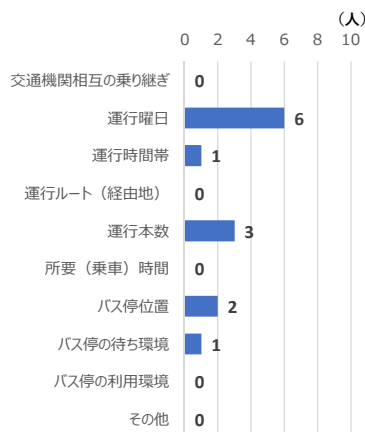
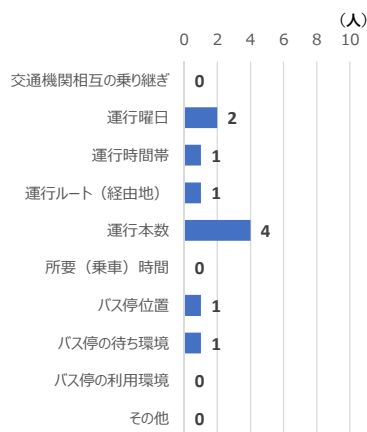
※水曜日・金曜日運行

▲花園北部線 (n=5)

※水曜日・金曜日運行

▲轟線 (n=2)

※木曜日運行



▲宇土北部線 (n=12)

※月曜日・水曜日・木曜日運行

▲網津・緑川線 (n=15)

※月曜日・木曜日・金曜日運行

8) ミニバス運行内容に伴う利用意向

- 予約型での運行に対しては、轟線では「必ず利用する」との回答が多く、他の路線でも「利用しない」という意見は少ないですが、花園南部線や網津・緑川線では、「利用するか分からない」という回答が多い状況です。
- 運行区間の短縮に対しては、「必ず利用する」との回答も見られる一方、「利用しない」という回答も多く見られ、目的地まで乗り継いで移動することへの抵抗が大きいことがうかがえます。

図 運行ルートや運行本数は同じのまま毎日運行するが、利用にあたっては予約が必要

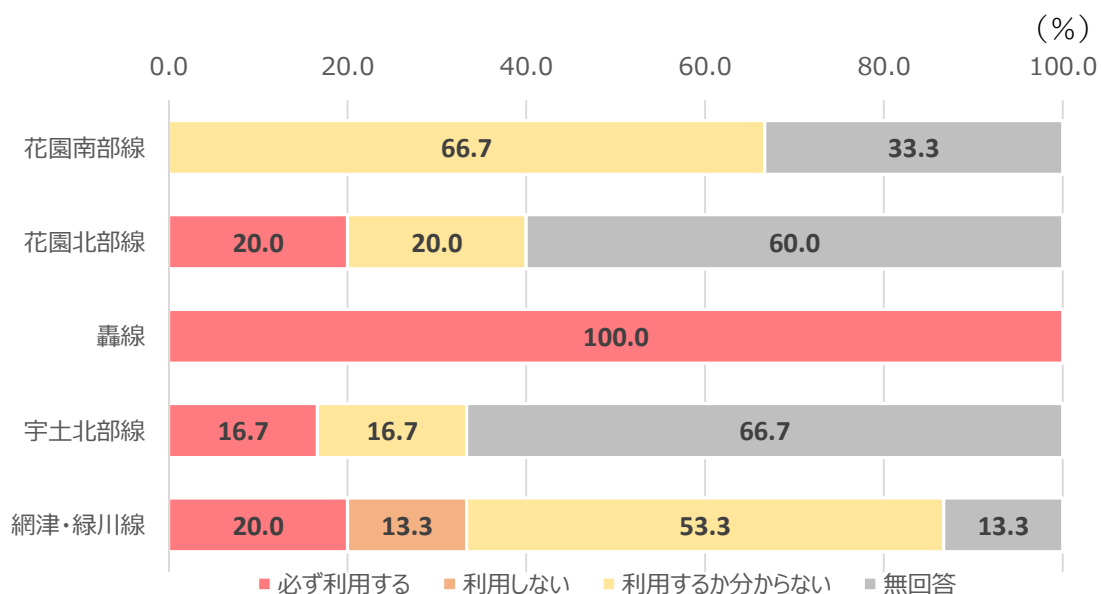
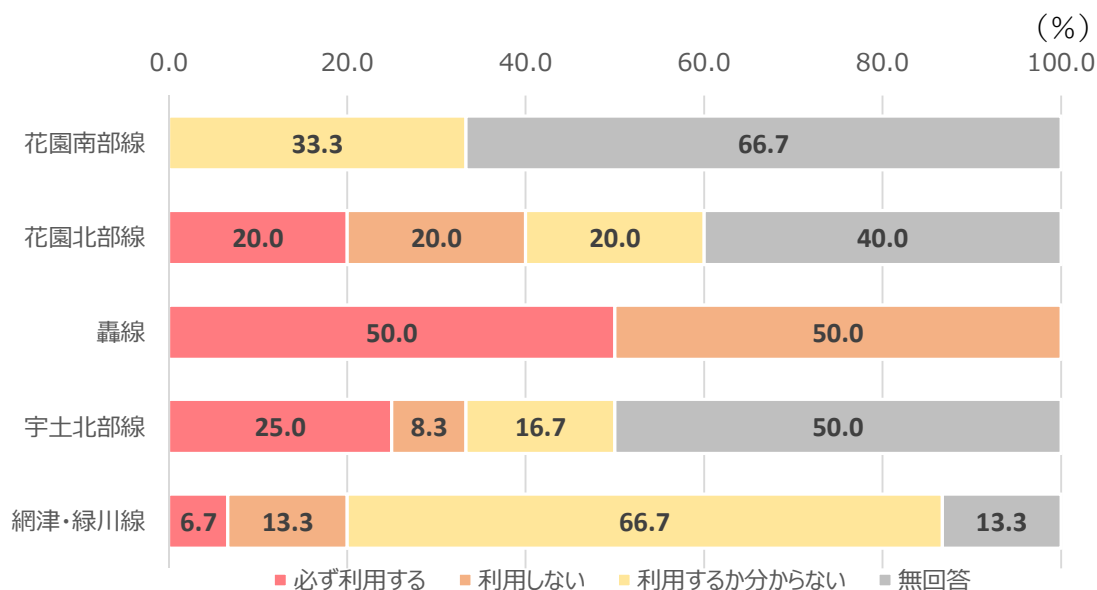


図 現在と同様予約も不要で、運行本数・曜日と同じだが、最寄り駅・路線バスのバス停までの運行



以下、略

3-4 施設アンケート調査

(1) 流動人口データ整理

調査対象	■商業施設 宇土シティモール, クロス 21UTO など ■医療施設 宇土中央クリニック, 福田医院, 尾崎医院, 金森医院 など ■福祉関連施設 宇土市老人福祉センター・西部老人福祉センター など ※人流データを踏まえて設定
配布・回収方法	■郵送による配布・回収
調査方法	■調査票への記入式
調査期間	■令和3年8月23日(月)～9月3日(金)
調査内容	■商業施設 ・施設の実態, 利用者の実態 ・地域公共交通に求めるニーズ, 今後の可能性 など ■医療施設 ・移動等の現状及び課題, 移動支援施策等の実態 ・地域公共交通に求めるニーズ, 今後の可能性 など ■福祉関連施設 ・移動等の現状及び課題, 移動支援施策等の実態 ・地域公共交通に求めるニーズ, 今後の可能性 など

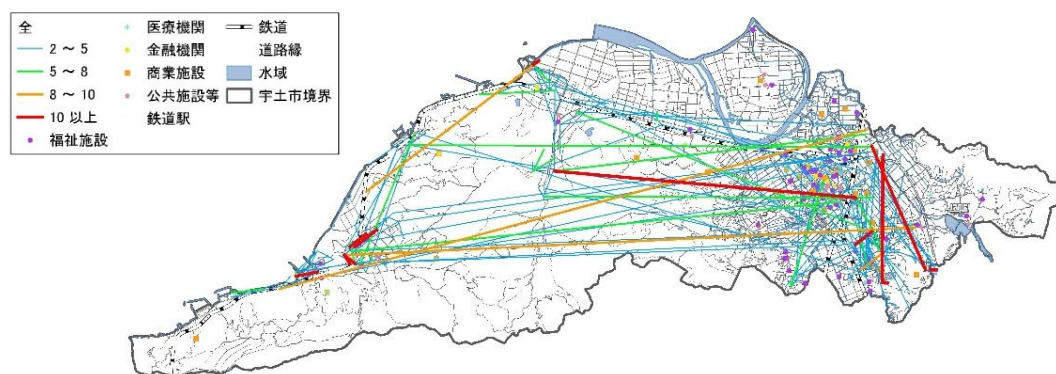
1) データの概要

- ・株式会社 Agop (ソフトバンクグループ) の「**ポイント型流動人口データ**」を活用
- ・ポイント型流動人口データは, スマートフォンアプリから収集される位置情報データを取得したものであり, 15分ピッチでデータ取得
- ・位置情報データを**メッシュ単位で集計**することで, 流動把握
- ・データ使用期間: **2020.11の1ヶ月間データ**

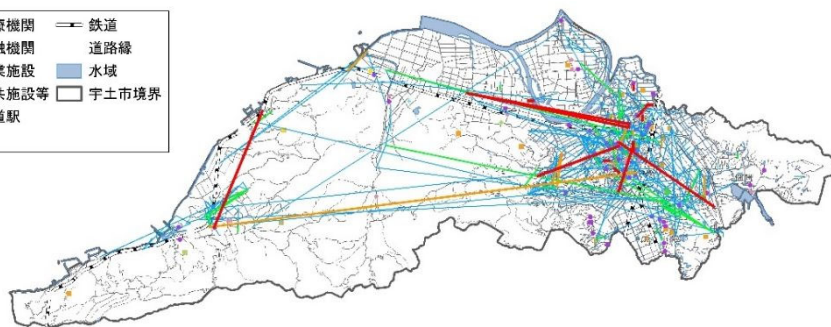
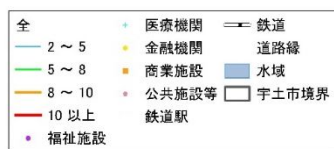
2) データ整理結果

※流動を整理した線に関しては, メッシュの重心同士を結んだものであるため, 施設などと一致しない

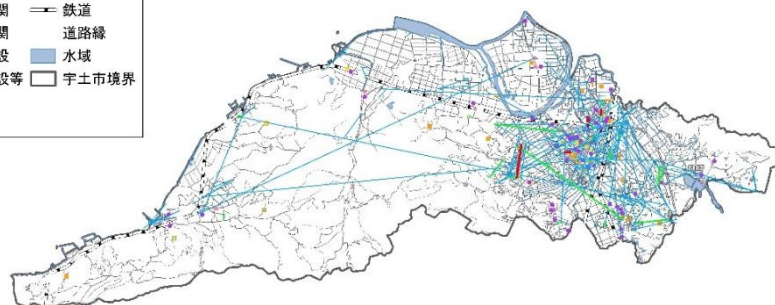
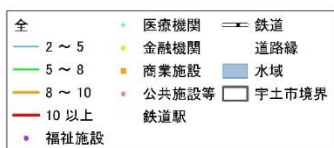
図 流動人口



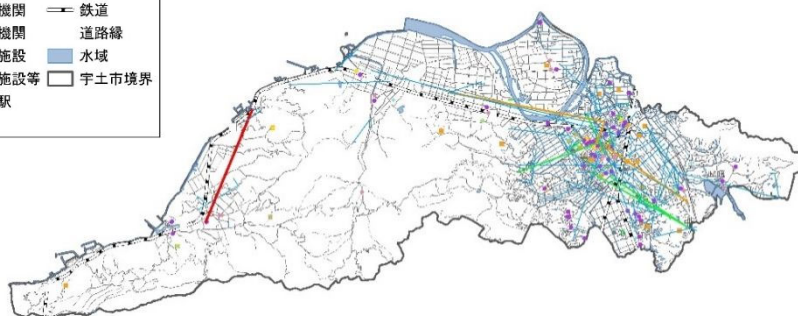
▲全体



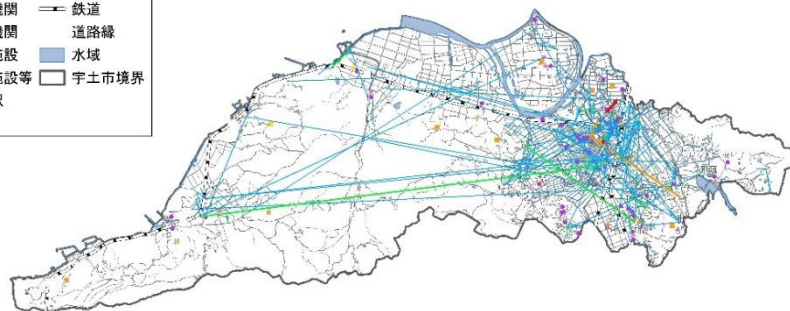
▲平日



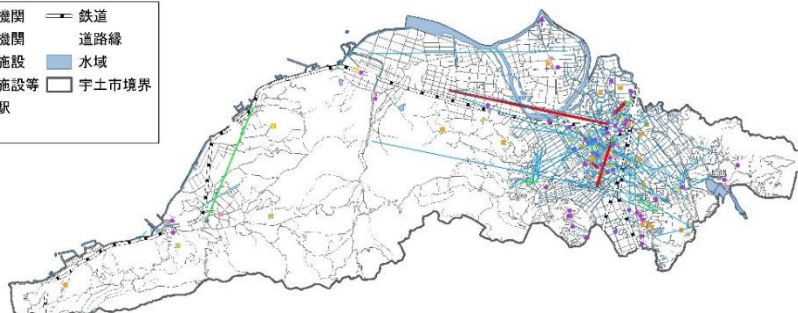
▲休日



▲朝時間帯



▲昼時間帯



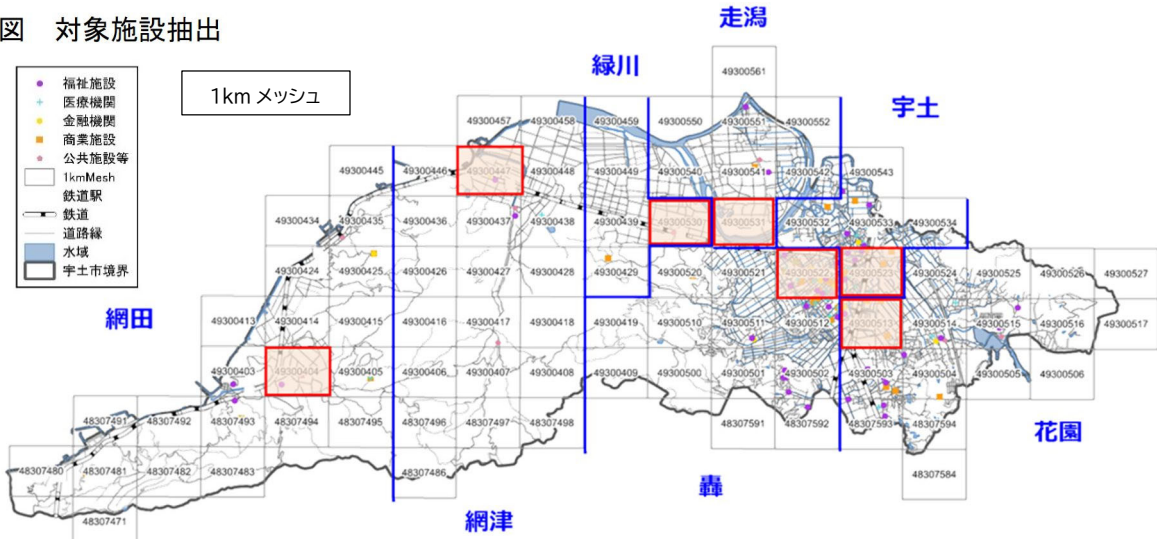
▲夕時間帯

(2) 対象施設の抽出

1) 対象施設抽出の考え方

- ・流動人口データを基に,地区別に多くの人が集まる地域(1 kmメッシュ)を特定し,対象地域に立地する商業施設,医療施設,福祉施設を抽出
- ・上記施設のうち,コンビニや小規模個人商店,障がい者施設や介護施設,保育園などは対象外
- ・その他,歯科などについてはコミュニティバス「行長しゃん号」沿線やミニバス「のんなっせ」沿線の施設などについては対象

図 対象施設抽出



2) 対象施設一覧

表 対象施設一覧

地域	分類	施設名
宇土 (轟)	商業施設	株式会社コスモス薬品/ディスカウントドラッグコスモス宇土駅店
		フレッシュまい宇土店
		マックスバリュ宇土店
		株式会社コスモス薬品/ディスカウントドラッグコスモス宇土店
		ダイレックス宇土店
		生活協同組合くまもとミニコープ宇土
	医療機関	近藤歯科 矯正歯科
		松本歯科医院
		上野小児科医院
		森一歯科・矯正歯科医院
		中村歯科医院
		もろが整形外科医院
		金森医院
		宇土中央クリニック
		吉野整形外科
		七川医院
		八木歯科医院
		福田医院
		本多医院
		村上歯科医院
		熊本パール総合歯科・矯正歯科・こども歯科クリニック宇土院
	福祉施設	宇土市老人福祉センター
		社会福祉法人宇土市社会福祉協議会
花園	商業施設	コメリパワー宇土店
		トライアル宇土店
		宇土シティモール
	医療機関	むらかみ眼科クリニック
走潟	-	-
緑川	医療機関	みどりかわクリニック
網津	福祉施設	宇土市健康福祉館 (あじさいの湯)
網田	福祉施設	宇土市西部老人福祉センター

(3) 調査結果

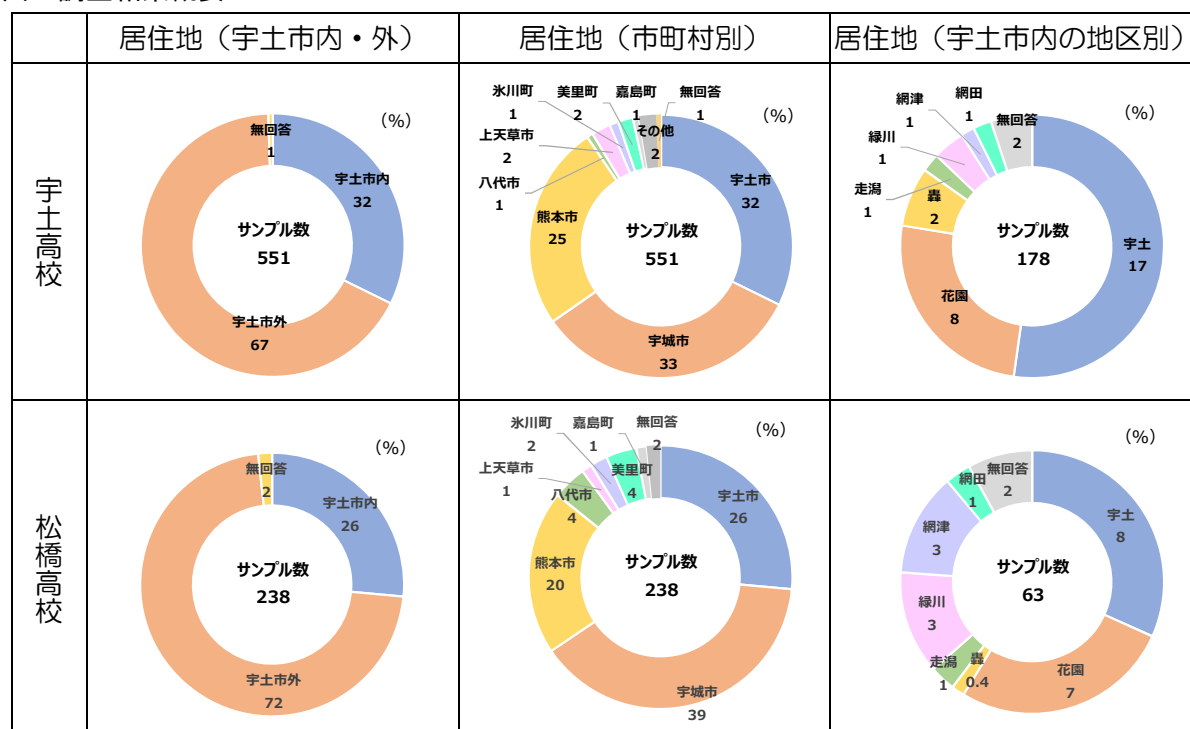
	商業施設（3 施設からの回答）	医療施設（9 施設からの回答）	福祉施設（3 施設からの回答）
施設の実態	■営業時間 基本的に 9:00 もしくは 10:00 から営業 ■営業日 月曜日～日曜日を基本 ※一部日曜日が定休日あり ■特売日 年に 1 度、不定期など	■診察時間 基本的に 9:00 から診察開始 ■診察日 月曜日～土曜日を基本 ■予約制 3 / 9 施設で予約制あり	■開館時間 基本的に 9:00～17:00 ※21:00 までの施設あり ■開館日 月曜日～金曜日を基本 ■休館日 土日祝日など
来訪者の実態等	■主な商圈 宇土市全域＋熊本市 ※宇土市街地の店舗は宇城市等も商圈 ■来訪者の属性 各年代万遍なく来訪 ※高齢者が多い店舗も一部あり ■来訪者の交通手段 基本的に自動車 ■公共交通での来訪実態 コミュニティバスやタクシーの利用は一部見られるものの、基本的に少ない	■1 日当たりの外来者数 概ね 20～50 人（ただし、100 人程度の施設もあり ※熊本市からの来院もあり） ■来院の時間帯 基本的に午前中（9～12 時に集中） ■1 人あたりの来院頻度 1～4 回/月（1 回が約半分） ■来院者の居住地 宇土市全域 + α（宇城市など） ■来院者の属性 ・宇土市内からの施設は高齢者が多い ・熊本市など広域的な利用が多い施設は各年代万遍なく利用 ■来院者の交通手段 ・基本的に自動車もしくは家族の送迎 ※透析患者は施設の送迎 ■公共交通での来院実態 ・高齢者はタクシー利用 ・路線バスやコミュニティバス等の利用は少ない	■高齢者の移動実態 ・網津、網引方面の方が、宇土市内の病院や銀行、買い物に行かれる際、あじさい号やのんなっせを利用しているが、便数が少ない。 ・買物、病院に行く方法として徒歩・マイカー・タクシー（宇土地区）産交バス（緑川・網田地区）又は当センター送迎用の福祉マイクロバスを利用している。 → 課題：バス停まで距離があり、本数も少ない。センターのマイクロバスは曜日ごとに運行行程（月～金運行）が違っているので、希望する曜日に利用不可。 ■買い物難民等の実態 ・網津地区ではのんなっせを利用しているが、本数が少なく不便。
施設での取り組み等	・タクシー配車・待機への提供 ・路線バスやコミュニティバスの待ち時間に対する休憩所の提供	■送迎サービス 2 / 9 施設で実施中 → 透析患者のみのサービスなど ■買い物支援事業等 実施している施設はなし ■その他独自に取り組んでいる移動支援施策 実施している施設はなし	■買い物支援事業等 2 / 3 施設で実施 ・網田方面の送迎の際、宇土マリーナに買い物で立ち寄り（毎週水曜日） ・センターのマイクロバスは利用者（60 歳以上）の自宅近くまで送迎し、病院や買物をされる場合は、途中下車可能。またセンター利用者はバス料金無料。市内の多くの方に利用してもらえるように地域包括センターや関係機関に周知を依頼。 ■その他独自に取り組んでいる移動支援施策 ・あじさいの湯の送迎バスにて、各地域の高齢者の方を温泉へ送迎
地域公共交通に求めるニーズ等	・コミュニティバスで来訪可能な施設では、 → コミュニティバスの増便、日祝日の運行、運行時間帯の見直し ・その他施設 → 施設への路線バスやコミュニティバス、ミニバスの乗り入れ、施設近隣への停留所の設置 ※施設と地域公共交通の結節性重視	・運行本数の充実 ・施設へのバス乗り入れ	・のんなっせの運行時間帯や本数の見直し → 温泉から帰宅時の便がない ・車内での手押し車を置くスペースの確保
地域公共交通との連携の可能性	・施設と連携した利用促進の実施 ・施設内の待合所内での情報提供 ・交通系 IC カードとの連携 ・地域公共交通利用者に対する助成（施設内で使用可能な割引券の配布）	・施設内の待合所内での情報提供	・あじさいの湯を経由するバスの増便 ・福祉施設と連携して病院や買物に行きやすくなるような運行行程の検討 → 気軽に安心して利用でき、高齢者が家にこもらず外に出やすく利用できるような公共交通機関となれば健康長寿に繋がる ・あじさい号・コミバス・ミニバスと産交バス・タクシー・JR がよりよく連携（テリトリーをなくす）

(1) 調査結果概要

調査対象	■市内の高校 熊本県立宇土高等学校 ■市外の高校 熊本県立松橋高等学校
配布・回収方法	■学校を通じた配布・回収
調査方法	■調査票への記入式
調査期間	■令和3年9月1日（水）～9月10日（金）
調査内容	・個人属性 ・通学時の交通特性（利用交通手段、利用時間帯など） ・通学以外（帰宅時、休日などの私用）での公共交通利用状況及び行動特性 など

- ・宇土高校の学生のうち、約 3 割が宇土市内に居住しており、その他宇城市や熊本市が多くなっています。
- ・地区別では、宇土地区や花園地区が多くなっていますが、各地区から通学する生徒が見られます。
- ・松橋高校でも同様の傾向で、約 3 割が宇土市内に居住しており、その他宇城市や熊本市が多くなっています。
- ・地区別では、宇土市区と花園地区が多くなっていますが、各地区から通学する生徒が見られます。

図 調査結果概要



(2) 通学時の代表交通手段

- ・宇土高校の通学時の代表交通手段は、自転車が多く約 6 割を占めており、JR が約 2 割、路線バスが 6%となっています。
- ・宇土市内の居住者は、徒歩または自転車で通学していますが、網田地区からは JR で通学する生徒も見られるほか、緑川地区や網津地区、網田地区では「車で送迎」も見られる状況です。
- ・その他、宇城市や熊本市で比較的近くに住んでいる人は自転車で通学していますが、JR で通学する生徒も多く見られる状況です。
- ・松橋高校では、全体で自転車が約 5 割を占めていますが、JR で通学する生徒も約 3 割見られ、次いで「車で送迎」が 1 割強となっています。
- ・また、宇土市内から路線バスや JR で通学する生徒も見られます。

図 通学時の代表交通手段：居住地（市町村別）

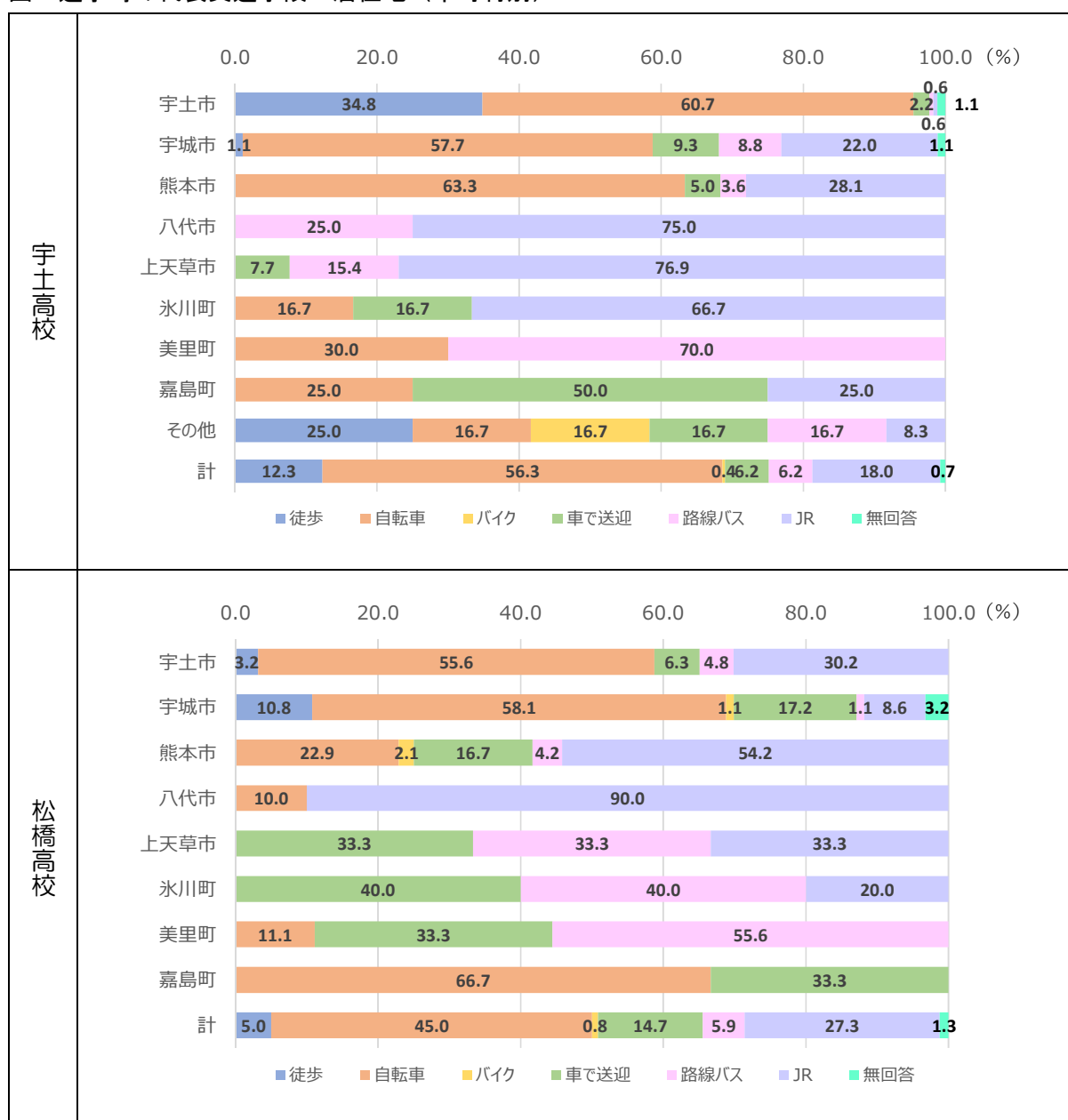
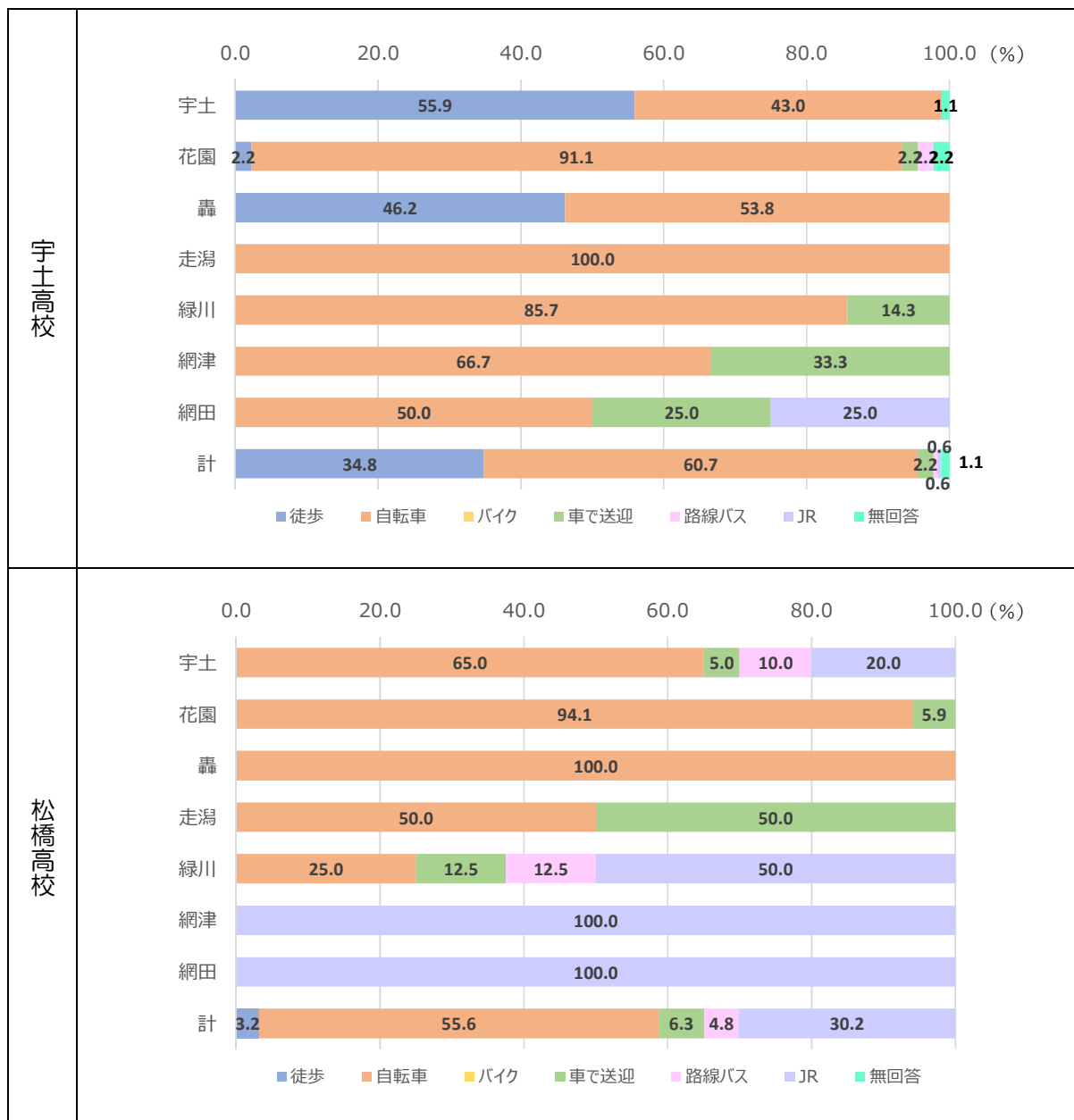


図 通学時の代表交通手段：前頁のうち宇土市内の地区別



(3) 地域公共交通利用時のアクセス・イグレス手段

- ・自宅からバス停・駅までの交通手段は、路線バス利用者では徒歩が多い状況ですが、鉄道利用者においては、自転車や車で送迎も多い状況です。
- ・なお、路線バスと鉄道を乗り継いで通学している生徒は見られません。
- ・バス停から学校までの交通手段は、徒歩が最も多い状況です。
- ・鉄道駅から学校までの交通手段は、宇土高校では自転車が多くを占める一方、松橋高校では徒歩が多くなっています。

図 アクセス手段（自宅からバス停・駅までの交通手段）

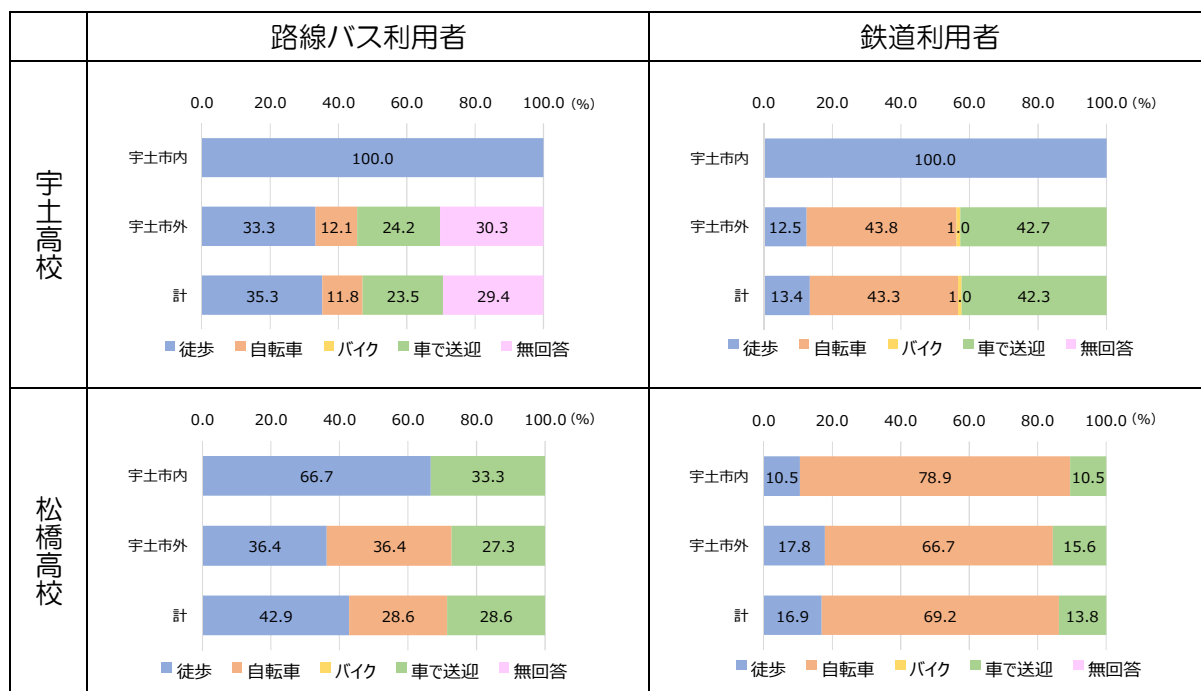
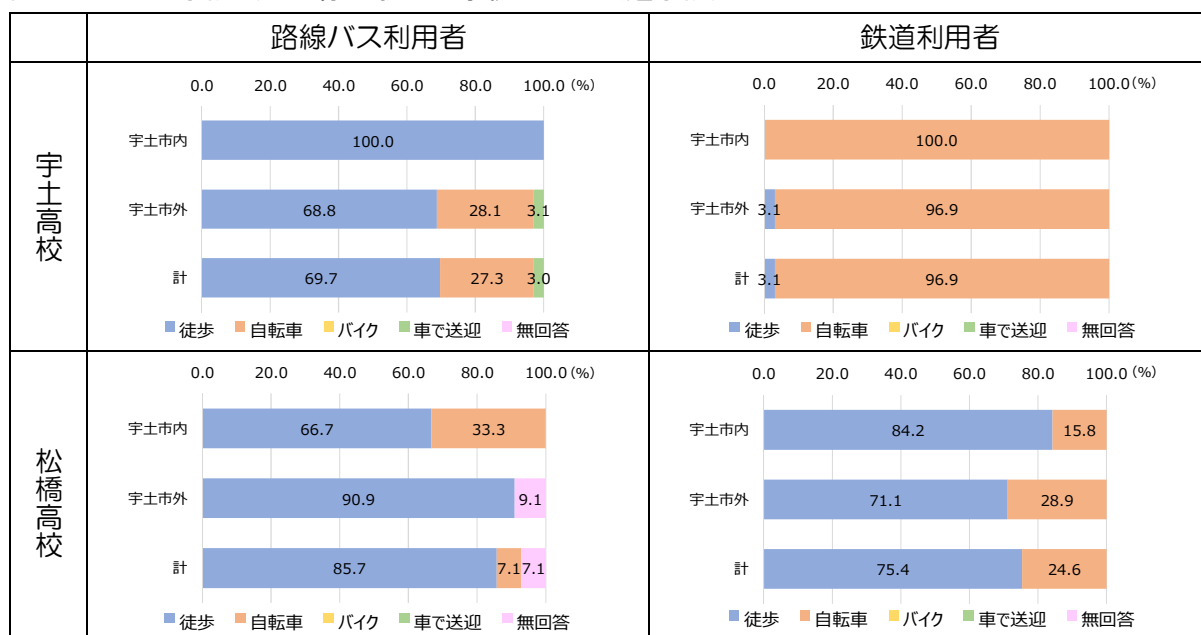


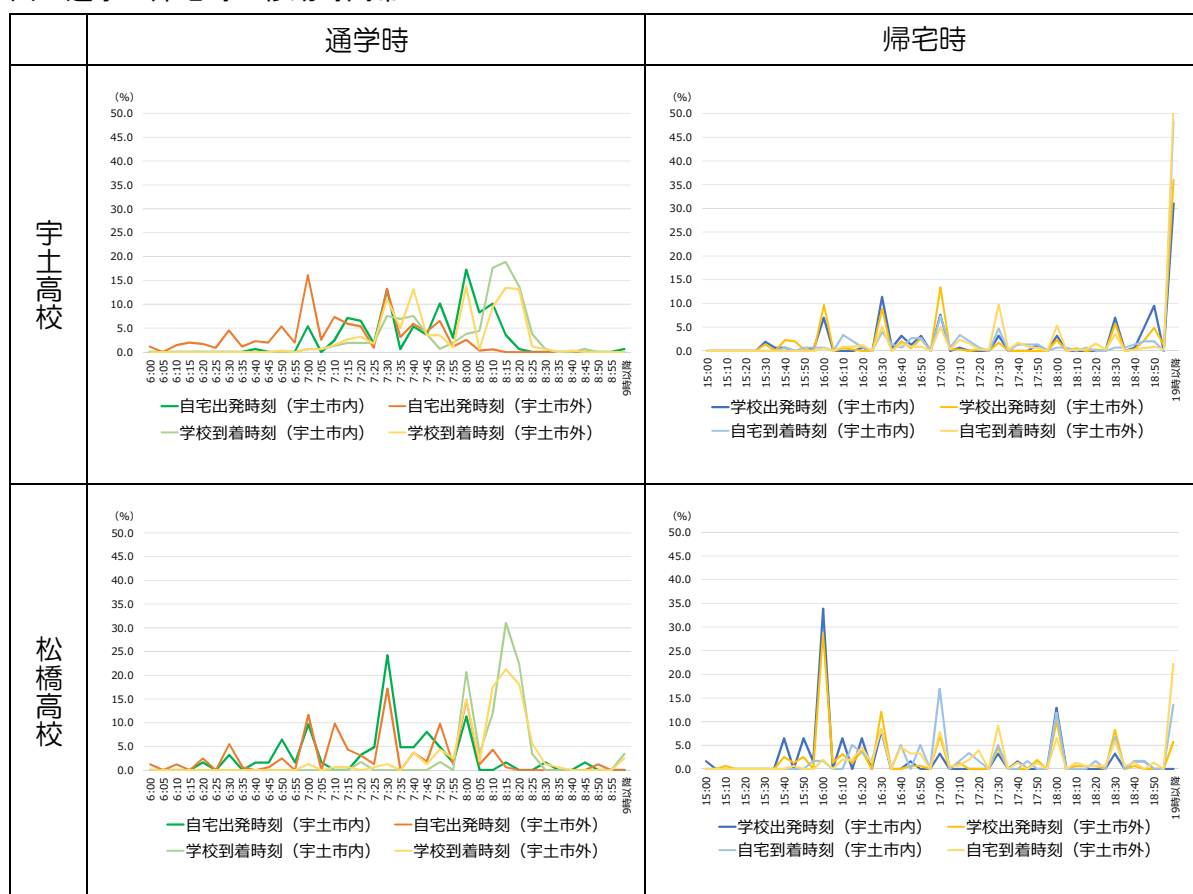
図 イグレス手段（バス停・駅から学校までの交通手段）



(4) 通学・帰宅時の移動時間帯

- ・通学時の移動時間帯として、宇土高校では、市内居住者は 7:00～8:00 に自宅を出発し、8:00～8:30 に学校に到着するのが多く見られます。
- ・一方、市外から通学する生徒は、7:00 以前に自宅を出発し、8:00 頃に学校に到着する生徒も多く見られます。
- ・松橋高校では、市内居住者と市外で移動時間帯が概ね一致している状況で、比較的公共交通で通学する生徒が多いことから、移動する需要が集中していることが想定されます。
- ・一方、帰宅時間帯は 16:00 以降で分散している状況で、多くの生徒が 19 時以降に自宅に到着する状況となっています。

図 通学・帰宅時の移動時間帯



(5) 地域公共交通を利用しない理由と今後の利用意向(非利用者)

- ・地域公共交通を利用しない理由としては、両校とも「家が近い」が最も多くなっており、次いで松橋高校生は「家族が送迎してくれる」が多くなっています。
- ・その他理由においては同じような傾向となっており、「運賃が高い」を理由としている生徒は約1割、「公共交通の利用方法が分からない」を理由としている生徒は1割未満となっています。
- ・今後の地域公共交通の利用意向としては、宇土高校では約5割、松橋高校では約3割が「利用したいと思わない」と回答しており、「是非利用したい」と回答した人は数%となっています。
- ・特に、宇土高校に通学する市内居住者では利用意向が低い状況です。

図 利用しない理由（複数回答）

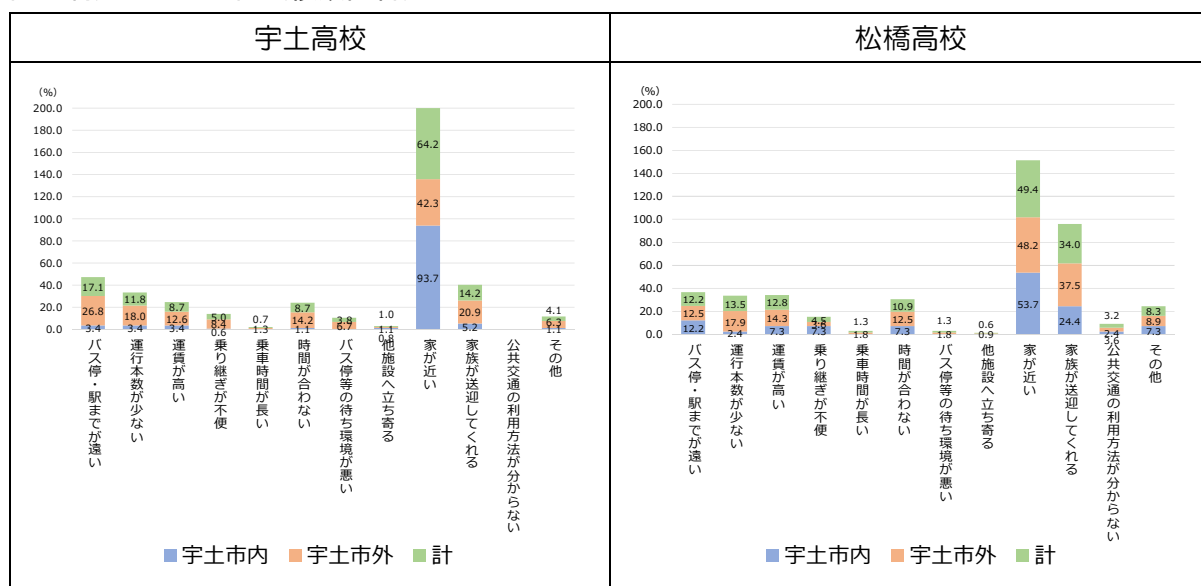
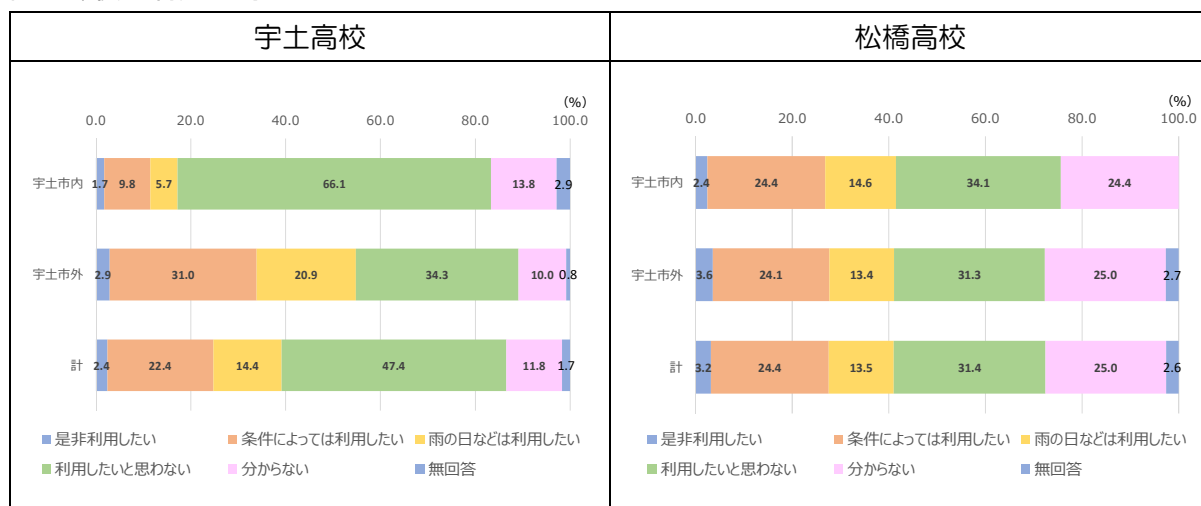


図 今後の利用意向



(6) 地域公共交通の利用状況及び利用するにあたって重要な事項(全員)

- 日常生活における地域公共交通の利用状況は、週に1回以上利用する人が、両高校とも約2割未満となっています。
- 居住地別で比較すると、市内居住者の利用頻度が低い状況であり、通学等で利用しない地域公共交通を利用しないことで休日等での利用も少なくなることが想定されます。
- 利用するにあたって必要な事項としては、「運行本数の充実」や「運賃の安さ」が多くなっており、通学以外で利用するにあたっては費用面も大きく影響することが想定されます。
- その他、「分かりやすさ」に対する意見も比較的多くなっています。

図 地域公共交通の利用状況

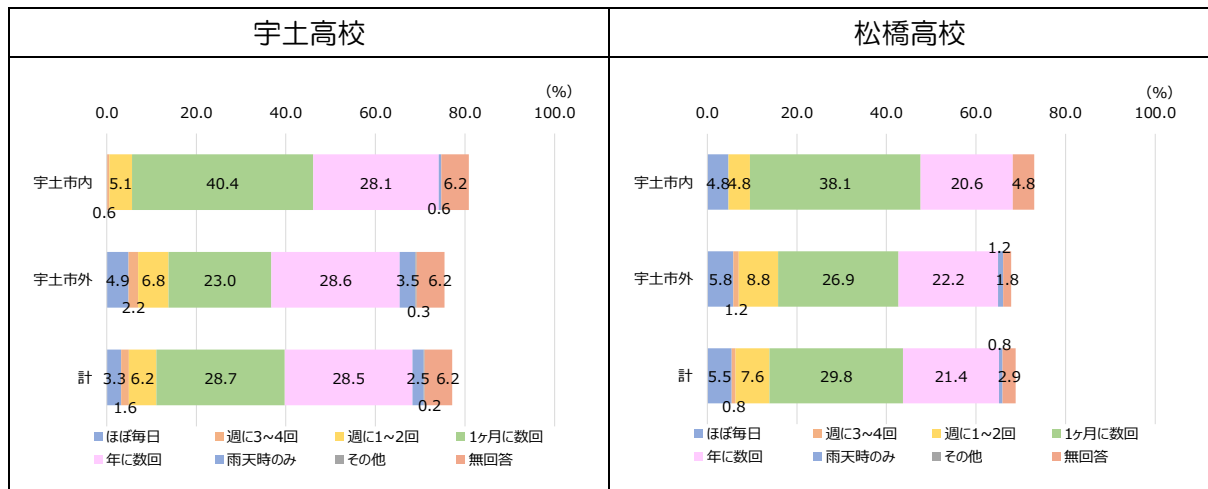
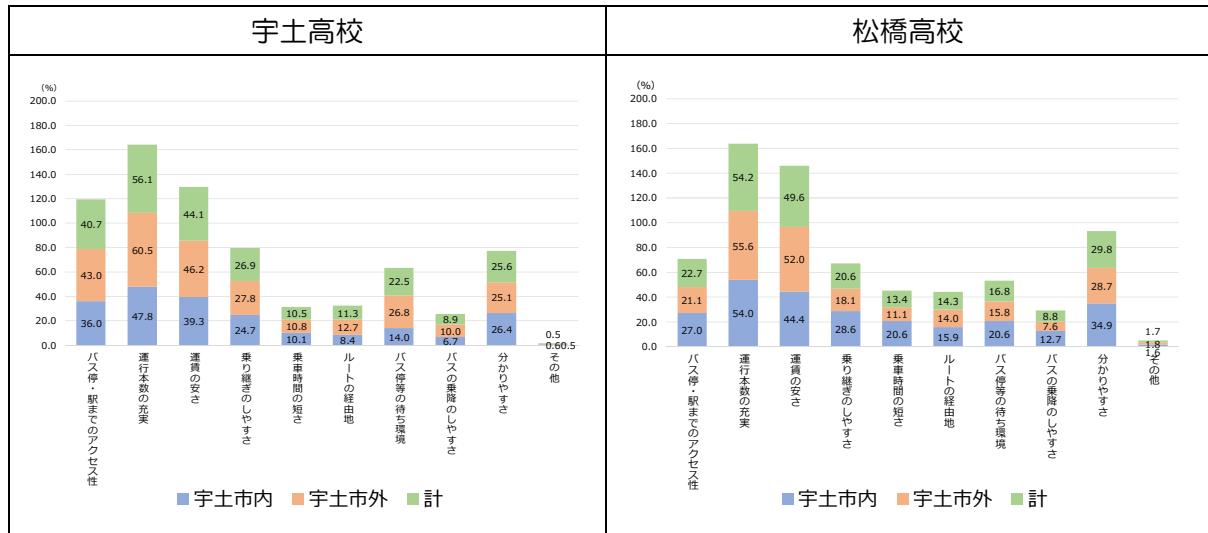


図 利用するにあたって重要な事項



(7) 地域公共交通の維持に向けた協力意向(全員)

- ・地域公共交通の維持に向けた協力意向として、宇土高校に通学する市内居住者では約3割が「今まで利用していなかったが、今後はできるだけ利用しようと思う」と回答し、約2割が「今まで以上に公共交通を利用しようと思う」と回答するなど、継続的に情報発信を行うことで地域公共交通に対する意識の変化から行動の変化につながる事が想定されます。
- ・松橋高校に通学する市内居住者でも同様の傾向となっています。

図 地域別の協力意向

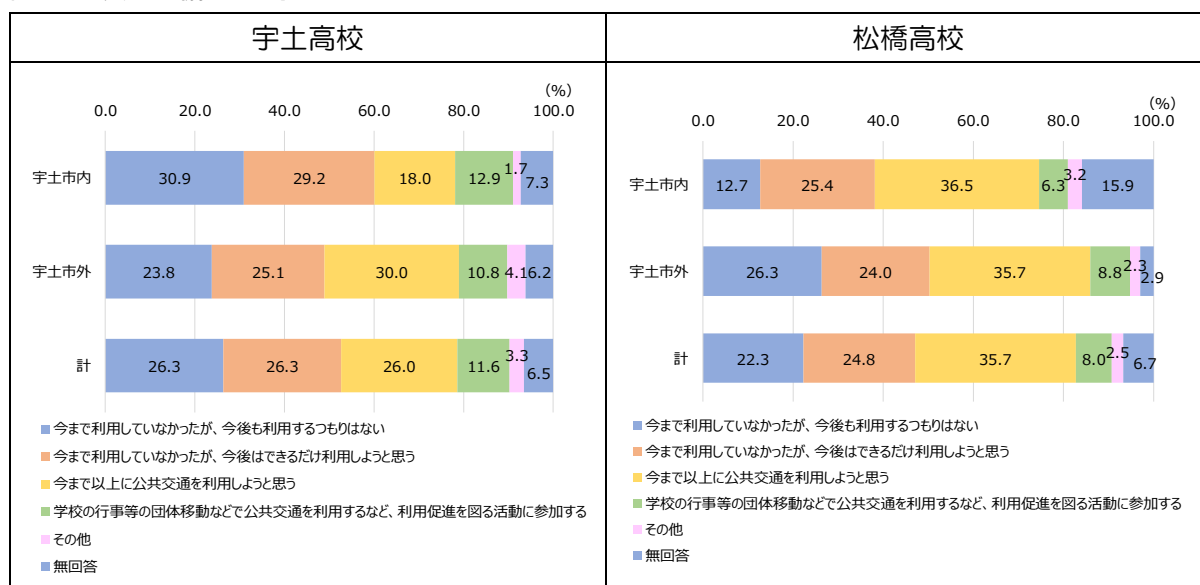
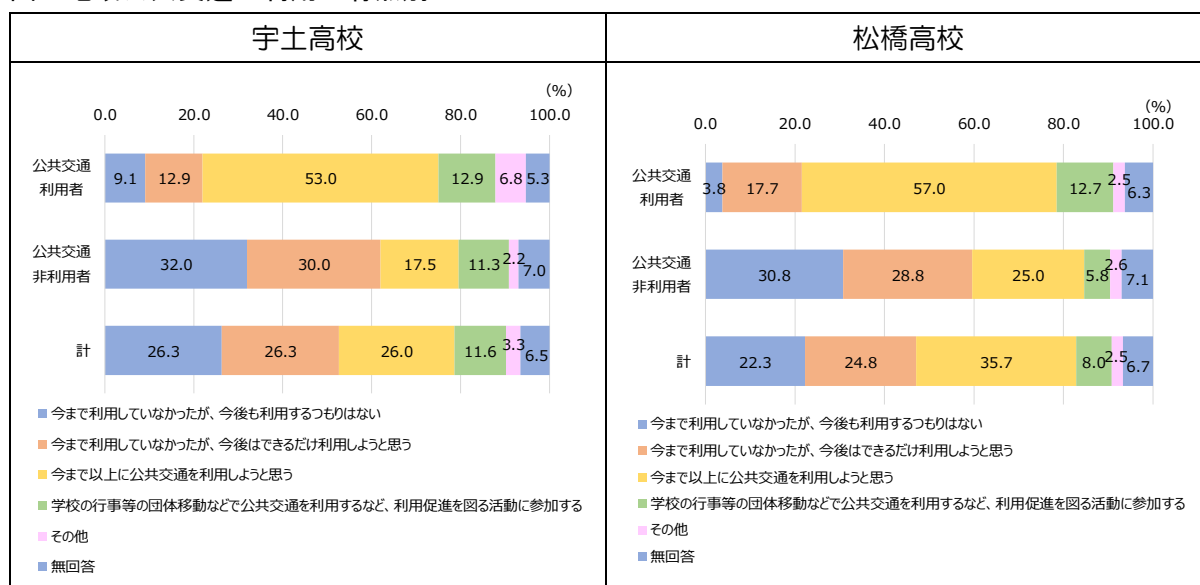


図 地域公共交通の利用の有無別



(1) 宇土地区

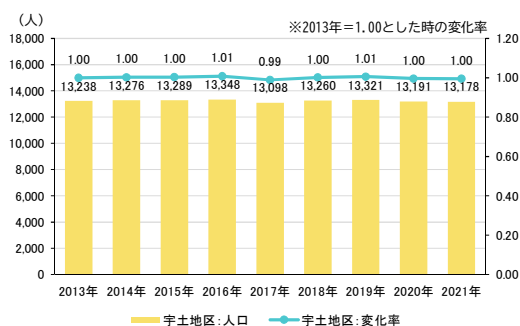
位置図



1) 地域の概況等

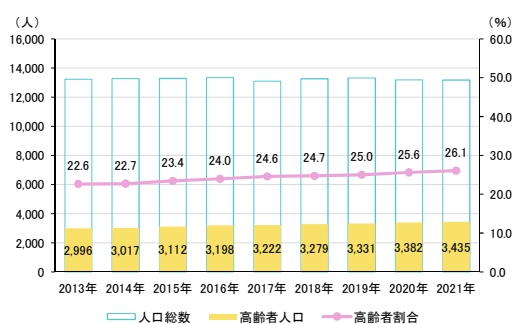
- 地区内の人口は、1万3千人程度で維持しています。
- 高齢者割合も微増傾向にあり、近年は全体の約26%が高齢者となっています。

図 地区内人口の推移と変化率



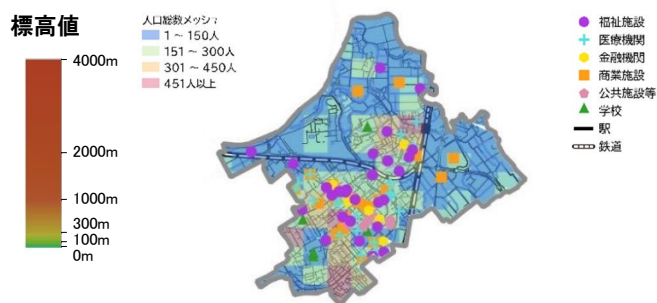
出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土地理院「電子国土 Web」

- 宇土駅を中心とした中心市街地には、様々な施設が立地しており、特に福祉施設や商業施設、医療機関が多く分布しています。
- 駅周辺は市街地が形成されていますが、北部側は農地が分布しており、人口分布も少ないです。

3) 地域公共交通の利用実態

- 地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が64.2%と最も多くなっていますが、「年に数回」の利用割合は他地域と比べると多いです。
- 普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が63.0%と最も多く半数以上を占めており、公共交通の利用は少ないです。
- 他地区と比較して、宇土市街地に近い当該地区では「自転車」での移動が約1割と多く見られます。
- また、唯一「コミュニティバス」の利用が見られます。

図 地域公共交通の利用状況 (n=120)

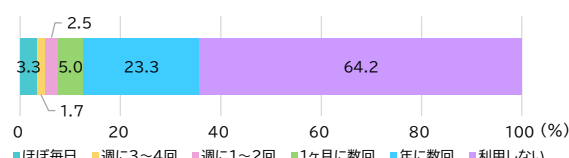
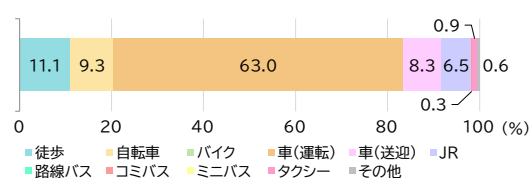


図 普段利用する移動手段 (n=324)

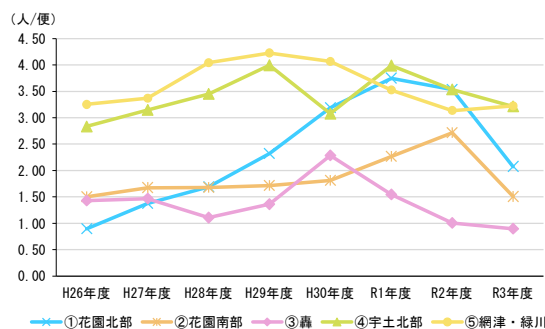


2) 地域公共交通の運行実態

- ・地区内は鉄道,路線バス,コミュニティバス(行長しゃん),ミニバス(のんなっせ)が運行しています。
- ・ミニバスの利用者数はおおむね現状維持であり,運賃収入割合も14%程度で推移しています。

図 ミニバス(宇土北部線)

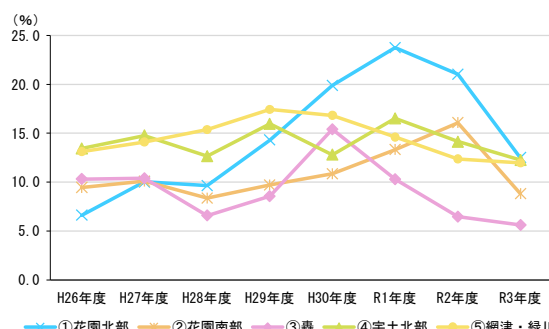
: 一便当たりの利用者数



出典: 宇土市資料

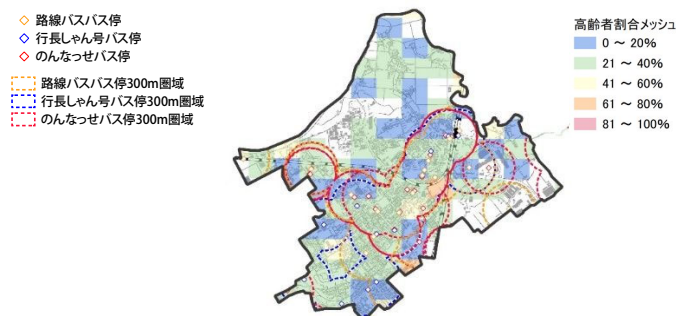
図 ミニバス(宇土北部線)

: 運行事業費に対する運賃収入割合



出典: 宇土市資料

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図



出典: 国勢調査 250mメッシュ, 国土数値情報

- ・宇土駅周辺ではサービスが重複しています。
- ・面的には駅前周辺の市街地をカバーしているものの,北部側の開発が進む地域ではサービスが不十分な部分も見られます。

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- ・公共交通を利用しない理由は,「自家用車が楽」という理由や,「目的地まで直接行けない」ために公共交通を利用しない傾向にあります。
- ・公共交通の利用において便利だと思う情報は,「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由 (n=105)

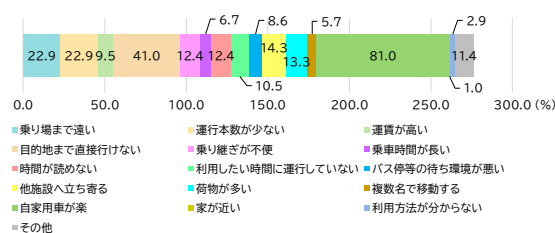
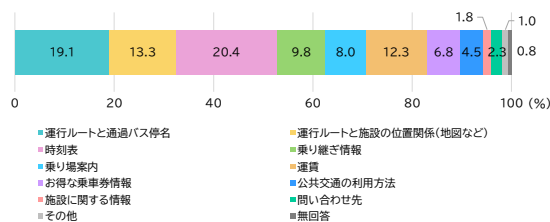


図 公共交通を利用するにあたって, 便利だと思う情報 (n=398)



(2) 花園地区

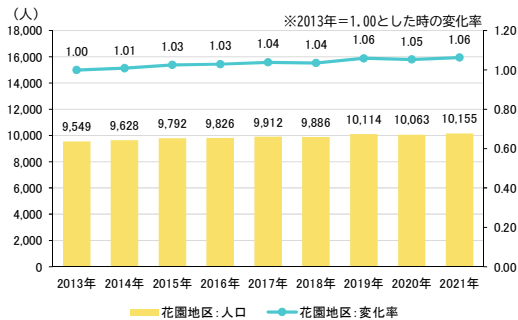
1) 地域の概況等

- 地区内の人口は、微増傾向にあります。
- 高齢者割合も微増傾向にあり、近年は全体の約 25%が高齢者となっています。

位置図

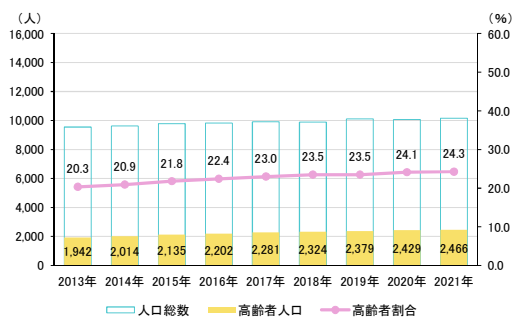


図 地区内人口の推移と変化率



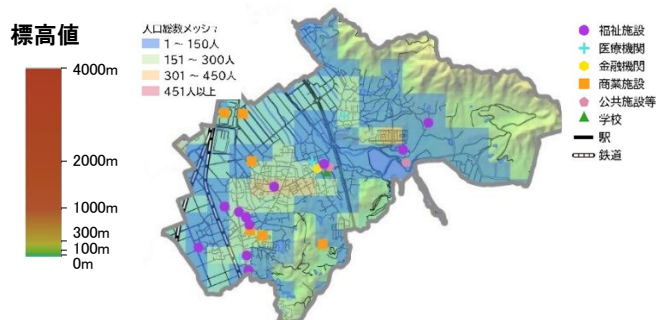
出典：国勢調査、住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査、住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



出典：国勢調査 250mメッシュ、国土地理院「電子国土 Web」

- 住宅地開発が盛んであったため、農地と住宅地が多く分布しています。
- 地区内には様々な施設が立地しており、その周辺に人口が分布しています。
- 地区内は商業施設と福祉施設が主に立地しており、医療機関や学校などもあります。

3) 地域公共交通の利用実態

- 地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が 67.4%と最も多くなっており、「年に数回」の利用割合は他地域と比べると多いです。
- 普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が 69.7%と最も多く半数以上を占めており、公共交通の利用は少ないです。
- 他地区と比較して、宇土市街地に近い当該地区では、「自転車」での移動が約 1 割と多く見られます。

図 地域公共交通の利用状況 (n=92)

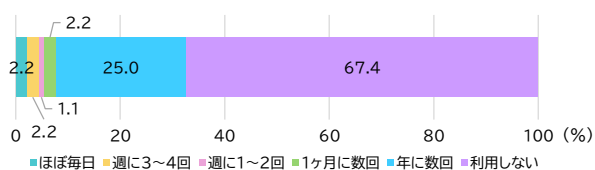
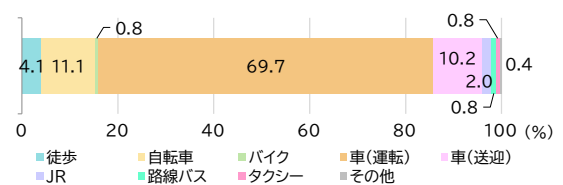


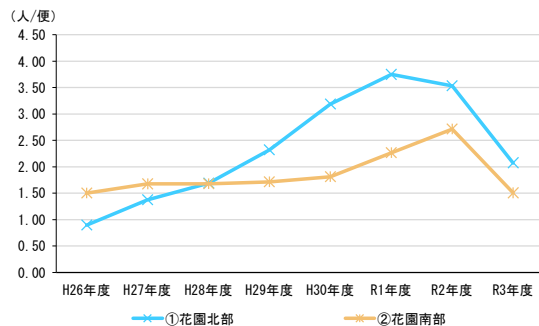
図 普段利用する移動手段 (n=244)



2) 地域公共交通の運行実態

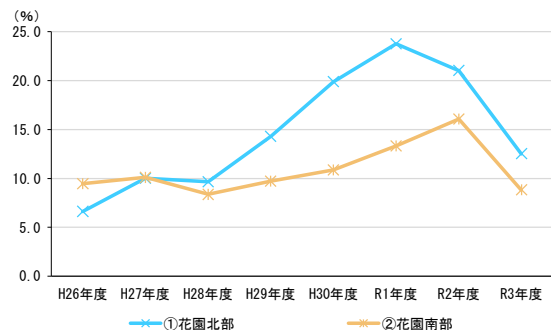
- 地区内は路線バス、コミュニティバス（行長しゃん）、ミニバス（のんなっせ）が運行しています。
- ミニバスの利用者数は年々微増傾向にあり、それに伴い運賃収入割合も増加しています。

図 ミニバス：一便当たりの利用者数



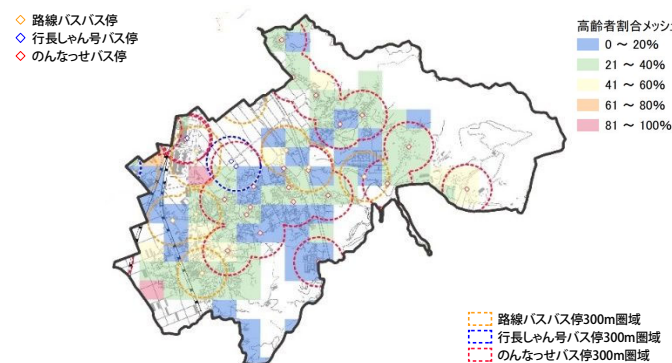
出典：宇土市資料

図 ミニバス：運行事業費に対する運賃収入割合



出典：宇土市資料

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図



出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土数値情報

- 面的には多くの地域をカバーしているものの、バスの運行本数やバス停までのアクセス性に差があります。

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- 公共交通を利用しない理由は、「自家用車が楽」という理由により、公共交通を利用しない傾向にあります。
- 公共交通の利用において便利だと思う情報は、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由 (n=85)

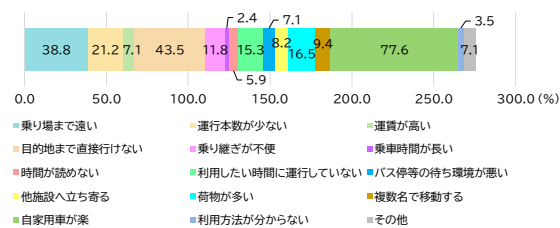
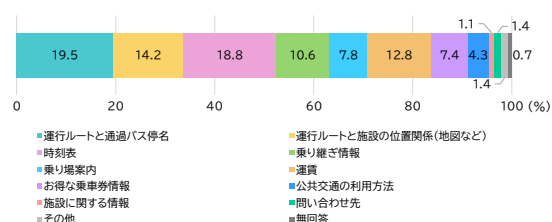


図 公共交通を利用するにあたって、便利だと思う情報 (n=282)



(3) 轟地区

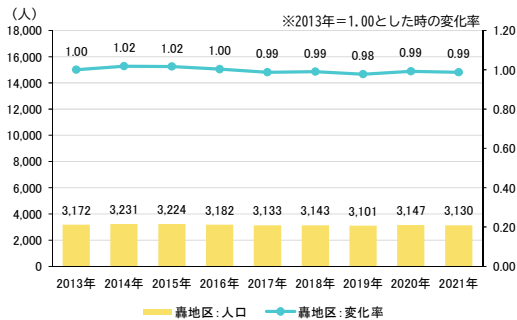
1) 地域の概況等

- 地区内の人口は、3千人程度で維持しています。
- 高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約30%が高齢者となっています。

位置図

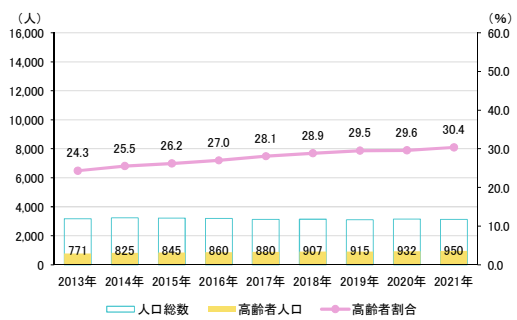


図 地区内人口の推移と変化率



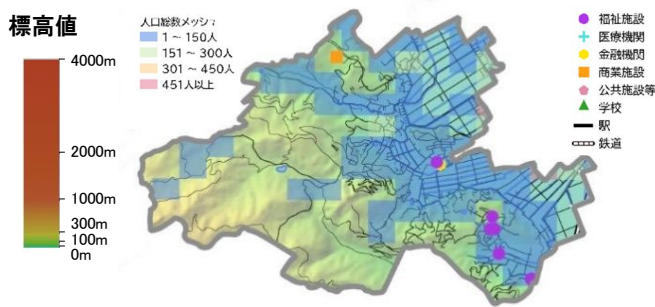
出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土地理院「電子国土 Web」

- 宇土地区に面する地域では、中心市街地に近いこともあり、多くの施設が立地しており、その周辺に農地が分布しています。
- 西側は森林地帯となっており、人口はほとんど分布していません。

3) 地域公共交通の利用実態

- 地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が77.1%と最も多いです。
- 1ヶ月以内に複数回利用する割合は5.7%となっており、利用頻度が低いです。
- 普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が68.8%と最も多く半数以上を占めており、公共交通の利用は少ないです。

図 地域公共交通の利用状況 (n=35)

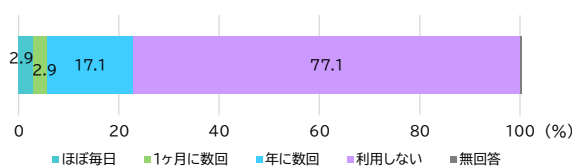
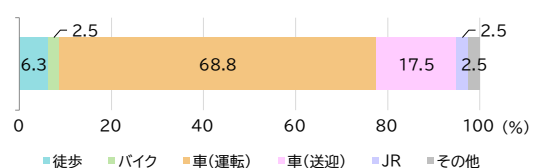


図 普段利用する移動手段 (n=80)

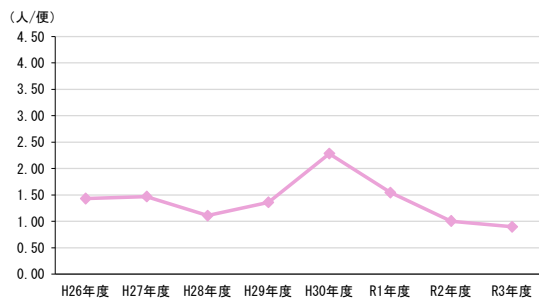


2) 地域公共交通の運行実態

- ・地区内は路線バス、コミュニティバス（行長しゃん）、ミニバス（のんなっせ）が運行しています。
- ・ミニバスの利用者数はH30年度までは微増傾向にあったが、以降は減少傾向にあります。

図 ミニバス（轟線）

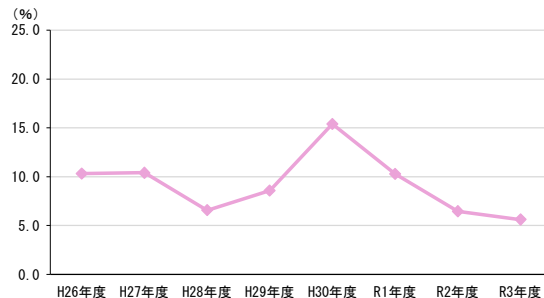
：一便当たりの利用者数



出典：宇土市資料

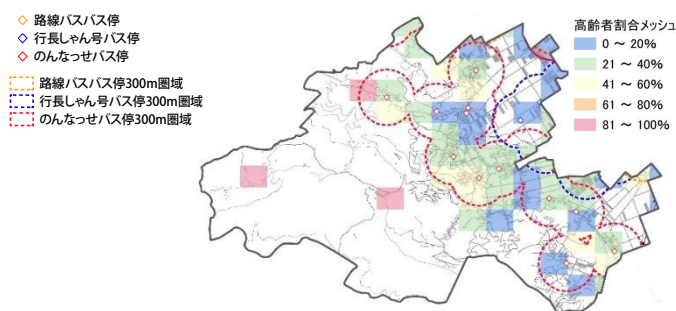
図 ミニバス（轟線）

：運行事業費に対する運賃収入割合



出典：宇土市資料

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図



出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土数値情報

- ・面的には高齢者が分布する地域をおおむねカバーしているものの、バスの運行本数やバス停までのアクセス性に差があります。

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- ・公共交通を利用しない理由は、「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にあります。
- ・他地区と比べて、「乗り場まで遠い」ことが多く割合を占めています。
- ・公共交通の利用において便利だと思う情報は、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」,「運行ルートと施設の位置関係（地図など）」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由 (n=33)

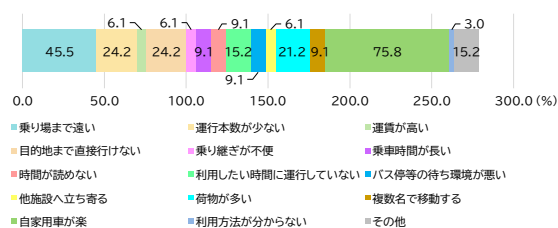
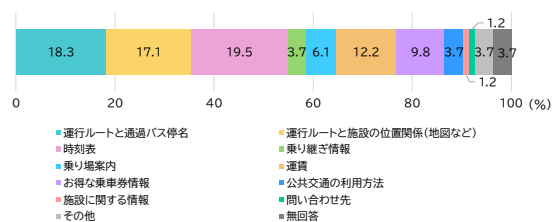


図 公共交通を利用するにあたって、便利だと思う情報 (n=82)



(4) 走潟地区

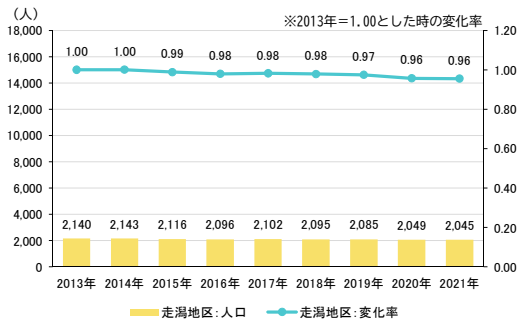
位置図



1) 地域の概況等

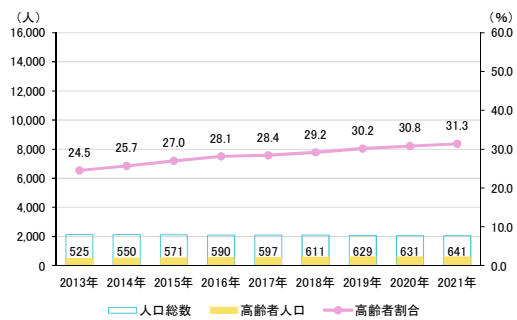
- ・地区内の人口は、微減傾向にあります。
- ・高齢者割合は増加傾向にあり、近年は全体の約30%が高齢者となっています。

図 地区内人口の推移と変化率



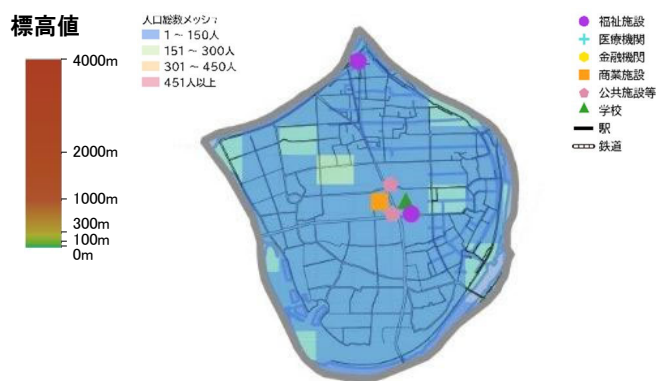
出典：国勢調査、住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査、住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



- ・浜戸川で他地区と分離した地区であり、農地と住宅が混在しているため、分布する人口は少ないです。
- ・走潟小学校中心に体育館や公民館などの施設が立地しています。

出典：国勢調査 250mメッシュ、国土地理院「電子国土 Web」

3) 地域公共交通の利用実態

- ・地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が81.3%と最も多いです。
- ・1ヶ月以内に複数回利用する割合は12.5%となっており、利用頻度が低いです。
- ・普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が75.8%と最も多く半数以上を占めており、「車（送迎）」と合わせてみると、より公共交通の利用は少ないです。

図 地域公共交通の利用状況 (n=16)

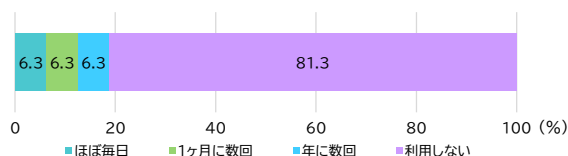
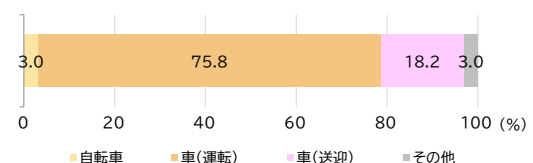


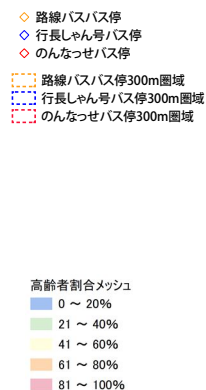
図 普段利用する移動手段 (n=33)



2) 地域公共交通の運行実態

- 地区内はミニバス（のんなっせ）が運行しています。
- コミュニティバス（行長しゃん）の運行はなく、既存の公共交通でおおむねの地域をカバーしていましたが、2021年8月の一部路線バスの廃止に伴い、ミニバスの運行区間の見直しを行いました。

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図



出典：国勢調査 250mメッシュ、国土数値情報

図 走潟線バス路線廃止状況



出典：産交バス資料

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- 公共交通を利用しない理由は、「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にあります。
- 他地区と比べて、「乗り場まで遠い」ことが占めています。
- 公共交通の利用において便利だと思う情報は、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由 (n=14)

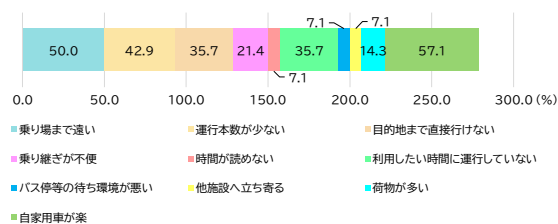
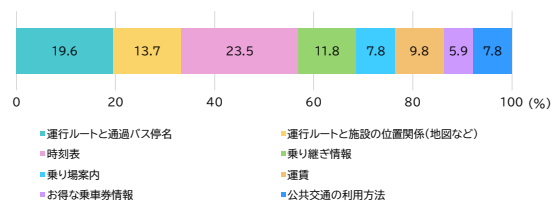


図 公共交通を利用するにあたって、
便利だと思う情報 (n=51)



(5) 緑川地区

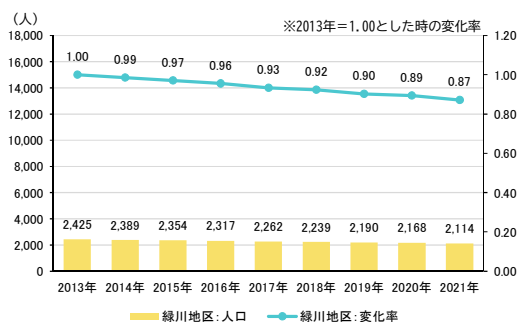
位置図



1) 地域の概況等

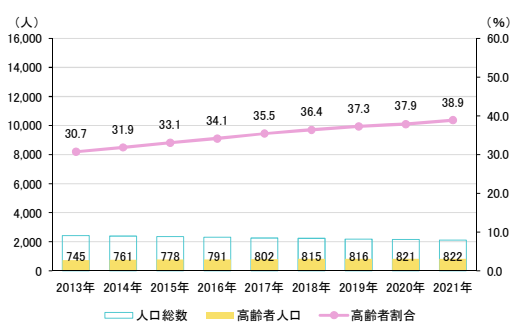
- 地区内の人口は、減少傾向にあり、2013年と比較して2021年には約300人減少しています。
- 高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約40%が高齢者となっています。

図 地区内人口の推移と変化率



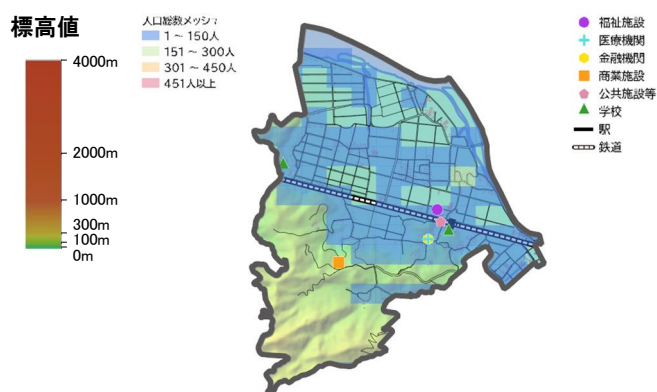
出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



- 緑川駅を境界に、北側が農地、南側が森林地帯となっており、農地内には小規模な集落が形成されています。
- 緑川駅周辺に施設が立地しています。

出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土地理院「電子国土 Web」

3) 地域公共交通の利用実態

- 地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が81.8%と最も多いです。
- 1ヶ月以内に複数回利用する割合は9.1%となっており、利用頻度が低いです。
- 普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が91.7%と最も多くほとんどの割合を占めており、「車（送迎）」と合わせると、より公共交通の利用は少ないです。

図 地域公共交通の利用状況 (n=11)

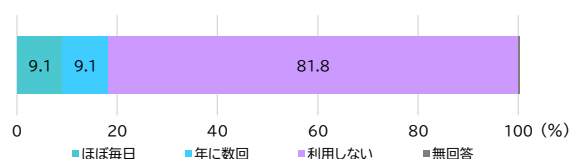
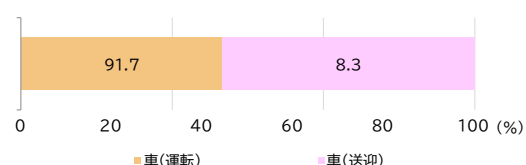


図 普段利用する移動手段 (n=24)

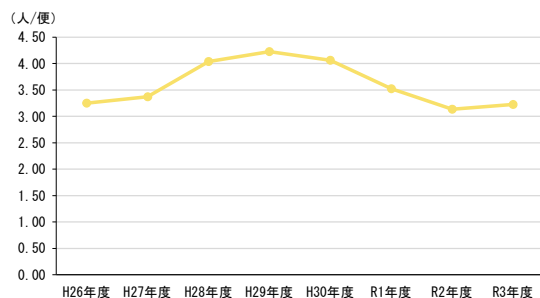


2) 地域公共交通の運行実態

- 地区内は鉄道,路線バス,ミニバス（のんなっせ）が運行しています。
- ミニバスの利用者数は H29 年度までは微増傾向にありましたが,以降は減少傾向にあります。

図 ミニバス（網津・緑川線）

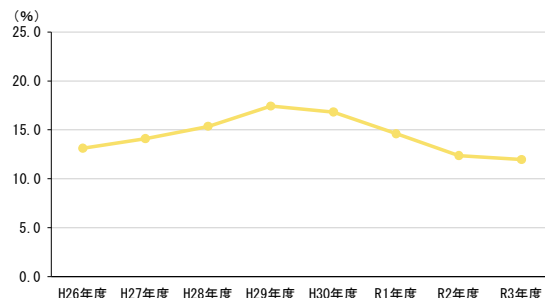
：一便当たりの利用者数



出典：宇土市資料

図 ミニバス（網津・緑川線）

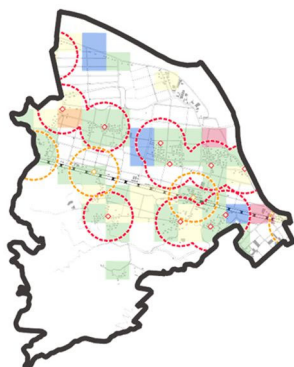
：運行事業費に対する運賃収入割合



出典：宇土市資料

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図

- ◇ 路線バスバス停
- ◇ 行長しゃん号バス停
- ◇ のんなっせバス停
- 路線バス/バス停300m圏域
- 行長しゃん号バス停300m圏域
- のんなっせバス停300m圏域



- 高齢者割合メッシュ
- 0 ~ 20%
- 21 ~ 40%
- 41 ~ 60%
- 61 ~ 80%
- 81 ~ 100%

- 面的には多くの地域をカバーしているものの,バスの運行本数やバス停までのアクセス性に差があります。

出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土数値情報

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- 公共交通を利用しない理由は,「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にあります。
- 公共交通の利用において便利だと思う情報は,「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」,「運行ルートと施設の位置関係（地図など）」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由 (n=10)

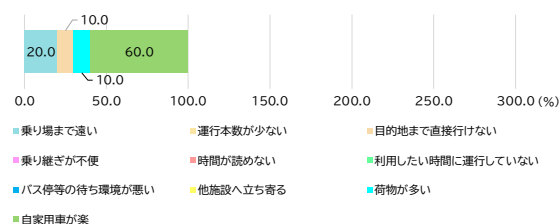
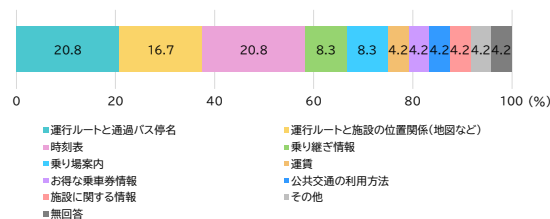


図 公共交通を利用するにあたって, 便利だと思う情報 (n=24)



(6) 網津地区

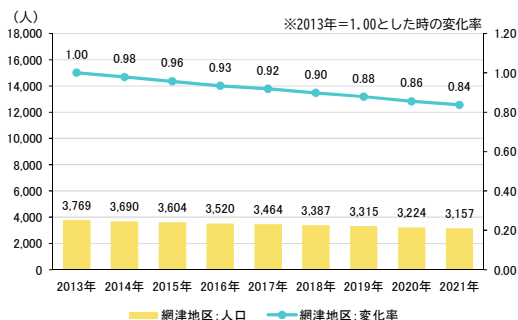
位置図



1) 地域の概況等

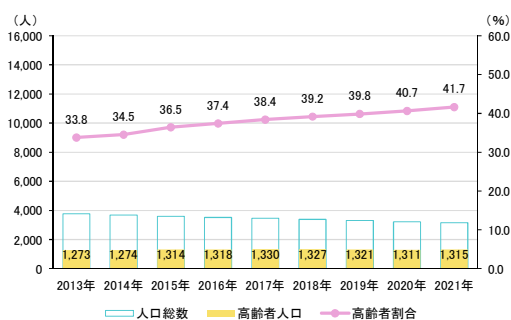
- 地区内の人口は、減少傾向にあり、2013年と比較して2021年には約600人減少しています。
- 高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約40%が高齢者となっています。

図 地区内人口の推移と変化率



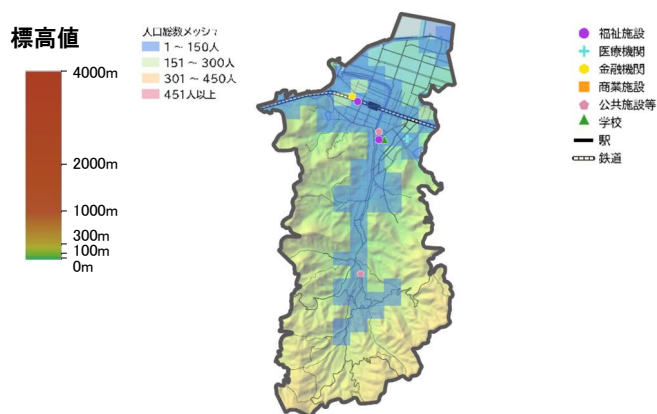
出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査, 住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土地理院「電子国土 Web」

- 地区内は南部の森林地帯が大部分を占めており、鉄道（三角線）と主要地方道である県道58号沿いに人口が分布しています。
- 住吉駅周辺に福祉施設などが分布していますが、商業施設が地区内に立地していないため、買い物は地区外への移動が必要になると考えられます。

3) 地域公共交通の利用実態

- 地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が82.1%と最も多いです。
- 1ヶ月以内に複数回利用する割合は3.6%となっており、利用頻度が低いです。
- 普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が最も多く73.0%で半数以上を占めており、「車（送迎）」と合わせると、より公共交通の利用は少ないです。

図 地域公共交通の利用状況 (n=28)

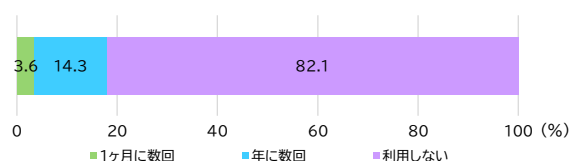
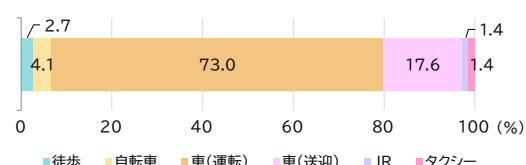


図 普段利用する移動手段 (n=28)

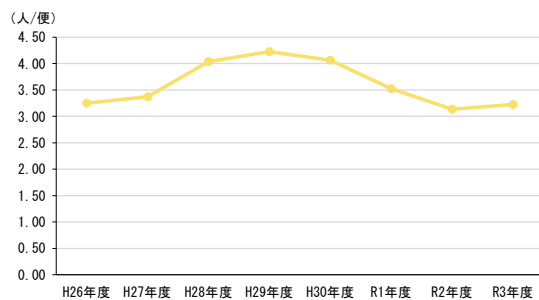


2) 地域公共交通の運行実態

- ・地区内は鉄道,路線バス,ミニバス（のんなっせ）が運行しています。
- ・ミニバスの利用者数はH29年度までは微増傾向にあったが,以降は減少傾向にあります。

図 ミニバス（網津・緑川線）

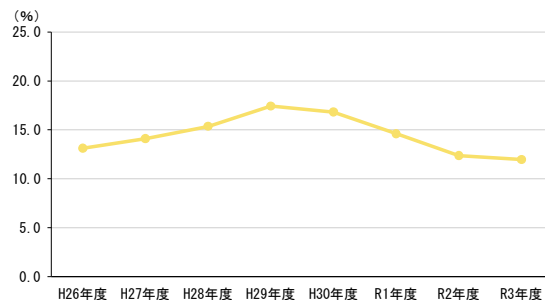
：一便当たりの利用者数



出典：宇土市資料

図 ミニバス（網津・緑川線）

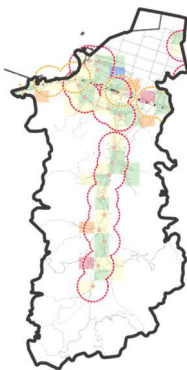
：運行事業費に対する運賃収入割合



出典：宇土市資料

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図

- ◇ 路線バス/バス停
- ◇ 行長しゃん号/バス停
- ◇ のんなっせ/バス停
- 路線バス/バス停300m圏域
- 行長しゃん号/バス停300m圏域
- のんなっせ/バス停300m圏域



- 高齢者割合メッシュ
- 0 ~ 20%
- 21 ~ 40%
- 41 ~ 60%
- 61 ~ 80%
- 81 ~ 100%

- ・面的にはミニバスにより,多くの地域をカバーしているものの,バスの運行本数やバス停までのアクセス性に差があります。

出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土数値情報

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- ・公共交通を利用しない理由は,「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にあります。
- ・公共交通の利用において便利だと思う情報は,「運行ルートと通過バス停名」や「運賃」,「時刻表」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由 (n=27)

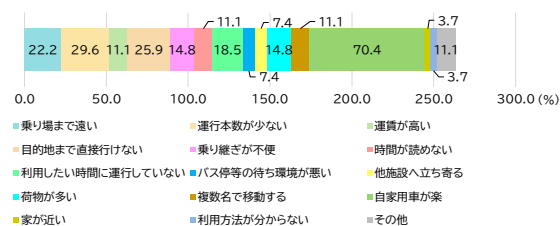
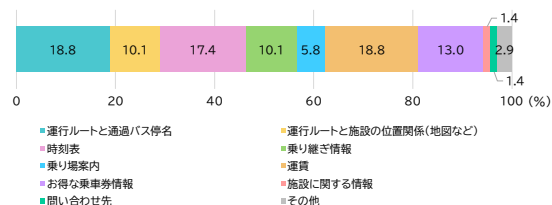


図 公共交通を利用するにあたって, 便利だと思う情報 (n=69)



(7) 網田地区

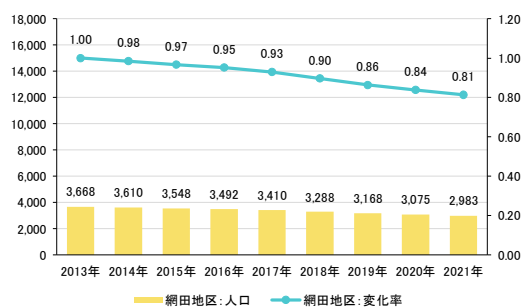
位置図



1) 地域の概況等

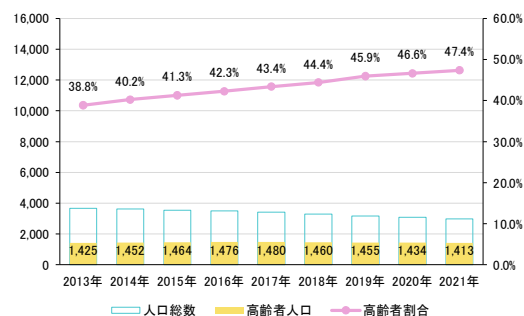
- 地区内の人口は、減少傾向にあり、2013年と比較して2021年には約700人減少しています。
- 高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約50%が高齢者となっています。

図 地区内人口の推移と変化率



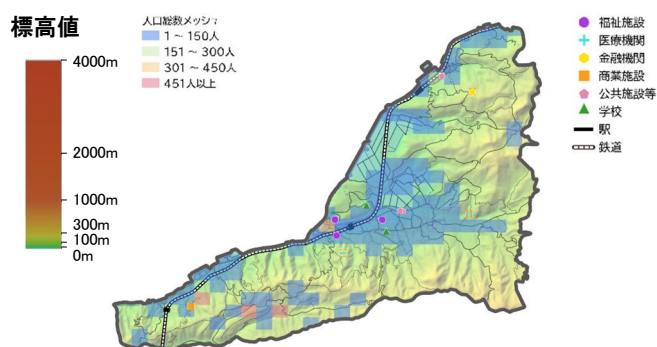
出典：国勢調査、住民基本台帳

図 高齢者割合の推移



出典：国勢調査、住民基本台帳

図 人口総数メッシュ・施設分布図



出典：国勢調査 250mメッシュ、国土地理院「電子国土 Web」

- 北部の海沿いに農地が分布し、南部は森林地帯がほぼ占めています。
- 地区内には、肥後長浜駅と網田駅、赤瀬駅があり、網田駅周辺に福祉施設などが立地しています。

3) 地域公共交通の利用実態

- 地域公共交通の利用頻度をみると、「利用しない」が60.0%と最も多いですが、「年に数回」の利用割合は他地域と比べると多いです。
- 普段利用する移動手段は、「車（運転）」の利用が75.7%と最も多く半数以上を占めており、「車（送迎）」と合わせてみると、より公共交通の利用は少ないです。
- 一方、他地域と比べ「JR」の利用が多く見られます。

図 地域公共交通の利用状況（n=15）

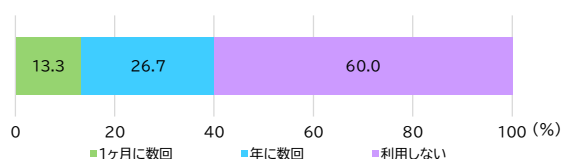
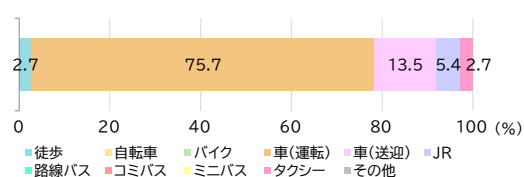


図 普段利用する移動手段（n=37）

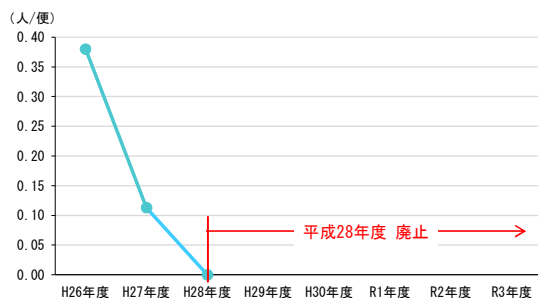


2) 地域公共交通の運行実態

- ・地区内は鉄道と路線バス、デマンドバスが運行しています（ミニバスは H28 年度に廃止）。
- ・肥後長浜駅、網田駅、赤瀬駅の一日の平均乗客数は宇土駅や住吉駅と比較して著しく少ないです。

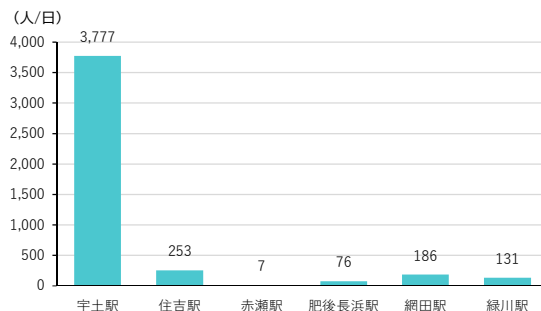
図 ミニバス（網田線）

：一便当たりの利用者数



出典：宇土市資料

図 宇土市内駅別一日の平均乗車数（2018 年）



出典：国土数値情報

図 高齢者割合メッシュ・バス停圏域図



出典：国勢調査 250mメッシュ, 国土数値情報

- ・高齢者が分布する地域が面的にカバーできていないエリアがあり、公共交通空白地域が見られます。

4) 地域公共交通に求めるニーズ

- ・公共交通を利用しない理由は、「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にあります。
- ・また、「目的地まで直接行けない」ことも理由として多く見られます。
- ・公共交通の利用において便利だと思う情報は、「運賃」や「運行ルートと通過バス停名」、「時刻表」の情報が重視される傾向にあります。

図 地域公共交通を利用しない理由（n=13）

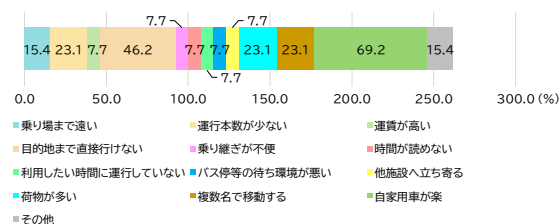
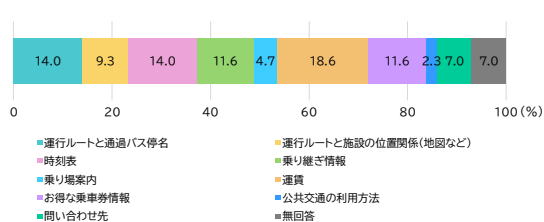


図 公共交通を利用するにあたって、便利だと思う情報（n=43）



(8) 地区別の現況等の整理結果

	①地域の概況等	②地域公共交通の運行実態	③地域公共交通の利用実態	④地域公共交通に求めるニーズ
宇 土 地 区	・地区内の人口は、現状維持 ・高齢者割合も微増傾向にあり、近年は全体の約26%が高齢者となっている	・鉄道、路線バス、コミバス、ミニバスが運行 ・面的には駅前周辺の市街地をカバーしているものの、北部側の開発が進む地域ではサービスが不十分な部分も見られる	・公共交通を利用しない割合は64.2%と最も多いが「年に数回」の利用割合は他地域と比べると多い ・移動手段は、「車（運転）」の利用が多く、公共交通の利用は少ない ・他地区と比較して、宇土市街地に近いため、「自転車」利用が見られる ・唯一、「コミュニティバス」の利用が見られる	・「自家用車が楽」という理由や、「目的地まで直接行けない」ために公共交通を利用しない傾向にある ・公共交通の利用において、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」の情報が重視される
花 園 地 区	・地区内の人口は、微増傾向にある ・高齢者割合も微増傾向にあり、近年は全体の約25%が高齢者となっている	・路線バス、コミバス、ミニバスが運行 ・面的には既存の公共交通が多く、地域をカバーしている	・公共交通を利用しない割合は67.4%と最も多いが「年に数回」の利用割合は他地域と比べると多い ・移動手段は、「車（運転）」の利用が多く、公共交通の利用は少ない ・他地区と比較して、宇土市街地に近いいため、「自転車」利用が見られる	・「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にある ・公共交通の利用において、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」の情報が重視される
轟 地 区	・地区内の人口は、現状維持 ・高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約30%が高齢者となっている	・路線バス、コミバス、ミニバスが運行 ・面的には既存の公共交通が高齢者の分布する地域をおおむねカバーしている	・公共交通を利用しない割合(77.1%)に対して、1ヶ月以内に複数回利用する割合は5.7%となっており、公共交通の利用頻度は低い ・移動手段は、「車（運転）」の利用が最も多く、半数以上を占めている	・「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にある ・他地区と比べて「乗り場まで遠い」ことが多く割合を占めている ・公共交通の利用において、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」等の情報が重視される
走 湯 地 区	・地区内の人口は、微減傾向にある ・高齢者割合は増加傾向にあり、近年は全体の約30%が高齢者となっている	・路線バス、ミニバスが運行 ・路線バスの廃止に伴い、ミニバスの運行区間の見直しが行われたが、既存の公共交通でおおむねの地域をカバーしている	・公共交通を利用しない割合(81.3%)に対して、1ヶ月以内に複数回利用する割合は12.5%となっており、公共交通の利用頻度は低い ・移動手段は、「車（運転）」の利用が最も多く、半数以上を占めている	・「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にある ・他地区と比べて「乗り場まで遠い」ことが多く割合を占めている ・公共交通の利用において、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」の情報が重視される
緑 川 地 区	・地区内の人口は、減少傾向 ・高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約40%が高齢者となっている	・鉄道、路線バス、ミニバスが運行 ・面的には既存の公共交通が多く、地域をカバーしている	・公共交通を利用しない割合(81.8%)に対して、1ヶ月以内に複数回利用する割合は9.1%となっており、公共交通の利用頻度は低い ・移動手段は、「車（運転）」の利用がほとんどの割合を占めている	・「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にある ・公共交通の利用において、「時刻表」や「運行ルートと通過バス停名」等の情報が重視される
網 津 地 区	・地区内の人口は、減少傾向 ・高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約40%が高齢者となっている	・鉄道、路線バス、ミニバスが運行 ・面的には既存の公共交通が多く、地域をカバーしている	・公共交通を利用しない割合は(82.1%)に対して、1ヶ月以内に複数回利用する割合は3.6%となっており、公共交通の利用頻度は低い ・移動手段は、「車（運転）」の利用が最も多く、半数以上を占めている	・「自家用車が楽」という理由により公共交通を利用しない傾向にある ・公共交通の利用において、「運賃」や「運行ルートと通過バス停名」等の情報が重視される
網 田 地 区	・地区内の人口は、減少傾向 ・高齢者割合も増加傾向にあり、近年は全体の約50%が高齢者となっている	・鉄道、路線バスが運行 ・乗合型のデマンド交通を導入	・公共交通を利用しない割合は60.0%と最も多いが「年に数回」の利用割合は他地域と比べると多い ・移動手段は、「車（運転）」の利用が最も多く、半数以上を占めている ・他地域と比べ、「JR」の利用が多く見られる	・「自家用車が楽」という理由や、「目的地まで直接行けない」ために公共交通を利用しない傾向にある ・公共交通の利用において、「運賃」や「運行ルートと通過バス停名」等の情報が重視される